

令和5年版

環境白書

資料編

資料編

第7 図表

1 脱炭素社会づくりの推進

図7-1	県内の温室効果ガス排出量の推移	1
表7-1	脱炭素社会推進資金（環境施設整備枠）の概要	1
表7-2	脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）の概要	2
表7-3	脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）の融資実績の推移	2
表7-4	公害防止施設等に対するその他融資制度の実績の推移	2

2 循環型社会づくりの推進

表7-5	ごみ処理状況の年度別推移	3
表7-6	容器包装リサイクル法に基づく分別収集量の年度別推移	3
表7-7	家電リサイクル法に基づく廃家電品の引取り台数	3
図7-2	産業廃棄物の地域別排出量（3年度）	4
表7-8	多量排出事業者の処理計画書等の提出状況（4年度）	4
表7-9	ごみ処理施設の整備状況	5
表7-10	し尿処理状況の年度別推移	6
表7-11	し尿処理施設の整備状況	6
表7-12	産業廃棄物処理施設の許可（届出）状況	7
表7-13	PCB特別措置法に基づく届出状況	7

3 自然環境の保全

表7-14	国立公園内における工作物の新築等に係る許認可取扱状況（4年度）	8
表7-15	国定公園内における工作物の新築等に係る許認可取扱状況（4年度）	8
表7-16	県立自然公園内における工作物の新築等に係る許認可取扱状況（4年度）	8
表7-17	富山県自然環境保全基金による土地保有状況	9
表7-18	県民公園新港の森の概要	9
表7-19	県民公園新港の森施設利用状況	10
表7-20	空港スポーツ緑地の概要	10
表7-21	空港スポーツ緑地施設利用状況	10
表7-22	立山山麓家族旅行村の主要施設	11
表7-23	登山届の概要	11
表7-24	愛鳥週間行事（4年度）	11
表7-25	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 による種の指定状況	12
表7-26	「富山県希少野生動植物保護条例」による種の指定状況	14
表7-27	野生鳥獣の救護活動実績（4年度）	14
表7-28	有害鳥獣捕獲等の状況（4年度）	14

表 7-29	狩猟者登録の実績（4年度）	14
--------	---------------	----

4 生活環境の保全

表 7-30	一般環境観測局の概要	15
表 7-31	二酸化硫黄濃度の年度別推移（年平均値）	16
表 7-32	二酸化硫黄に係る環境基準の達成状況	17
表 7-33	二酸化窒素濃度の年度別推移（年平均値）	18
表 7-34	二酸化窒素に係る環境基準の達成状況	19
表 7-35	浮遊粒子状物質濃度の年度別推移（年平均値）	20
表 7-36	浮遊粒子状物質に係る環境基準の達成状況	21
表 7-37	光化学オキシダント濃度の年度別推移（年平均値）	22
表 7-38	光化学オキシダントに係る環境基準の達成状況	23
表 7-39	炭化水素濃度の年度別推移（年平均値）	24
表 7-40	微小粒子状物質濃度の年度別推移（年平均値）及び長期基準の達成状況	25
表 7-41	微小粒子状物質に係る短期基準の達成状況	26
表 7-42	自動車排出ガス観測局の概要	26
表 7-43	二酸化窒素濃度の年度別推移（年平均値）	27
表 7-44	二酸化窒素に係る環境基準の達成状況	27
表 7-45	窒素酸化物濃度の年度別推移（年平均値）	28
表 7-46	浮遊粒子状物質濃度の年度別推移（年平均値）	29
表 7-47	浮遊粒子状物質に係る環境基準の達成状況	29
表 7-48	一酸化炭素濃度の年度別推移（年平均値）	30
表 7-49	一酸化炭素に係る環境基準の達成状況	30
表 7-50	炭化水素濃度の年度別推移（年平均値）	31
表 7-51	微小粒子状物質濃度の年度別推移（年平均値）及び長期基準の達成状況	32
表 7-52	微小粒子状物質に係る短期基準の達成状況	32
表 7-53	大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設数の年度別推移	32
表 7-54	大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設の届出状況	33
表 7-55	大気汚染防止法に基づく一般粉じん発生施設の届出状況	33
表 7-56	大気汚染防止法に基づく揮発性有機化合物（VOC）排出施設の届出状況	34
表 7-57	大気汚染防止法に基づく水銀排出施設の届出状況	35
表 7-58	大気汚染防止法に基づくアスベスト除去工事等作業の届出状況（4年度）	35
表 7-59	大気関係立入調査状況（4年度）	36
表 7-60	大気汚染緊急時の措置	37
表 7-61	環境放射能調査の結果	39
表 7-62	環境放射線モニタリングの結果	40
表 7-63	公共用水域の水域別測定地点数（4年度）	41
表 7-64	河川の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果（4年度）	42

表 7-65	河川の主要測定地点（環境基準点）における 水生生物環境基準項目の水質測定結果（4年度）	43
表 7-66	河川末端における水質（BOD）の年度別推移	44
表 7-67	湖沼の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果（4年度）	45
表 7-68	湖沼における水質（COD）の年度別推移	45
表 7-69	海域の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果（4年度）	46
表 7-70	海域における水質（COD）の年度別推移	47
表 7-71	水質汚濁防止法に基づく特定事業場の届出状況	48
表 7-72	水質関係立入検査状況（4年度）	48
表 7-73	公共用水域の主要測定地点における 全窒素・全りんの水質測定結果（4年度）	49
表 7-74	河川及び海域における要監視項目測定結果（4年度）	51
表 7-75	湖沼水質調査結果（4年度）	51
表 7-76	海水浴場水質調査結果（4年度）	52
表 7-77	底質（重金属等）調査結果（4年度）	53
表 7-78	立山環境調査（河川等環境調査）結果（4年度）	53
図 7-3	定置網漁場環境調査定点図（4年度）	54
表 7-79	定置網漁場環境調査の結果（4年度）	55
図 7-4	騒音・振動苦情の発生源別推移	56
図 7-5	一般地域の環境騒音の環境基準達成状況（4年度）	56
表 7-80	自動車騒音の環境基準達成状況	57
表 7-81	道路に面する地域の環境騒音調査結果（4年度）	57
表 7-82	航空機騒音の年度別推移	58
表 7-83	北陸新幹線鉄道に係る騒音調査結果（4年度）	59
表 7-84	騒音規制法に基づく特定施設の届出状況	60
表 7-85	公害防止条例に基づく騒音の届出工場・事業場の状況	60
表 7-86	騒音関係立入検査状況（4年度）	61
表 7-87	道路交通振動の調査結果（4年度）	61
表 7-88	振動規制法に基づく特定施設の届出状況	62
表 7-89	振動関係立入検査状況（4年度）	62
表 7-90	公害防止条例に基づく悪臭の届出工場・事業場の概要	63
表 7-91	畜産業の悪臭実態調査結果（4年度）	63
表 7-92	畜産環境保全実態調査結果（4年度）	63
表 7-93	畜産農家の定期巡回指導等の実施状況（4年度）	64
表 7-94	公害防止管理者等の選任届出状況	64
表 7-95	対策地域内の玄米及び土壌中カドミウム濃度（神通川流域）	65
表 7-96	対策地域内の玄米及び土壌中カドミウム濃度（黒部地域）	65
表 7-97	神通川流域における土地利用区分と面積（実測）	65

表 7-98	神通川流域における第1～3次地区の復旧方式等	65
表 7-99	黒部地域における土地利用区分と面積（実測）	66
表 7-100	黒部地域における対策地域の復旧方式等	66
表 7-101	土壌汚染対策法に基づく要措置区域及び形質変更時要届出区域の概要	66
表 7-102	地下水の水質測定地点数（4年度）	67
表 7-103	地下水の概況調査結果（4年度）	68
表 7-104	地下水の継続監視調査結果（4年度）	69
表 7-105	地下水の継続監視調査結果の推移	69
表 7-106	ダイオキシン類環境調査結果（4年度）	70
表 7-107	ダイオキシン類対策特別措置法に基づく特定施設の届出状況	74
表 7-108	公害防止事業に係る費用負担計画の概要（富岩運河底質対策）	76
表 7-109	有害大気汚染物質の調査概要（4年度）	77
表 7-110	その他優先取組物質の調査結果（4年度）	78
表 7-111	有害大気汚染物質濃度の年度別推移	79
表 7-112	ゴルフ場排水の農薬調査結果（4年度）	80
表 7-113	魚介類の水銀検査結果（4年度）	81
表 7-114	食品中のPCB検査結果（4年度）	81
表 7-115	公共下水道及び特定環境保全公共下水道の概要	82
図 7-6	下水道の普及率の推移	83
表 7-116	農村下水道（農業集落排水施設）の整備状況	84
表 7-117	コミュニティ・プラントの整備状況	85
表 7-118	浄化槽設置推進事業の状況	85
表 7-119	公害審査会に係属した事件	86
表 7-120	公害種類別苦情受理状況の年度別推移	86
表 7-121	典型7公害発生源別苦情受理状況（4年度）	87
表 7-122	市町村別・公害の種類別苦情受理状況（4年度）	88
表 7-123	苦情の処理状況（4年度）	89
表 7-124	「公害健康被害の補償等に関する法律」に基づく指定の内容	89
表 7-125	イタイイタイ病患者及び要観察者生存数	89

5 水資源の保全と活用

表 7-126	地下水観測井の位置と構造	90
表 7-127	地下水位年平均値の年度別推移	91
図 7-7	主な観測井の地下水位（月平均）	92
図 7-8	塩化物イオン濃度分布（4年度）	94
表 7-128	地下水条例に基づく揚水設備の届出状況	95
表 7-129	地下水採取状況（4年度）	96
表 7-130	消雪用等地下水利用実態調査結果（地下水区別）	97

図 7 - 9	消雪用等地下水利用実態調査結果（3年度地下水採取量）	97
---------	----------------------------	----

6 各分野に共通する施策の推進

表 7 - 131	環境影響評価の実施状況	98
表 7 - 132	県が企業と締結している公害防止協定	99
表 7 - 133	環境保全に関する試験・研究	100
表 7 - 134	環境保全相談室の活動状況（4年度）	105
表 7 - 135	酸性雨実態調査（雨水）の概要（4年度）	105
表 7 - 136	雨水のpH調査結果（4年度）	106
表 7 - 137	雨水のpHの年度別調査結果（一週間降雨ごと）	106
図 7 - 10	主要イオン成分沈着量、降水量の月別推移（4年度、射水市）	107
図 7 - 11	主要イオン成分沈着量の経年変化（射水市）	108
表 7 - 138	公益財団法人環日本海環境協力センター（NPEC）の事業概要（4年度）	109
表 7 - 139	環日本海地域との国際交流の概要（4年度）	111

第7 図表

1 脱炭素社会づくりの推進

図7-1 県内の温室効果ガス排出量の推移

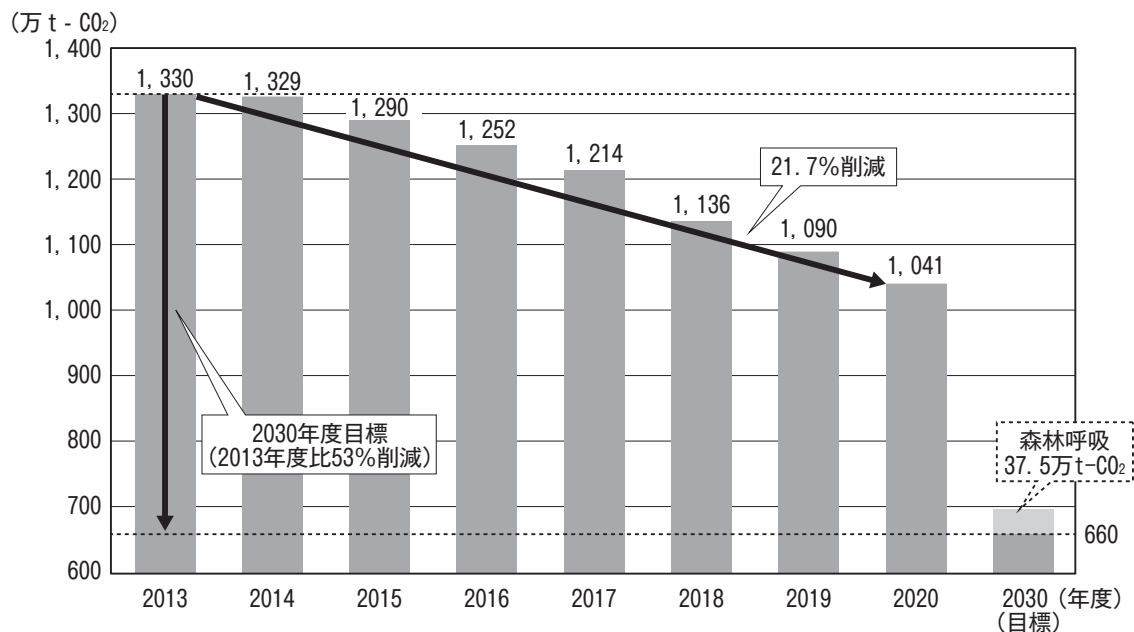


表7-1 脱炭素社会推進資金（環境施設整備枠）の概要

資金の用途	貸付対象者	金利	償還期限	融資限度額
(1) 公害防止施設の整備 (産業廃棄物の処理施設を含む)	中小企業者	年1.90%以内 (19.4.1～)	個別 7年以内 (うち据置1年以内)	個別 3,000万円
(2) 公害防止に必要な工場等の移転、工場に隣接する民家等の買収		年2.15%以内 (19.8.27～)		
(3) 公害防止又は工場等の周辺の景観保持のために必要な緑地・囲障等の設置		年1.90%以内 (20.1.28～)		
(4) 低公害車の購入		年1.70%以内 (27.4.1～)		
(5) 土砂運搬用トラックによる著しい道路の汚損又は粉じん発生の防止のために必要な洗車施設の設置及び路面清掃車の購入		年1.65%以内 (28.4.1～)		
(6) オゾン層を破壊する物質の排出の抑制及び使用の合理化のために必要な施設の整備等		※用途(4)・(10)については、 年1.35%以内 (21.4.1～)		
(7) 廃棄物の資源化及び再生利用のために必要な施設の整備		年1.15%以内 (27.4.1～)		
(8) 地下水の保全及び水の循環的な利用のために必要な施設の整備				
(9) 標高1,000m以上の自然公園内で実施する環境に配慮したトイレの整備				
(10) 温室効果ガスの排出の抑制のために必要な施設等の整備				
			団体 10年以内 (うち据置1年以内)	団体 5,000万円

注 中小企業環境施設整備資金は、3年4月1日から「脱炭素社会推進資金」に統合しています。

表7-2 脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）の概要

融 資 対 象	資金使途	融 資 条 件		
		限度額	期間 (うち据置期間)	融資利率 (令和5年4月1日現在)
再生可能エネルギー（太陽光、風力、中小水力、バイオマス、地熱）を利用した発電設備の導入を行う中小企業者	設備資金 (設備投資に伴う運転資金) ※運転資金のみの利用は不可	1億円 (うち運転資金 1,000万円)	設備資金 10年以内 (1年以内) 運転資金 5年以内 (1年以内)	年1.15%以内 ※太陽光売電 設備は年 1.30%以内

表7-3 脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）の融資実績の推移

種 類	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度	
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)
再生可能エネルギー 利用促進資金	0	0	0	0	1	9,350	0	0	0	0

表7-4 公害防止施設等に対するその他融資制度の実績の推移

種 類	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度	
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)
中小企業高度化資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
設備投資促進資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農業近代化資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 循環型社会づくりの推進

表7-5 ごみ処理状況の年度別推移

年度	総人口(人)	総排出量 (t/年)	回収量			焼却量 (t/年)	焼却率 (%)	資源化量 (t/年)	再生 利用率 (%)	埋立量 (t/年)
			計画収集量及び 直接搬入量	集団 回収量	民間事業者 による回収量					
29	1,070,287	421,043	381,313	26,392	13,338	304,804	74.8	111,776	26.5	38,273
30	1,064,456	420,443	380,742	25,250	14,443	300,373	74.0	112,312	26.7	38,290
元	1,057,439	420,962	381,510	23,302	16,150	305,191	75.4	109,240	26.0	34,243
2	1,048,898	412,391	379,067	18,637	14,687	300,523	75.6	105,382	25.6	39,041
3	1,038,997	406,434	372,965	18,581	14,888	297,189	75.9	102,502	25.2	35,628

表7-6 容器包装リサイクル法に基づく分別収集量の年度別推移

(単位：t)

区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
無 色 ガ ラ ス	1,944.3	1,804.7	1,834.8	1,747.0	1,700.4
茶 色 ガ ラ ス	2,095.5	1,943.9	1,846.4	1,786.8	1,721.2
そ の 他 ガ ラ ス	876.9	911.7	945.3	927.2	908.2
ペ ッ ト ボ ト ル	1,418.4	1,351.3	1,426.6	1,429.5	1,483.8
そ の 他 紙 製 容 器 包 装	1,851.6	2,203.3	2,066.4	1,593.3	1,700.0
その他プラスチック製容器包装	5,235.1	5,248.5	5,486.5	5,500.5	5,284.5
ス チ ー ル 缶	383.1	340.8	323.8	288.4	258.8
ア ル ミ 缶	993.6	900.5	882.1	797.2	783.7
紙 パ ッ ク	111.6	106.5	109.9	94.3	93.0
段 ボ ー ル	6,234.4	6,082.2	5,909.5	5,756.6	5,769.4
計	21,144.5	20,893.3	20,831.4	19,920.6	19,703.0

注 その他プラスチック製容器包装は、白色トレイを含めた量です。

表7-7 家電リサイクル法に基づく廃家電品の引取り台数

(単位：台数)

年 度	エアコン	テレビ	冷蔵庫	洗濯機	計
30	31,809	30,331	29,829	32,967	124,936
元	33,398	33,338	32,023	36,373	135,132
2	33,652	36,735	30,233	36,198	136,818
3	30,476	36,302	29,375	35,289	131,442
4	32,632	34,327	29,101	32,899	128,959

注 県内4か所の指定引取場所での引取り台数です。

図7-2 産業廃棄物の地域別排出量（3年度）

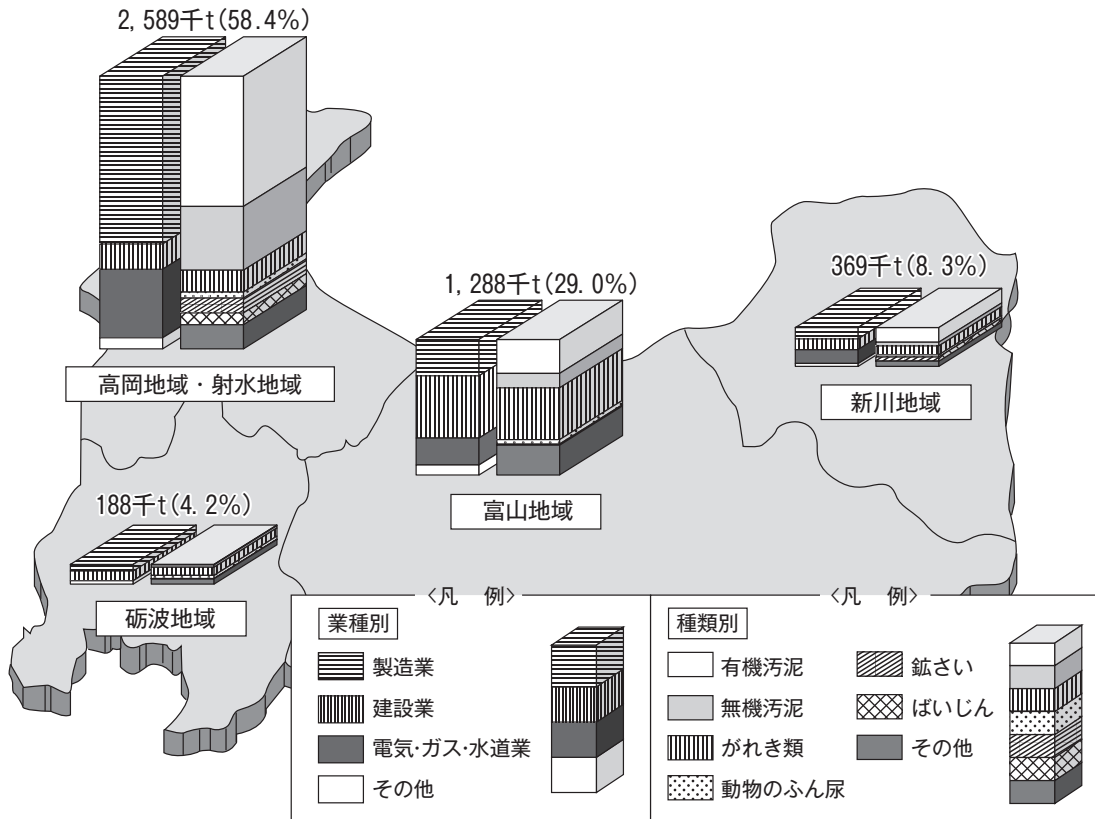


表7-8 多量排出事業者の処理計画書等の提出状況（4年度）

業種	産業廃棄物	特別管理産業廃棄物	計
製造業	65 (21)	46 (23)	111 (44)
建設業	97 (33)	1 (1)	98 (34)
電気・ガス・水道業	18 (4)	0 (0)	18 (4)
その他の業種	1 (1)	8 (4)	9 (5)
計	181 (59)	55 (28)	236 (87)

注1 提出事業者は、法に定める多量排出事業者（産業廃棄物の年間発生量が1,000 t 以上又は特別管理産業廃棄物の年間発生量が50 t 以上の事業者）を示します。

2 () は、富山市に提出があったものであり、内数です。

3 その他の業種は、鉱業、医療業などです。

4 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の両方の計画書を提出した事業所数は29（うち富山市14）です。

表7-9 ごみ処理施設の整備状況

① ごみ焼却施設

(5年4月1日現在)

広域圏	市 町 村 ・ 事 務 組 合	名 称	型 式	能力 (t/日)
富 山	富山地区広域圏事務組合 (富山市・滑川市・舟橋村・上市町・立山町)	クリーンセンター	全連続	810
高 岡	高岡地区広域圏事務組合 (高岡市・氷見市・小矢部市)	高岡広域エコ・クリーンセンター	全連続	255
新 川	新川広域圏事務組合 (魚津市・黒部市・入善町・朝日町)	エコぽ〜と	准連続	174
砺 波	砺波広域圏事務組合 (砺波市・南砺市)	クリーンセンターとなみ	全連続	90
射 水	射 水 市	クリーンピア射水	全連続	138
計		5 施設		1,467

② 粗大ごみ処理施設

(5年4月1日現在)

広域圏	市 町 村 ・ 事 務 組 合	名 称	型 式	能力 (t/日)
富 山	富山地区広域圏事務組合 (富山市・滑川市・舟橋村・上市町・立山町)	リサイクルセンター	破碎・選別・圧縮	70
高 岡	氷 見 市	氷見市不燃物処理センター	破 碎・選 別	20
新 川	新川広域圏事務組合 (魚津市・黒部市・入善町・朝日町)	宮沢清掃センター	破碎・選別・圧縮	40
砺 波	砺波広域圏事務組合 (砺波市・南砺市)	クリーンセンターとなみ 粗大ごみ処理プラント	破 碎・選 別	9
計		4 施設		139

③ 廃棄物再生利用施設 (リサイクルプラザ)

(5年4月1日現在)

広域圏	市 町 村 ・ 事 務 組 合	名 称	型 式	能力 (t/日)
富 山	富山地区広域圏事務組合 (富山市・滑川市・舟橋村・上市町・立山町)	リサイクルセンター	破碎・選別・圧縮	40.6
高 岡	氷 見 市	氷見市リサイクルプラザ	選 別・圧 縮	16
砺 波	砺波広域圏事務組合 (南砺市)	南砺リサイクルセンター	破碎・選別・圧縮	8
射 水	射 水 市	ミライクル館	破碎・選別・圧縮	8.74
計		4 施設		73.3

表7-10 し尿処理状況の年度別推移

年度	総人口 (人)	くみとり 便所 計画収集 人口(人)	水洗便所			衛生処理 人口(人)	収集内訳 (kL/年)			処理内訳 (kL/年)		
			浄化槽 基数 (基)	浄化槽 等人口 (人)	公 共 下 水 道 人口(人)		くみとり し 尿	浄 化 槽 汚 泥	計	し尿処理 施設	公共下水道 マンホ ール投入	農地還元 その他
29	1,070,287	36,615	43,983	179,647	854,025	1,070,287	24,353	89,912	114,265	85,874	28,391	0
30	1,064,456	33,346	43,064	172,706	858,404	1,064,456	22,671	87,768	110,439	83,947	26,492	0
元	1,057,439	31,788	42,159	167,130	858,521	1,057,439	21,208	85,016	106,224	80,044	26,180	0
2	1,048,898	28,717	39,162	160,653	859,528	1,048,898	19,453	84,798	104,251	79,272	24,979	0
3	1,038,997	28,627	38,369	165,963	844,407	1,038,997	18,557	86,013	104,570	79,799	24,771	0

表7-11 し尿処理施設の整備状況

(5年4月1日現在)

広域圏	市町村・事務組合	名 称	処理方式	能 力 (kL/日)
富山	富 山 市	つばき園	固液分離	90
	富山地区広域圏 事務組合 (富山市・滑川市・舟橋村・上市町・立山町)	富山地区広域圏衛生センター し尿処理棟	標準脱窒素	60
		富山地区広域圏衛生センター 汚泥処理棟	固液分離	50
高岡	高 岡 市	高岡市し尿処理施設	好気性消化	66
	氷 見 市	氷見市 クリーンセンター	直接脱水型 脱窒素	30
砺波	砺波地方衛生 施設組合 (高岡市・砺波市・小矢部市・南砺市)	クリーンシステムとなみ	直接脱水型 硝化脱窒素	55
射水	射 水 市	射水市衛生センター	低希釈二段 活性汚泥	116
計		7 施設		467

表7-12 産業廃棄物処理施設の許可（届出）状況

(5年3月31日現在)

施設区分	処理能力	施設数	施設区分	処理能力	施設数
汚泥の脱水施設	10m ³ /日を超える	59	廃プラスチック類の焼却施設	100kg/日を超える 火格子面積2m ² 以上	2
		14			8
汚泥の乾燥施設	10m ³ /日(天日乾燥施設にあっては100m ³ /日)を超える	4	木くず又はがれき類の破碎施設	5t/日を超える	123
		1			88
汚泥の焼却施設	5m ³ /日を超える 200kg/時間以上 火格子面積2m ² 以上	5	有害物質等のコンクリート固型化施設	すべて	1
		5	シアン化合物の分解施設	すべて	1
廃油の油水分離施設	10m ³ /日を超える	3	廃PCB等の分解施設	すべて	0
		3			0
廃油の焼却施設	1m ³ /日を超える 200kg/時間以上 火格子面積2m ² 以上	1	産業廃棄物の焼却施設(汚泥、廃油、廃プラスチック類以外の施設)	200kg/時間以上 火格子面積2m ² 以上	6
		5	最終処分場	安定型	6
		7			
廃酸又は廃アルカリの中和施設	50m ³ /日を超える	1		管理型	2
		2			9
廃プラスチック類の破碎施設	5t/日を超える	29	計		250
		25			169

注 上段は富山県の施設数、下段は富山市の施設数です。

表7-13 PCB特別措置法に基づく届出状況

(4年3月31日現在)

区 分	保管中	使用中
事業所数	419	239
数量		
変圧器(トランス) [台]	592	587
コンデンサー(3kg以上) [台]	432	24
コンデンサー(3kg未満) [台]	303	5
柱上変圧器(柱上トランス) [台]	27	0
安定器 [台]	7,408	1,401
その他PCBを含む油 [kg]	246,192	
感圧複写紙 [kg]	750	
ウエス [kg]	4,214	
汚泥 [kg]	11,929	
その他電気機械器具 [台]	270	100
その他 [kg]	222,991	

- 注1 県所管分と富山市所管分を合計した数値です。
 2 「その他PCBを含む油」のうち、容量で届出されたものは、1L=1kgとして重量に換算して集計しています。
 3 平成28年のPCB特別措置法の改正により廃棄物の種類が変更され、「高圧トランス」、「低圧トランス」が「変圧器(トランス)」に、「高圧コンデンサ」が「コンデンサー(3kg以上)」に、「低圧コンデンサ」が「コンデンサー(3kg未満)」に、「PCB」、「PCBを含む油」が「その他PCBを含む油」になりました。

3 自然環境の保全

表7-14 国立公園内における工作物の新築等に係る許認可取扱状況（4年度）
（単位：件）

国立公園	許可（協議・届出含）		認可（同意・協議含）	計
	大臣	知事		
中部山岳	50	33	16	99
白山	0	1	0	1
計	50	34	16	100

表7-15 国定公園内における工作物の新築等に係る許認可取扱状況（4年度）
（単位：件）

国定公園	許可（協議・届出含）	認可（承認）	計
能登半島	3	0	3

表7-16 県立自然公園内における工作物の新築等に係る許認可取扱状況（4年度）
（単位：件）

県立自然公園	許可（協議・届出含）	認可（同意・協議含）	計
朝日	2	1	3
有峰	13	5	18
五箇山	2	2	4
白木水無	1	2	3
医王山	3	1	4
僧ヶ岳	3	2	5
計	24	13	37

表7-17 富山県自然環境保全基金による土地保有状況

(5年3月31日現在) (単位：m²)

名 称	市町村	山 林 ①	その他 ②	計 ①+②	左のうち、県の持分	
					持分比	
朝日県立自然公園・朝日城山地内	朝日町	51,679.01	21,485.67	73,164.68	2/3	48,776.45
白木水無県立自然公園・杉ヶ平地内	富山市	378,896.00	0.00	378,896.00	3/4*	278,704.42
県民公園野鳥の園・古洞池	//	142,853.45	0.00	142,853.45	1/1	142,853.45
県民公園野鳥の園・恩坊池	射水市	30,720.00	577.00	31,297.00	1/1	31,297.00
能登半島国定公園・雨晴園地	高岡市	2,113.00	8,065.11	10,178.11	2/3	6,785.41
縄ヶ池・若杉自然環境保全地域内	南砺市	126,916.00	0.00	126,916.00	2/3	84,610.67
五箇山県立自然公園・相倉地内	//	712.00	22,552.41	23,264.41	2/3	15,509.61
五箇山県立自然公園・西赤尾地内	//	172,250.76	8,195.44	180,446.20	2/3	120,297.47
医王山県立自然公園内	//	379,249.62	2,268.00	381,517.62	2/3*	245,422.28
能登半島国定公園・九殿浜・窪地内	氷見市	2,751.00	5,214.00	7,965.00	2/3	5,310.00
小 計		1,288,140.84	68,357.63	1,356,498.47	—	979,566.76
県民公園野鳥の園	富山市	52,394.00	地上権設定	52,394.00	1/1	52,394.00
合 計		1,340,534.84	68,357.63	1,408,892.47	—	1,031,960.76

注 ※：他の持ち分比率の場合があります。

表7-18 県民公園新港の森の概要

施設名	概 要
野 球 場	1 規模 両翼90m、センター120m 2 施設 バックスクリーン、スコアボード、バックネット、ダッグアウト、放送設備等
スポーツ広場	1 規模 300mトラック（6コース）相当、直線コース125m 2 施設 跳躍、投てき、サッカー、ゲートボール、ソフトボール
テニスコート	クレイコート4面
駐 車 場	4か所（乗用車約200台駐車）
そ の 他	管理事務所1棟、園路遊歩道6,400m、芝生広場10か所（27,000m ² ）、植栽約11万本（160,000m ² ）、休憩所32か所、便所5か所、公衆電話など

表7-19 県民公園新港の森施設利用状況

(単位：人)

年 度		30	元	2	3	4
入 園 者 数		112,800	124,300	118,500	131,500	141,750
施設 利用 人員	野 球 場	9,760	16,106	10,560	10,665	12,694
	テニスコート	2,529	2,029	1,152	2,017	1,728
	スポーツ広場	5,805	3,885	1,800	3,835	4,370
	計	18,094	22,020	13,512	16,517	18,792

表7-20 空港スポーツ緑地の概要

地区	主な施設	面積(ha)	特 徴
A地区	陸上競技場 お祭り広場 その他	3.5	トラックはウレタンチップ系全天候型舗装。 カラーアスファルト舗装。イベントの会場としても利用可能。 園路、植栽地等。
B地区	庭球場 入口広場 展望広場 芝生スロープ せせらぎ広場 その他	3.3	砂入り人工芝コートが6面ある。 空港スポーツ緑地の「玄関」となる広場。 小高い丘の上であり、飛行機の離着陸が眺められる。 なだらかな芝生のスロープ。冬はミニスキーに利用できる。 長さ208.5mに及ぶ溝、流れ、池がある。 園路、植栽地等。
C地区	インクルーシブひろば 芝生広場 駐車場 その他	2.9	障がいのある子もいない子も一緒に遊べる広場。 多目的に利用できる広々とした芝生の広場。 自動車57台が駐車可能。 園路、植栽地等。
D地区	林間広場 緑陰広場 レインボープラザ 駐車場 その他	1.7	ダスト舗装の広場に高木の林。 芝生の広場。 7色のシャワーモニュメントを配したサンクス広場。 自動車26台駐車可能。 園路、植栽地等。
E地区	児童遊園場 駐車場	1.8	築山、砂場等。
計		13.2	

表7-21 空港スポーツ緑地施設利用状況

(単位：人)

年 度		30	元	2	3	4
入 園 者 数		84,609	85,629	67,672	68,332	82,759
施設 利用 人員	陸上競技場	12,626	12,336	7,298	9,000	13,976
	庭 球 場	11,013	10,644	8,287	8,013	10,096
	計	23,639	22,980	15,585	17,013	24,072

表7-22 立山山麓家族旅行村の主要施設

地 区	主 要 施 設
中央管理地区	管理棟（鉄筋コンクリート平屋建、343m ² ）、休憩所（合掌造）、駐車場（60台収容）、芝生広場（7,890m ² ）、イベント広場
ファミリー広場	芝生広場（7,269m ² ）、遊水池、パークゴルフコース
野 外 広 場	オートキャンプサイト（32区画）、バーベキュー卓、炊事棟、多目的ハウス、シャワー棟、遊具
宿泊施設地区	ケビン（4人用15棟、8人用5棟）、バーベキュー卓
森 の 広 場	芝生広場（9,200m ² ）、展望広場、ロックガーデン

表7-23 登山届の概要

（4年12月1日～5年5月15日）

区 分	12月1日 ～2月末日	3月1日 ～4月15日	4月16日 ～5月15日	計
登 山 届	23パーティー (86人)	26パーティー (101人)	168パーティー (432人)	217パーティー (619人)

表7-24 愛鳥週間行事（4年度）

月日	行 事 名	場 所	行 事 内 容	備 考
5月10日 (火)	ヒナを拾わないDAY	富山市婦中町 吉住 自然博物館 「ねいの里」	音川保育所の園児を対象に、救護されている野鳥の様子や巣箱の中の観察等を行い、野鳥に対する理解を深めてもらう。	
5月13日 (金)	野生生物愛護表彰式	県庁4階 大会議室	第68回愛鳥ポスターの入賞者の表彰、やせいの生きものふれあいモデル校の指定証の交付を行う。 ・愛鳥ポスター入賞者ほか (富山県知事賞、富山県教育委員会教育長賞)	入選ポスターの展示は県HP及び6月8日～6月30日に自然博物館「ねいの里」で実施
5月14日 (土)	野鳥観察の日	呉羽山	富山短期大学幼児教育学科の学生を対象に、野鳥を中心とした自然教室を開き、野外教育のあり方を体験してもらう。	雨天により大学で講義を実施
5月15日 (日)	探鳥の日	富山市三熊 野鳥の園 (古洞池)	愛鳥思想の普及、高揚を図るため、広く一般の方を対象にバードウォッチングを開催し、野鳥に対する正しい理解を深めてもらう。(第56回) 共 催：日本鳥類保護連盟富山県支部等	
週 間 中	野鳥相談	富山市婦中町 吉住 自然博物館 「ねいの里」	自然博物館「ねいの里」で、野鳥に関する各種相談に応じる。 共 催：自然博物館「ねいの里」	

表7-25 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」による種の指定状況
(5年3月31日現在)

指定年月日区分	種名	レッドデータブック とやま2012掲載種
H5年2月10日 鳥類	アホウドリ、チシマウガラス、コウノトリ、トキ、シジュウカラガン、オオタカ*、イヌワシ、オガサワラノスリ、オジロワシ、オオワシ、カンムリワシ、クマタカ、シマハヤブサ、ハヤブサ、ライチョウ、タンチョウ、ヤンバルクイナ、アマミヤマシギ、カラフトアオアシシギ、エトピリカ、ウミガラス、キンバト、アカガシラカラスバト、ヨナクニカラスバト、シマフクロウ、オーストンオオアカゲラ、ミユビゲラ、ノグチゲラ、ヤイロチョウ、アカヒゲ、ホントウアカヒゲ、ウスアカヒゲ、オオトラツグミ、オオセッカ、ハハジマメグロ、オガサワラカワラヒワ ※29年9月21日削除	トキ オオタカ イヌワシ オジロワシ オオワシ クマタカ ハヤブサ ライチョウ ウミガラス ヤイロチョウ
6年1月28日 哺乳類 魚類 昆虫類 植物	ツシマヤマネコ、イリオモテヤマネコ ミヤコタナゴ ベッコウトンボ レブンアツモリソウ、キタダケソウ	
7年2月18日 爬虫類 両生類 魚類 植物	キクザトサワヘビ アベサンショウウオ イタセンパラ ハナシノブ	イタセンパラ
8年1月18日 昆虫類	ヤシャゲンゴロウ、ヤンバルテナガコガネ、ゴイシツバメシジミ	
9年9月5日 植物	ホテИАツモリ、アツモリソウ	アツモリソウ
9年11月27日 鳥類	ワシミミズク	
11年11月25日 植物	アマミデンダ、ヤドリコケモモ、コゴメキノエラン	
14年8月7日 魚類 昆虫類 植物	スイゲンゼニタナゴ イシガキニイニイ チョウセンキバナアツモリソウ、オキナワセッコク、クニガミトンボソウ	
16年7月2日 哺乳類 魚類 植物	ダイトウオオコウモリ、アマミノクロウサギ アユモドキ ムニンツツジ、ムニンノボタン、アサヒエビネ、ホシツルラン、シマホザキラン、タイヨウフウトウカズラ、コバトベラ、ウラジロコムラサキ	
20年7月25日 昆虫類 植物	オガサワラハンミョウ、オガサワラシジミ、オガサワラトンボ、オガサワラアオイトトンボ、ハナダカトンボ ヒメタニワタリ、コヘラナレン、シマカコソウ、ウチダシクロキ	
21年12月2日 哺乳類	オガサワラオオコウモリ	
23年3月18日 昆虫類	マルコガタノゲンゴロウ、フチトリゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキ、ヨナグニマルバネクワガタ、ヒョウキンモドキ	シャープゲンゴロウモドキ
24年4月20日 植物	ウラジロヒカゲツツジ、シモツケコウホネ、カッコソウ	

指定年月日区分	種 名	レッドデータブック とやま2012掲載種
27年4月15日 爬虫類 昆虫類 陸産貝類 植 物	クロイトカゲモドキほか4種 オガサワラナガタムシほか15種 アニジマカタマイマイほか13種 ナガミカズラほか5種	
27年11月11日 両生類	アマクササンショウウオほか3種	
28年2月24日 哺乳類 爬虫類 両生類 昆虫類 植 物	ケナガネズミほか3種 ミヤコカナヘビ ホルストガエルほか5種 フサヒゲルリカミキリほか7種 サキシマハブカズラほか21種	
28年12月14日 昆 虫 陸産貝類 甲殻類 植 物	クメジマボタルほか1種 アマノヤマタカマイマイほか2種 カクレサワガニほか3種 オキナワテンナンショウほか23種	
29年9月1日 鳥 類	ヘラシギ チュウヒ シマアオジ	チュウヒ
30年1月26日 昆虫類 貝 類 植 物	タカネギマダラセセリ赤石山脈亜種ほか2種 オオアガリマイマイほか1種 ツルギテンナンショウほか44種	
31年1月18日 哺乳類 鳥 類 爬虫類 両生類 魚 類 昆虫類 甲殻類 植 物	エラブオオコウモリほか2種 クロコシジロウミツバメほか1種 ケラマトカゲモドキ コガタハナサキガエルほか1種 ハカタスジシマドジョウほか2種 ヒサマツサイカブトほか1種 オガサワラヌマエビほか1種 カラフトグワイほか20種	クモマキンポウゲ
R2年1月22日 哺乳類 鳥 類 爬虫類 両生類 魚 類 昆虫類 陸産貝類 植 物	オリイコキクガシラコウモリほか2種 クロツラヘラサギほか4種 サキシマカナヘビほか2種 トウキョウサンショウウオ セボシタビラほか2種 リュウキュウヒメミズスマシほか3種 オモイガケナマイマイほか10種 ヒュウガヒロハテンナンショウほか32種	クロツラヘラサギ オオヨシゴイ タガメ
2年12月16日 鳥 類 昆虫類 陸産貝類 植 物	アカモズ 台湾ンタイコウチほか1種 サダマイマイほか17種 キタカミヒョウタンボクほか17種	アカモズ タカネキンポウゲ
4年1月4日 両生類 二枚貝類 植 物	アブサンショウウオほか25種 カワシンジュガイほか1種 シマトウヒレンほか3種	ハクバサンショウ ウオ ヒゲナガコメスス キ
4年12月23日 両生類 昆虫類 甲殻類 植 物	ホームラハコネサンショウウオ ゲンゴロウほか7種 ニホンザリガニ タカネマンテマほか4種	ゲンゴロウ マルガタゲンゴロウ コバンムシ コヒョウモンモドキ

表7-26 「富山県希少野生動植物保護条例」による種の指定状況
(5年3月31日現在)

指定年月日	種名
H27年4月22日 淡水魚類	ミナミアカヒレタビラ
27年5月29日 両生類 維管束植物	ホクリクサンショウウオ、ハクバサンショウウオ サギソウ、フクジュソウ

表7-27 野生鳥獣の救護活動実績(4年度)

区分	鳥類		獣類		計	
	種類数	救護羽数	種類数	救護頭数	種類数	救護数
富山県鳥獣保護センター	18	33	2	9	20	42

表7-28 有害鳥獣捕獲等の状況(4年度)

種類(鳥類)	捕獲数(羽)	種類(獣類)	捕獲数(頭)
カラス	3,744	イノシシ	4,437
カワウ	554	ニホンザル	258
ムクドリ	0	ツキノワグマ	60
カルガモ	0	ハクビシン	28
アオサギ	54	ニホンジカ	332
ドバト	157	ノウサギ	0
ゴイサギ	0	タヌキ	11
		アライグマ	0
計	4,509	計	5,126

注1 イノシシ、ニホンザル、ツキノワグマ、ニホンジカ、カワウは特定計画に基づくものです。

2 イノシシ、ニホンジカの捕獲数は指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲数を含む。

表7-29 狩猟者登録の実績(4年度)

(単位：人)

区分	県内者	県外者	計	
免許の種類	網 猟	61	0	61
	わ な 猟	457	2	459
	第1種銃猟	568	59	627
	第2種銃猟	28	0	28
計	1,114	61	1,175	

注 網 猟：網
わ な 猟：わな
第1種銃猟：ライフル銃、散弾銃及び空気銃
第2種銃猟：空気銃

4 生活環境の保全

表7-30 一般環境観測局の概要

(5年3月現在)

区分	市 町	観 測 局	所 在 地	設置年度	調査機関	測 定 項 目 等
富 山 地 域	富 山 市	富 山 水 橋	水 橋 畠 等	S50	市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二酸化硫黄（紫外線蛍光法） ・ 浮遊粒子状物質（β線吸収法） ・ 窒素酸化物（オゾンを用いる化学発光法） ・ 光化学オキシダント（紫外線吸収法） ・ 炭化水素（水素炎イオン化法） ・ 微小粒子状物質（β線吸収法） ・ 風向風速（光パルス式） ・ テレメータ化
		富 山 岩 瀬	蓮 町	S42	市	
		富 山 芝 園	安 野 屋 町	H 3	市	
		富 山 蝮 川	赤 田	S48	市	
		婦 中 速 星	婦中町笹倉	S48	市	
滑 川 市	滑 川 上 島	上 島	H 3	県		
高岡・射水地域	高 岡 市	高 岡 伏 木	伏木東一宮	S42	県	
	氷 見 市	氷 見	窪	H 4	県	
	射 水 市	新 湊 海 老 江	東 明 中 町	S48	県、市	
		小 杉 太 閤 山	中 太 閤 山	S47	県	
新川地域	魚 津 市	魚 津	北 鬼 江	H 3	県	
	黒 部 市	黒 部 植 木	植 木	H 4	県、市	
	入 善 町	入 善	入 膳	H 3	県	
砺波・小矢部地域	砺 波 市	砺 波	太 田	H 4	県	
	小 矢 部 市	小 矢 部	泉 町	H 4	県	
	南 砺 市	福 野	柴 田 屋	H 4	県	
計	16					

注 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に観測局を統廃合し、高岡本丸、高岡戸出及び新湊三日曾根を廃止しました。

表7-31 二酸化硫黄濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：ppm）

観測局			年 度				
			30	元	2	3	4
富山地域	富山市	富山岩瀬	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
		富山芝園	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
		富山蜷川	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
		婦中速星	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
高岡・射水地域	高岡市	高岡伏木	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
		高岡本丸	0.000				
	氷見市	氷見	0.000				
		射水市	新湊三日曾根	0.000			
	新湊海老江		0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	小杉太閤山		0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
新川地域	魚津市	魚津	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001
	黒部市	黒部植木	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	入善町	入善	0.001				
砺波地域	小矢部市	小矢部	0.001	0.001	0.000	0.001	0.000
	南砺市	福野	0.001	0.001	0.000	0.001	0.001
年平均値			0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
範囲 (最小値～最大値)			0.000 ～ 0.002	0.000 ～ 0.001	0.000 ～ 0.001	0.000 ～ 0.001	0.000 ～ 0.001

注1 測定は紫外線蛍光法によります。

注2 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に高岡本丸、氷見、新湊三日曾根及び入善の測定を終了しました。

表7-32 二酸化硫黄に係る環境基準の達成状況

観測局	項目	基準	1日平均値の2%除外値 (ppm)					長期的評価による適(O)、否(X)					短期的評価による適(O)、否(X)					
			0.04ppm以下であること					30	元	2	3	4	30	元	2	3	4	
			30	元	2	3	4											
富山地域	富山市	富山岩瀬	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		富山芝園	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		富山蜷川	0.001	0.001	0.001	0.002	0.001	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		婦中速星	0.001	0.001	0.001	0.000	0.001	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高岡・射水地域	高岡市	高岡伏木	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	○	○	○	—	○	○	○	○	—	○	
		高岡本丸	0.002					○					○					
	氷見市	氷見	0.001					○					○					
		射水市	新湊三日曾根	0.001					○					○				
	新湊海老江		0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	小杉太閤山		0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
新川地域	魚津市	魚津	0.004	0.003	0.001	0.001	0.002	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	黒部市	黒部植木	0.001	0.001	0.000	0.001	0.001	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	入善町	入善	0.002					○					○					
叡小笠原地域	小矢部市	小矢部	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	南砺市	福野	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
年平均値			0.002	0.002	0.001	0.001	0.001											
範囲 (最小値～最大値)			0.001 ～ 0.004	0.001 ～ 0.003	0.000 ～ 0.001	0.000 ～ 0.002	0.001 ～ 0.002											

- 注1 測定は紫外線蛍光法によります。
- 2 長期的評価による適(O)とは、年間にわたる1日平均値のうち、高い方から2%の範囲にあるものを除外した後の最大値が0.04ppm以下であり、かつ、年間を通じて1日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続しないことをいいます。
- 3 短期的評価による適(O)とは、1時間値の1日平均値がすべての有効測定日(1日20時間以上の測定が行われた日をいいます。)で0.04ppm以下であり、かつ、1時間値がすべての測定時間において0.1ppm以下であることをいいます。
- 4 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画(31年4月)」に基づき、元年度に高岡本丸、氷見、新湊三日曾根及び入善の測定を終了しました。
- 5 3年度の高岡伏木については、測定機器の故障により、年間の有効測定日数が250日未満のため、測定結果は参考値として扱い、環境基準の評価対象としません。

表7-33 二酸化窒素濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：ppm）

観測局			年 度				
			30	元	2	3	4
富山地域	富山市	富山岩瀬	0.007	0.006	0.006	0.006	0.005
		富山芝園	0.007	0.006	0.006	0.005	0.004
		婦中速星	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003
高岡・射水地域	高岡市	高岡伏木	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
		高岡本丸	0.006				
	氷見市	氷見	0.004	0.003	0.002	0.002	0.002
	射水市	新湊三日曾根	0.005				
		新湊海老江	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
		小杉太閤山	0.006	0.006	0.005	0.005	0.004
新川地域	魚津市	魚津	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003
	黒部市	黒部植木	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003
	入善町	入善	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004
叡尖部	小矢部市	小矢部	0.004	0.004	0.003	0.004	0.003
	南砺市	福野	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003
年平均値			0.005	0.005	0.004	0.004	0.004
範囲 (最小値～最大値)			0.004 ～ 0.007	0.003 ～ 0.006	0.002 ～ 0.006	0.002 ～ 0.006	0.002 ～ 0.005

注1 測定は、オゾンを用いる化学発光法によります。

注2 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に高岡本丸及び新湊三日曾根の測定を終了しました。

表7-34 二酸化窒素に係る環境基準の達成状況

観測局			項目	1日平均値の98%値 (ppm)					長期的評価による 適 (○)、否 (×)				
			基準	0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること									
			年度	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4
富山地域	富山市	富山岩瀬	0.013	0.015	0.016	0.013	0.012	○	○	○	○	○	
		富山芝園	0.014	0.014	0.017	0.013	0.010	○	○	○	○	○	
		婦中速星	0.007	0.008	0.010	0.009	0.007	○	○	○	○	○	
高岡・射水地域	高岡市	高岡伏木	0.010	0.011	0.010	0.010	0.009	○	○	○	○	○	
		高岡本丸	0.014					○					
	氷見市	氷見	0.008	0.007	0.007	0.006	0.006	○	○	○	○	○	
	射水市	新湊三日曾根	0.013					○					
		新湊海老江	0.011	0.014	0.015	0.012	0.011	○	○	○	○	○	
		小杉太閤山	0.013	0.014	0.014	0.012	0.010	○	○	○	○	○	
新川地域	魚津市	魚津	0.010	0.010	0.010	0.009	0.008	○	○	○	○	○	
	黒部市	黒部植木	0.010	0.010	0.011	0.008	0.008	○	○	○	○	○	
	入善町	入善	0.009	0.010	0.009	0.008	0.008	○	○	○	○	○	
礪波尖部地域	小矢部市	小矢部	0.010	0.010	0.011	0.010	0.008	○	○	○	○	○	
	南砺市	福野	0.008	0.009	0.011	0.009	0.007	○	○	○	○	○	
年平均値			0.011	0.011	0.012	0.010	0.009	○	○	○	○	○	
範囲 (最小値～最大値)			0.007 ～ 0.014	0.007 ～ 0.015	0.007 ～ 0.017	0.006 ～ 0.013	0.006 ～ 0.012						

注1 測定は、オゾンを用いる化学発光法によります。

2 長期的評価の適 (○) とは、年間にわたる1時間値の1日平均値のうち、低い方から数えて98%目にあたる値が、0.04ppmから0.06ppmのゾーン内又はそれ以下であることをいいます。

3 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画 (31年4月)」に基づき、元年度に高岡本丸及び新湊三日曾根の測定を終了しました。

表7-35 浮遊粒子状物質濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：mg/m³）

観測局		年 度		30	元	2	3	4																
		富 山 水 橋	富 山 岩 瀬	富 山 芝 園	富 山 蜷 川	婦 中 速 星	滑 川 上 島	高 岡 伏 木	高 岡 本 丸	高 岡 戸 出	氷 見 見	新 湊 三 日 曾 根	新 湊 海 老 江	小 杉 太 閣 山	魚 津 津	黒 部 植 木	入 善 善	砺 波 波	小 矢 部	南 砺 野	年 平 均 値	範 囲 (最小値 ~ 最大値)		
富 山 地 域	富 山 市	富 山 水 橋	0.015	0.012	0.012	0.011	0.010																	
		富 山 岩 瀬	0.015	0.013	0.012	0.010	0.010																	
		富 山 芝 園	0.014	0.012	0.012	0.010	0.010																	
		富 山 蜷 川	0.013	0.012	0.011	0.008	0.007																	
		婦 中 速 星	0.011	0.010	0.010	0.009	0.010																	
	滑 川 市	滑 川 上 島	0.011																					
高 岡 ・ 射 水 地 域	高 岡 市	高 岡 伏 木	0.020	0.018	0.019	0.021	0.011																	
		高 岡 本 丸	0.012																					
		高 岡 戸 出	0.010																					
	氷 見 市	氷 見 見	0.012	0.011	0.012	0.010	0.010																	
	射 水 市	新 湊 三 日 曾 根	0.013																					
		新 湊 海 老 江	0.011	0.008	0.009	0.007	0.007																	
小 杉 太 閣 山		0.019	0.016	0.016	0.015	0.016																		
新 川 地 域	魚 津 市	魚 津 津	0.024	0.018	0.011	0.010	0.011																	
	黒 部 市	黒 部 植 木	0.008	0.006	0.007	0.007	0.009																	
	入 善 町	入 善 善	0.010	0.009	0.011	0.008	0.008																	
砺 波 ・ 小 矢 部 地 域	砺 波 市	砺 波 波	0.017																					
	小 矢 部 市	小 矢 部	0.014	0.012	0.013	0.012	0.012																	
	南 砺 市	福 野	0.014	0.013	0.013	0.012	0.011																	
年平均値			0.014	0.012	0.012	0.011	0.010																	
範 囲 (最小値 ~ 最大値)			0.008 ~ 0.024	0.006 ~ 0.018	0.007 ~ 0.019	0.007 ~ 0.021	0.007 ~ 0.016																	

注1 測定は、β線吸収法によります。

注2 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に滑川上島、高岡本丸、高岡戸出、新湊三日曾根及び砺波の測定を終了しました。

表7-36 浮遊粒子状物質に係る環境基準の達成状況

観測局	項目	基準	1日平均値の2%除外値(mg/m ³)					長期的評価による適(O)、否(X)					短期的評価による適(O)、否(X)							
			0.10mg/m ³ 以下であること					30	元	2	3	4	30	元	2	3	4			
			30	元	2	3	4													
富山地域	富山市	富山水橋	0.040	0.031	0.038	0.028	0.027	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		富山岩瀬	0.038	0.032	0.039	0.024	0.024	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		富山芝園	0.035	0.030	0.034	0.025	0.028	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		富山蜷川	0.035	0.035	0.035	0.023	0.021	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		婦中速星	0.031	0.028	0.030	0.023	0.028	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
滑川市	滑川上島	0.032					○					○								
高岡・射水地域	高岡市	高岡伏木	0.042	0.040	0.041	0.036	0.026	○	○	○	-	○	○	○	○	-	○			
		高岡本丸	0.034					○					○							
		高岡戸出	0.036					○					○							
	射水市	氷見	0.031	0.027	0.030	0.023	0.023	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		新湊三日曾根	0.034					○					○							
新湊海老江		0.033	0.026	0.029	0.018	0.017	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	小杉太閤山	0.048	0.036	0.038	0.033	0.032	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○				
新川地域	魚津市	魚津	0.049	0.040	0.032	0.026	0.026	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	黒部市	黒部植木	0.031	0.018	0.020	0.019	0.026	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	入善町	入善	0.025	0.020	0.030	0.023	0.021	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
砺波・小矢部地域	砺波市	砺波	0.042					○					○							
	小矢部市	小矢部	0.037	0.032	0.036	0.026	0.027	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○			
	南砺市	福野	0.032	0.035	0.035	0.027	0.026	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○			
年平均値			0.036	0.031	0.033	0.025	0.025													
範囲 (最小値～最大値)			0.025 ～ 0.049	0.018 ～ 0.040	0.020 ～ 0.041	0.018 ～ 0.036	0.017 ～ 0.032													

- 注1 測定は、β線吸収法によります。
- 2 長期的評価による適(O)とは、年間にわたる1日平均値のうち、高い方から2%の範囲内にあるものを除外した後の最大値が0.10mg/m³以下であり、かつ、年間を通じて1日平均値が0.10mg/m³を超える日が2日間以上連続しないことをいいます。
- 3 短期的評価による適(O)とは、1時間値の1日平均値がすべての有効測定日(1日20時間以上の測定が行われた日)をいいます。)で0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値がすべての測定時間において0.20mg/m³以下であることをいいます。
- 4 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画(31年4月)」に基づき、元年度に滑川上島、高岡本丸、高岡戸出、新湊三日曾根及び砺波の測定を終了しました。
- 5 3年度の高岡伏木については、測定機器の故障により、年間の有効測定日数が250日未満のため、測定結果は参考値として扱い、環境基準の評価対象としません。

表7-37 光化学オキシダント濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：ppm）

観測局		年 度		30	元	2	3	4
富山地域	富山市	富山水橋		0.034	0.033	0.034	0.034	0.033
		富山岩瀬		0.034	0.033	0.033	0.034	0.034
		富山芝園		0.033	0.032	0.032	0.033	0.032
		富山蜷川		0.032	0.031	0.030	0.033	0.034
		婦中速星		0.031	0.030	0.030	0.032	0.031
	滑川市	滑川上島		0.033	0.031	0.032	0.034	0.033
高岡・射水地域	高岡市	高岡伏木		0.037	0.036	0.035	0.037	0.037
		高岡本丸		0.035				
		高岡戸出		0.034				
	氷見市	氷見		0.035	0.033	0.031	0.033	0.032
	射水市	新湊三日曾根		0.033				
		新湊海老江		0.035	0.034	0.034	0.035	0.034
小杉太閤山			0.032	0.029	0.031	0.032	0.030	
新川地域	魚津市	魚津		0.037	0.035	0.034	0.037	0.037
	黒部市	黒部植木		0.035	0.033	0.034	0.036	0.035
	入善町	入善		0.036	0.035	0.035	0.036	0.036
砺波・小矢部地域	砺波市	砺波		0.032	0.032	0.033	0.033	0.032
	小矢部市	小矢部		0.033	0.031	0.032	0.033	0.032
	南砺市	福野		0.033	0.031	0.032	0.035	0.034
年平均値				0.034	0.032	0.032	0.034	0.033
範囲 (最小値～最大値)				0.031 ～ 0.037	0.029 ～ 0.036	0.030 ～ 0.035	0.032 ～ 0.037	0.030 ～ 0.037

注1 測定は、紫外線吸収法によります。

注2 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に高岡本丸、高岡戸出及び新湊三日曾根の測定を終了しました。

表7-38 光化学オキシダントに係る環境基準の達成状況

観測局	項目	基準	1時間値の最高値 (ppm)					昼間 (5時~20時) の1時間値が環境基準を達成した時間の割合 (%)				
			0.06ppm以下であること					30	元	2	3	4
			30	元	2	3	4					
富山地域	富山市	富山水橋	0.085	0.101	0.083	0.077	0.084	94.6	95.3	95.8	96.9	95.5
		富山岩瀬	0.086	0.101	0.085	0.079	0.091	94.0	94.4	96.1	97.1	93.8
		富山芝園	0.087	0.099	0.080	0.080	0.086	94.5	95.3	96.4	98.0	95.4
		富山蜷川	0.087	0.094	0.079	0.074	0.086	95.3	96.8	97.7	99.0	95.4
		婦中速星	0.088	0.100	0.083	0.078	0.107	94.8	95.5	96.0	98.4	94.2
	滑川市	滑川上島	0.092	0.102	0.089	0.082	0.090	93.6	93.9	95.1	95.4	94.5
高岡・射水地域	高岡市	高岡伏木	0.087	0.101	0.082	0.086	0.091	92.6	93.7	95.4	95.6	94.0
		高岡本丸	0.089					92.7				
		高岡戸出	0.094					93.0				
	氷見市	氷見	0.092	0.095	0.083	0.079	0.087	92.2	93.5	96.5	96.7	94.3
	射水市	新湊三日曾根	0.087					93.0				
		新湊海老江	0.084	0.099	0.084	0.082	0.087	94.4	95.2	95.8	96.5	95.0
小杉太閤山		0.098	0.099	0.081	0.080	0.086	91.7	94.7	95.9	96.8	94.8	
新川地域	魚津市	魚津	0.097	0.105	0.087	0.085	0.090	92.4	93.9	95.4	93.8	93.8
	黒部市	黒部植木	0.086	0.098	0.081	0.083	0.087	94.7	96.0	96.8	95.9	94.9
	入善町	入善	0.092	0.104	0.085	0.083	0.088	93.0	95.0	96.1	96.0	94.4
砺波・小矢部地域	砺波市	砺波	0.086	0.107	0.087	0.082	0.084	95.1	95.7	95.3	96.8	96.0
	小矢部市	小矢部	0.094	0.114	0.085	0.081	0.088	92.8	94.3	95.0	95.6	94.1
	南砺市	福野	0.087	0.109	0.087	0.085	0.088	93.7	93.8	95.5	95.3	93.9
年平均値			0.089	0.102	0.084	0.081	0.089	93.6	94.8	95.9	96.5	94.6
範囲 (最小値 ~ 最大値)			0.084 ~ 0.098	0.094 ~ 0.114	0.079 ~ 0.089	0.074 ~ 0.086	0.084 ~ 0.107	91.7 ~ 95.3	93.5 ~ 96.8	95.0 ~ 97.7	93.8 ~ 99.0	93.8 ~ 96.0

注1 測定は、紫外線吸収法によります。

2 環境基準を達成とは、1時間値が0.06ppm以下であることをいいます。

3 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画 (31年4月)」に基づき、元年度に高岡本丸、高岡戸出及び新湊三日曾根の測定を終了しました。

表7-39 炭化水素濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：ppmC）

観測局			項目	年度				
				30	元	2	3	4
富山地域	富山市	富山岩瀬	非メタン炭化水素	0.12	0.12	0.11	0.10	0.11
			メタ ン	1.98	1.99	2.01	2.02	2.04
			全炭化水素	2.10	2.12	2.12	2.12	2.15
	婦中速星	非メタン炭化水素	0.07	0.07	0.05	0.04	0.04	
		メタ ン	2.02	2.03	2.03	2.05	2.07	
		全炭化水素	2.09	2.10	2.08	2.09	2.11	
高岡・射水地域	高岡市	高岡伏木	非メタン炭化水素	0.07	0.14	0.18	0.15	0.11
			メタ ン	1.88	2.00	2.03	2.00	2.00
			全炭化水素	1.96	2.14	2.21	2.15	2.11
	射水市	新湊三日曾根	非メタン炭化水素	0.06				
			メタ ン	1.94				
			全炭化水素	2.00				
新湊海老江	非メタン炭化水素		0.07	0.09	0.09	0.07		
	メタ ン		1.98	2.07	2.00	2.04		
	全炭化水素		2.05	2.16	2.09	2.11		
新川地域	魚津市	魚津	非メタン炭化水素	0.09	0.09	0.09	0.12	0.08
			メタ ン	1.97	1.99	1.99	2.00	2.01
			全炭化水素	2.06	2.08	2.08	2.12	2.09
砺波・小矢部地域	南砺市	福野	非メタン炭化水素	0.06	0.06	0.06	0.16	0.07
			メタ ン	2.03	2.05	2.04	2.04	2.09
			全炭化水素	2.09	2.10	2.10	2.20	2.15
年平均値			非メタン炭化水素	0.08	0.09	0.10	0.11	0.08
			メタ ン	1.97	2.01	2.03	2.02	2.04
			全炭化水素	2.05	2.10	2.13	2.13	2.12
範囲 (最小値～最大値)			非メタン炭化水素	0.06 ～ 0.12	0.06 ～ 0.14	0.05 ～ 0.18	0.04 ～ 0.16	0.04 ～ 0.11
			メタ ン	1.88 ～ 2.03	1.99 ～ 2.05	1.99 ～ 2.04	2.00 ～ 2.05	2.00 ～ 2.09
			全炭化水素	1.96 ～ 2.10	2.08 ～ 2.14	2.08 ～ 2.21	2.09 ～ 2.20	2.09 ～ 2.15

注1 測定は、水素炎イオン化法によります。

2 全炭化水素は、非メタン炭化水素とメタンを加えたものですが、四捨五入の関係で一致しない場合があります。

3 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に新湊三日曾根の測定を終了し、後継の新湊海老江の測定を開始しました。

表7-40 微小粒子状物質濃度の年度別推移（年平均値）及び長期基準の達成状況

観測局	項目	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)					長期基準による 適(○)、否(×)				
		15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること									
	基準	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4
富山地域	富山水橋	8.4	8.1	8.6	7.7	8.5	○	○	○	○	○
	富山岩瀬	7.8	6.6	6.7	6.4	7.7	○	○	○	○	○
	富山芝園	8.8	7.9	8.3	7.5	7.6	○	○	○	○	○
	婦中速星	6.3	7.2	7.6	6.0	5.8	○	○	○	○	○
高岡・ 射水地域	高岡伏木	10.7	9.6	9.4	9.1	7.9	○	○	○	-	○
	氷見	8.9	6.8	7.9	7.7	7.9	○	○	○	○	○
	新湊三日曾根	10.0					○				
	新湊海老江		8.1	8.5	8.0	8.5		○	○	○	○
	小杉太閤山	9.0	7.8	7.8	6.8	7.2	○	○	○	○	○
新川地域	魚津	8.9	8.8	9.6	8.2	8.7	○	○	○	○	○
	入善	10.4	8.6	8.4	8.2	8.5	○	○	○	○	○
砺波・小矢部地域	小矢部	8.5	6.9	6.2	4.9	5.8	○	○	○	○	○
	福野	10.8	8.2	8.0	7.2	7.6	○	○	○	○	○
年平均値		9.0	7.9	8.1	7.3	7.6					
範囲 (最小値～最大値)		6.3 ～ 10.8	6.6 ～ 9.6	6.2 ～ 9.6	4.9 ～ 9.1	5.8 ～ 8.7					

- 注1 測定は、 β 線吸収法によります。
 2 長期基準による適(○)とは、1年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることをいいます。
 3 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画(31年4月)」に基づき、元年度に新湊三日曾根の測定を終了し、後継の新湊海老江の測定を開始しました。
 4 3年度の高岡伏木については、測定機器の故障により、年間の有効測定日数が250日未満のため、測定結果は参考値として扱い、環境基準の評価対象としません。

表7-41 微小粒子状物質に係る短期基準の達成状況

観測局	項目 基準	1日平均値の98パーセンタイル値 (μg/m³)					短期基準による 適(○)、否(×)				
		35μg/m³以下であること									
		年度	30	元	2	3	4	30	元	2	3
富山地域	富山水橋	21.8	19.2	20.9	18.7	18.8	○	○	○	○	○
	富山岩瀬	22.2	18.1	20.3	16.5	18.6	○	○	○	○	○
	富山芝園	23.1	20.1	21.9	17.0	18.0	○	○	○	○	○
	婦中速星	16.5	18.5	22.0	15.3	15.8	○	○	○	○	○
高岡・ 射水地域	高岡伏木	26.4	21.2	22.5	20.5	17.6	○	○	○	-	○
	氷見	28.1	16.8	20.9	19.6	17.9	○	○	○	○	○
	新湊三日曾根	25.2					○				
	新湊海老江		16.9	20.7	18.5	17.8		○	○	○	○
	小杉太閤山	24.0	19.5	21.5	18.2	17.4	○	○	○	○	○
新川地域	魚津	26.5	20.7	22.7	19.4	19.5	○	○	○	○	○
	入善	28.2	22.5	22.2	21.1	18.8	○	○	○	○	○
砺波・小矢部地域	小矢部	26.3	18.5	16.8	13.1	12.8	○	○	○	○	○
	福野	27.8	20.3	21.3	17.3	17.0	○	○	○	○	○
年平均値		24.7	19.4	21.1	17.9	17.5					
範囲 (最小値～最大値)		16.5 ～ 28.2	16.8 ～ 22.5	16.8 ～ 22.7	13.1 ～ 21.1	12.8 ～ 19.5					

- 注1 測定は、β線吸収法によります。
 2 短期基準による適(○)とは、年間にわたる1時間値の1日平均値のうち、低い方から数えて98%目にあたる値が、35μg/m³以下であることをいいます。
 3 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画(31年4月)」に基づき、元年度に新湊三日曾根の測定を終了し、後継の新湊海老江の測定を開始しました。
 4 3年度の高岡伏木については、測定機器の故障により、年間の有効測定日数が250日未満のため、測定結果は参考値として扱い、環境基準の評価対象としません。

表7-42 自動車排出ガス観測局の概要

(5年3月現在)

市	観測局	所在地	設置年度	調査機関	測定項目等
富山市	富山豊田	豊田町	H5	市	・一酸化炭素(非分散型赤外分析計を用いる方法) ・窒素酸化物(オゾンを用いる化学発光法)
	富山城址	本丸	S47	市	
高岡市	高岡大坪	大坪町	H16	県	・炭化水素(水素炎イオン化法) ・浮遊粒子状物質(β線吸収法)
計	3				・微小粒子状物質(β線吸収法) ・テレメータ化

注 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画(31年4月)」に基づき、元年度に観測局を統廃合し、小杉鷺塚、小杉下条及び黒部前沢、2年度に婦中田島を廃止しました。

表7-43 二酸化窒素濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：ppm）

観測局		年度	30	元	2	3	4
富山市	富山豊田		—	—	—	—	—
	富山城址		0.008	0.008	0.007	0.007	0.006
	婦中田島		0.010	0.008			
高岡市	高岡大坪		0.016	0.015	0.015	0.014	0.013
射水市	小杉鷺塚		0.007				
	小杉下条		0.011				
黒部市	黒部前沢		0.006				
年平均値			0.010	0.012	0.011	0.011	0.010
範囲 （最小値～最大値）			0.006 ～ 0.016	0.008 ～ 0.015	0.007 ～ 0.015	0.007 ～ 0.014	0.006 ～ 0.013

- 注1 測定は、オゾンを用いる化学発光法によります。
 2 富山豊田については、30年度から測定を休止しています。
 3 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に小杉鷺塚、小杉下条及び黒部前沢、2年度に婦中田島の測定を終了しました。

表7-44 二酸化窒素に係る環境基準の達成状況

項目		1日平均値の98%値（ppm）					長期的評価による 適（○）、否（×）				
基準		0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内 又はそれ以下であること									
観測局	年度	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4
富山市	富山豊田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	富山城址	0.016	0.017	0.019	0.015	0.013	○	○	○	○	○
	婦中田島	0.017	0.016				○	○			
高岡市	高岡大坪	0.029	0.027	0.030	0.027	0.025	○	○	○	○	○
射水市	小杉鷺塚	0.015					○				
	小杉下条	0.020					○				
黒部市	黒部前沢	0.013					○				
年平均値		0.018	0.020	0.025	0.021	0.019					
範囲 （最小値～最大値）		0.013 ～ 0.029	0.016 ～ 0.027	0.019 ～ 0.030	0.015 ～ 0.027	0.013 ～ 0.025					

- 注1 測定は、オゾンを用いる化学発光法によります。
 2 長期的評価の適（○）とは、年間にわたる1時間値の1日平均値のうち、低い方から数えて98%目にあたる値が、0.04ppmから0.06ppmのゾーン内又はそれ以下であることをいいます。
 3 富山豊田については、30年度から測定を休止しています。
 4 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に小杉鷺塚、小杉下条及び黒部前沢、2年度に婦中田島の測定を終了しました。

表7-45 窒素酸化物濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：ppm）

観測局		項目	年度				
			30	元	2	3	4
富山市	富山豊田	一酸化窒素	—	—	—	—	—
		二酸化窒素	—	—	—	—	—
		窒素酸化物	—	—	—	—	—
	富山城址	一酸化窒素	0.003	0.003	0.003	0.002	0.003
		二酸化窒素	0.008	0.008	0.007	0.007	0.006
		窒素酸化物	0.011	0.011	0.010	0.009	0.009
	婦中田島	一酸化窒素	0.003	0.003			
		二酸化窒素	0.010	0.008			
		窒素酸化物	0.012	0.011			
高岡市	高岡大坪	一酸化窒素	0.008	0.007	0.007	0.007	0.005
		二酸化窒素	0.016	0.015	0.015	0.014	0.013
		窒素酸化物	0.025	0.022	0.021	0.021	0.018
射水市	小杉鷺塚	一酸化窒素	0.002				
		二酸化窒素	0.007				
		窒素酸化物	0.009				
	小杉下条	一酸化窒素	0.012				
		二酸化窒素	0.011				
		窒素酸化物	0.023				
黒部市	黒部前沢	一酸化窒素	0.002				
		二酸化窒素	0.006				
		窒素酸化物	0.008				
年平均値		一酸化窒素	0.005	0.004	0.005	0.005	0.004
		二酸化窒素	0.010	0.010	0.011	0.011	0.010
		窒素酸化物	0.015	0.015	0.016	0.015	0.014
範囲 (最小値～最大値)		一酸化窒素	0.002	0.003	0.003	0.002	0.003
			0.012	0.007	0.007	0.007	0.005
		二酸化窒素	0.006	0.008	0.007	0.007	0.006
			0.016	0.015	0.015	0.014	0.013
		窒素酸化物	0.008	0.011	0.010	0.009	0.009
			0.025	0.022	0.021	0.021	0.018

注1 測定は、オゾンを用いる化学発光法によります。

2 窒素酸化物は、一酸化窒素と二酸化窒素とを加えたものですが、四捨五入の関係で一致しない場合があります。

3 富山豊田については、30年度から測定を休止しています。

4 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に小杉鷺塚、小杉下条及び黒部前沢、2年度に婦中田島の測定を終了しました。

表7-46 浮遊粒子状物質濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：mg/m³）

観測局		年度				
		30	元	2	3	4
富山市	富山豊田	—	—	—	—	—
	富山城址	0.014	0.012	0.011	0.010	0.010
	婦中田島	0.016	0.014			
高岡市	高岡大坪	0.016	0.013	0.012	0.010	0.010
射水市	小杉鷺塚	0.013				
	小杉下条	0.013				
黒部市	黒部前沢	0.012				
年平均値		0.014	0.013	0.012	0.010	0.010
範囲 (最小値～最大値)		0.012 ～ 0.016	0.012 ～ 0.014	0.011 ～ 0.012	0.010 ～ 0.010	0.010 ～ 0.010

- 注1 測定は、β線吸収法によります。
 2 富山豊田については、30年度から測定を休止しています。
 3 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に小杉鷺塚、小杉下条及び黒部前沢、2年度に婦中田島の測定を終了しました。

表7-47 浮遊粒子状物質に係る環境基準の達成状況

観測局	項目 基準	1日平均値の2%除外値 (mg/m ³)					長期的評価による 適(○)、否(×)					短期的評価による 適(○)、否(×)				
		0.10mg/m ³ 以下であること														
		30	元	2	3	4	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4
富山市	富山豊田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	富山城址	0.033	0.028	0.027	0.023	0.026	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	婦中田島	0.041	0.036				○	○				×	○			
高岡市	高岡大坪	0.038	0.031	0.032	0.026	0.024	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
射水市	小杉鷺塚	0.037					○					○				
	小杉下条	0.033					○					○				
黒部市	黒部前沢	0.036					○					○				
年平均値		0.036	0.032	0.030	0.025	0.025										
範囲 (最小値～最大値)		0.033 ～ 0.041	0.028 ～ 0.036	0.027 ～ 0.032	0.023 ～ 0.026	0.024 ～ 0.026										

- 注1 測定は、β線吸収法によります。
 2 長期的評価による適(○)とは、年間にわたる1日平均値のうち、高い方から2%の範囲内にあるものを除外した後の最大値が0.10mg/m³以下であり、かつ、年間を通じて1日平均値が0.10mg/m³を超える日が2日間以上連続しないことをいいます。
 3 短期的評価による適(○)とは、1時間値の1日平均値がすべての有効測定日（1日20時間以上の測定が行われた日）をいいます。）で0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値がすべての測定時間において0.20mg/m³以下であることをいいます。
 4 富山豊田については、30年度から測定を休止しています。
 5 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に小杉鷺塚、小杉下条及び黒部前沢、2年度に婦中田島の測定を終了しました。

表7-48 一酸化炭素濃度の年度別推移（年平均値）

(単位：ppm)

観測局		年度				
		30	元	2	3	4
富山市	富山豊田	—	—	—	—	—
	富山城址	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2
高岡市	高岡大坪	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4
射水市	小杉鷺塚	0.3				
年平均値		0.3	0.3	0.4	0.4	0.3
範囲 (最小値～最大値)		0.3 ～ 0.3	0.3 ～ 0.3	0.3 ～ 0.4	0.3 ～ 0.4	0.2 ～ 0.4

- 注1 測定は、非分散型赤外分析計を用いる方法によります。
 2 富山豊田については、30年度から測定を休止しています。
 3 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に小杉鷺塚の測定を終了しました。

表7-49 一酸化炭素に係る環境基準の達成状況

観測局		項目		1日平均値の2%除外値 (ppm)					長期的評価による適 (○)、否 (×)					短期的評価による適 (○)、否 (×)				
		基準	年度	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4
富山市	富山豊田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	富山城址	0.5	0.5	0.5	0.4	0.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高岡市	高岡大坪	0.6	0.5	0.6	0.5	0.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
射水市	小杉鷺塚	0.4					○					○						
年平均値		0.5	0.5	0.6	0.5	0.5												
範囲 (最小値～最大値)		0.4 ～ 0.6	0.5 ～ 0.5	0.5 ～ 0.6	0.4 ～ 0.5	0.5 ～ 0.5												

- 注1 測定は、非分散型赤外分析計を用いる方法によります。
 2 長期的評価による適 (○) とは、年間にわたる1時間値の1日平均値のうち、高い方から2%の範囲にあるものを除外した後の最高値が10ppm以下であり、かつ、年間を通じて1日平均値が10ppmを超える日が2日以上連続しないことをいいます。
 3 短期的評価による適 (○) とは、1時間値の1日平均値がすべての有効測定日（1日20時間以上の測定が行われた日を行います。）で10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であることをいいます。
 4 富山豊田については、30年度から測定を休止しています。
 5 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に小杉鷺塚の測定を終了しました。

表7-50 炭化水素濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：ppmC）

観測局		項目	年度				
			30	元	2	3	4
富山市	富山豊田	非メタン炭化水素	—	—	—	—	—
		メタン	—	—	—	—	—
		全炭化水素	—	—	—	—	—
	富山城址	非メタン炭化水素	0.09	0.09	0.08	0.08	0.07
		メタン	1.96	1.97	1.98	2.00	2.01
		全炭化水素	2.05	2.06	2.07	2.07	2.08
高岡市	高岡大坪	非メタン炭化水素	0.10	0.11	0.11	0.09	0.08
		メタン	1.97	1.98	1.97	1.99	2.00
		全炭化水素	2.07	2.09	2.09	2.08	2.08
射水市	小杉鷺塚	非メタン炭化水素	0.09				
		メタン	2.00				
		全炭化水素	2.09				
年平均値		非メタン炭化水素	0.09	0.10	0.10	0.09	0.08
		メタン	1.98	1.98	1.98	2.00	2.01
		全炭化水素	2.07	2.08	2.08	2.08	2.08
範囲 (最小値～最大値)		非メタン炭化水素	0.09	0.09	0.08	0.08	0.07
			0.10	0.11	0.11	0.09	0.08
		メタン	1.96	1.97	1.97	1.99	2.00
			2.00	1.98	1.98	2.00	2.01
		全炭化水素	2.05	2.06	2.07	2.07	2.08
			2.09	2.09	2.09	2.08	2.08

注1 測定は、水素炎イオン化法によります。

2 全炭化水素は、非メタン炭化水素とメタンとを加えたものですが、四捨五入の関係で一致しない場合があります。

3 富山豊田については、30年度から測定を休止しています。

4 「富山県大気汚染常時観測局適正配置計画（31年4月）」に基づき、元年度に小杉鷺塚の測定を終了しました。

表7-51 微小粒子状物質濃度の年度別推移（年平均値）及び長期基準の達成状況

観測局	項目 基準	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)					長期基準による 適 (○)、否 (×)				
		15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること									
		年度	30	元	2	3	4	30	元	2	3
高岡市	高岡大坪	12.4	11.0	10.7	11.8	12.1	○	○	○	○	○

注1 測定は、 β 線吸収法によります。

注2 長期基準による適 (○) とは、1年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることをいいます。

表7-52 微小粒子状物質に係る短期基準の達成状況

観測局	項目 基準	1日平均値の98パーセンタイル値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)					短期基準による 適 (○)、否 (×)				
		35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること									
		年度	30	元	2	3	4	30	元	2	3
高岡市	高岡大坪	28.7	24.3	25.6	24.8	26.1	○	○	○	○	○

注1 測定は、 β 線吸収法によります。

注2 短期基準による適 (○) とは、年間にわたる1時間値の1日平均値のうち、低い方から数えて98%目にあたる値が、35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることをいいます。

表7-53 大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設数の年度別推移

種類	年度	30	元	2	3	4
	ボイラー	—	2,206	2,188	2,176	2,150
金属溶解炉		166	167	168	173	175
金属加熱炉		162	165	163	159	163
焼成炉・熔融炉		67	69	69	69	69
乾燥炉		92	86	83	83	77
電気炉		22	16	16	16	16
廃棄物焼却炉		38	41	41	41	41
銅・鉛・亜鉛精錬用施設		2	2	2	2	2
塩素・塩化水素反応施設		46	33	32	31	31
ガスタービン		102	103	103	103	101
ディーゼル機関		327	340	343	345	344
その他		57	58	59	59	59
計		3,287	3,268	3,255	3,231	3,125

表7-54 大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設の届出状況

(5年3月31日現在)

市郡名	工場・事業場数	ばい煙発生施設数																														
		1 ボ イ ラ ー	2 ガ ス 発 熱 炉	3 加 熱 炉 ・ 結 晶 炉	4 焙 焼 炉 ・ 平 炉	5 溶 融 炉 ・ 平 炉	6 金 属 溶 解 炉	7 金 属 加 熱 炉	8 石 油 加 熱 炉	9 燃 焼 炉	10 成 融 炉	11 反 直 火 炉	12 乾 燥 炉	13 電 気 炉	14 廃 棄 物 焼 却 炉	15 銅 精 錬 用 施 設	16 鉛 精 錬 用 施 設	17 塩 素 ・ 塩 化 水 素 等	18 複 合 肥 料 製 造 用 施 設	19 反 応 施 設	20 反 応 施 設	21 硝 酸 施 設	22 用 施 設	23 ガ ス タ ー ビ ン	24 デ イ ゼ ル 機 関	25 ガ ス 機 関	計					
富山市	486	912	5	1	0	5	46	13	0	62	9	20	4	12	1	2	6	7	38	170	170	1	1,314									
高岡市	185	271	0	0	0	45	26	0	0	3	10	10	1	6	0	28	0	0	16	36	0	452										
魚津市	36	68	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	7	12	0	89										
氷見市	37	34	0	1	0	19	2	0	0	0	6	0	3	0	0	0	0	0	2	11	0	78										
滑川市	32	67	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	82										
黒部市	49	95	0	0	0	12	13	0	0	0	8	0	1	1	0	0	0	0	4	23	0	157										
砺波市	46	78	0	0	0	17	1	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	19	12	0	131										
小矢部市	45	66	0	0	0	2	3	0	0	2	0	9	0	0	0	0	0	0	1	6	0	89										
南砺市	70	99	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	2	11	0	117										
射水市	95	184	0	1	0	29	62	0	0	0	6	11	9	9	0	1	0	0	7	37	5	352										
中新川郡	58	93	0	0	0	31	6	0	0	2	0	10	0	4	0	0	0	0	2	6	0	154										
下新川郡	34	80	0	0	0	14	4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	8	0	110										
計	1,173	2,047	5	3	0	175	163	13	0	69	19	77	16	41	2	31	6	7	101	344	6	3,125										

表7-55 大気汚染防止法に基づく一般粉じん発生施設の届出状況

(5年3月31日現在)

市郡名	工場・事業場数	粉じん発生施設数				
		堆積場	ベルトコンベア バケットコンベア	破碎機 摩碎機	ふるい	計
富山市	89	140	72	83	16	311
高岡市	38	61	87	25	7	180
魚津市	17	15	2	12	2	31
氷見市	11	13	35	12	8	68
滑川市	10	18	2	3	1	24
黒部市	17	23	13	25	13	74
砺波市	12	13	20	15	2	50
小矢部市	24	28	15	28	5	76
南砺市	26	30	26	19	4	79
射水市	21	33	60	9	5	107
中新川郡	30	38	40	49	12	139
下新川郡	19	23	43	9	1	76
計	314	435	415	289	76	1,215

表7-56 大気汚染防止法に基づく揮発性有機化合物（VOC）排出施設の届出状況
（5年3月31日現在）

市 郡 名	工場・事業場数	VOC 排 出 施 設 数									計
		1 化 学 製 品 製 造 用 乾 燥 施 設	2 吹 付 塗 装 施 設	3 塗 装 用 乾 燥 施 設	4 接 着 用 乾 燥 施 設 (印刷回路、粘着テープ等、包装材料製造用)	5 接 着 用 乾 燥 施 設 (4項・木材、木製品製造用を除く)	6 オ フ セ ッ ト 輪 転 印 刷 用 乾 燥 施 設	7 グ ラ ビ ア 印 刷 用 乾 燥 施 設	8 工 業 用 洗 浄 施 設	9 貯 蔵 タ ン ク	
富山市	5	1	5	0	2	1	0	3	0	0	12
高岡市	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
魚津市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
氷見市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
滑川市	2	0	0	0	2	0	4	0	0	0	6
黒部市	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
砺波市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小矢部市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南砺市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
射水市	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
中新川郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下新川郡	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
計	12	4	6	0	8	3	4	3	0	0	28

表7-57 大気汚染防止法に基づく水銀排出施設の届出状況

(5年3月31日現在)

市郡名	工場・事業場数	水銀排出施設数									計
		1 小型 石炭 ボイラ ー	2 大型 石炭 専焼 ボイラ ー	3 銅又は 金の一 次精錬 用施設	4 鉛又は 亜鉛の 一次精 錬用施 設	5 銅、鉛 又は亜 鉛の二 次精錬 用施設	6 金の二 次精錬 用施設	7 セメン ト製造 用焼成 炉	8 廃棄物 焼却 炉	9 水銀含 有再生 資源を 取り扱 う施設 又は	
富山市	10	0	0	0	0	0	0	0	12	0	12
高岡市	4	1	0	0	0	0	0	0	6	0	7
魚津市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
氷見市	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
滑川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒部市	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
砺波市	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
小矢部市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南砺市	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
射水市	5	0	2	0	0	0	0	0	8	0	10
中新川郡	2	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6
下新川郡	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
計	26	1	2	0	0	1	0	0	42	0	46

表7-58 大気汚染防止法に基づくアスベスト除去工事等作業の届出状況（4年度）

市郡名	除去		囲い込み	封じ込め	計
	解体	改造・補修	改造・補修	改造・補修	
富山市	37 (22)	34 (3)	0 (0)	1 (0)	72 (25)
高岡市	16 (7)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	22 (7)
魚津市	4 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (1)
氷見市	3 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (1)
滑川市	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)
黒部市	9 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (2)
砺波市	3 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)
小矢部市	4 (1)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (2)
南砺市	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)
射水市	5 (1)	24 (1)	0 (0)	0 (0)	29 (2)
中新川郡	2 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (2)
下新川郡	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
計	86 (35)	77 (8)	0 (0)	1 (0)	164 (43)

注 () は立入件数である。

表7-59 大気関係立入調査状況（4年度）

業種 区分	食料品製造業	飲料・たばこ・飼料製造業	繊維工業	木材・木製品業	紙加工品製造業 パルプ・紙	化学工業	石油製品・石炭製品製造業	プラスチック製品製造業	窯業・土石製品業	鉄鋼業	非鉄金属製造業	金属製品製造業	電子部品・デバイス・電子回路製造業	輸送用機械器具製造業	その他の製造業	電気業	水道業	廃棄物処理業	その他	合計
	ばいじん	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
有害物質及び有害ガス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (383)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (16)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (404)
揮発性有機化合物	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
全水銀	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (3)
小計	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (384)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (16)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	2 (4)	0 (0)	0 (0)	19 (411)
ばい煙発生施設	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (32)	10 (84)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (18)	1 (23)	1 (12)	0 (0)	2 (40)	0 (0)	0 (0)	4 (26)	1 (2)	24 (239)
堆積場等の粉じん発生施設	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (19)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (9)	0 (0)	4 (42)
揮発性有機化合物排出施設	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (8)	0 (0)	2 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (16)
水銀排出施設	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (14)	0 (0)	7 (18)
小計	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (55)	15 (92)	0 (0)	3 (6)	1 (14)	0 (0)	1 (18)	2 (27)	1 (12)	0 (0)	2 (40)	0 (0)	0 (0)	9 (49)	1 (2)	43 (315)
合計	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (55)	22 (476)	0 (0)	3 (6)	1 (14)	0 (0)	2 (34)	2 (27)	3 (12)	0 (0)	7 (40)	0 (7)	0 (0)	11 (53)	1 (2)	62 (726)
指導件数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

注 数字は工場・事業場数、()は測定を実施した施設数です。
電気業については、公害防止協定に基づく立入調査の実績を記載しています。
中核市である富山市の区域を除きます。

表7-60 大気汚染緊急時の措置

物質	区分	措 置		
		一 般	緊 急 時 協 力 工 場	自 動 車 等
硫 黄 酸 化 物	情 報	<ul style="list-style-type: none"> ばい煙を排出する者に対し、不要不急の燃焼の自粛、燃焼方法の改善等による硫黄酸化物排出量の減少について協力を要請 	<ul style="list-style-type: none"> 不要不急の燃焼を自粛するとともに注意報等の発令に備えて、注意報等の措置が行える体制をとることを要請 	
	注意報	//	<ul style="list-style-type: none"> 通常硫黄酸化物排出量の20%以上削減するよう勧告 	
	警 報	//	<ul style="list-style-type: none"> 通常硫黄酸化物排出量の50%以上削減するよう勧告 	
	重 大 警 報	//	<ul style="list-style-type: none"> 硫黄酸化物排出許容量の80%以上削減するよう命令 	
オ キ シ ダ ン ト	情 報	<ul style="list-style-type: none"> ばい煙を排出する者に対し、不要不急の燃焼の自粛、燃焼方法の改善等によるばい煙排出量の減少について協力を要請 次の事項について注意するよう周知 <ol style="list-style-type: none"> 屋外になるべく出ないようにする 屋外運動はさしひかえるようにする 光化学スモッグの被害を受けた人は、最寄りの厚生センター（保健所）に連絡する 	<ul style="list-style-type: none"> 不要不急の燃焼を自粛するとともに注意報等の発令に備えて、注意報等の措置が行える体制をとることを要請 	<ul style="list-style-type: none"> 不要不急の自動車を使用しないこと及び当該地域への運行を自粛することについて協力を要請
	注意報	//	<ul style="list-style-type: none"> 燃料使用量等を通常使用量の20%以上削減（これに準ずる措置を含む。）するよう勧告 	//
	警 報	//	<ul style="list-style-type: none"> 燃料使用量等を通常使用量の30%以上削減（これに準ずる措置を含む。）するよう勧告 	//
	重 大 警 報	//	<ul style="list-style-type: none"> 燃料使用量等を通常使用量の40%以上削減（これに準ずる措置を含む。）するよう命令 	<ul style="list-style-type: none"> 不要不急の自動車を使用しないこと及び当該地域への運行を自粛することについて協力を要請 県公安委員会に対し、道路交通法の規定による措置をとるべきことを要請

物質	区分	措 置		
		一 般	緊 急 時 協 力 工 場	自 動 車 等
浮遊粒子状物質	情報	・ ばい煙を排出する者に対し、不要不急の燃焼の自粛、燃焼方法の改善等によるばい煙排出量の減少について協力を要請	・ 不要不急の燃焼を自粛するとともに注意報等の発令に備えて、注意報等の措置を行える体制をとることを要請	・ 不要不急の自動車を使用しないこと及び当該地域への運行を自粛することについて協力を要請
	注意報	//	・ 燃料使用量等を通常使用量の20%以上削減（これに準ずる措置を含む。）するよう勧告	//
	重大警報	//	・ 燃料使用量等を通常使用量の40%以上削減（これに準ずる措置を含む。）するよう命令	・ 不要不急の自動車を使用しないこと及び当該地域への運行を自粛することについて協力を要請 ・ 県公安委員会に対し、道路交通法の規定による措置をとるべきことを要請
二酸化窒素	情報	・ ばい煙を排出する者に対し、不要不急の燃焼の自粛、燃焼方法の改善等によるばい煙排出量の減少について協力を要請	・ 不要不急の燃焼を自粛するとともに注意報等の発令に備えて、注意報等の措置を行える体制をとることを要請	・ 不要不急の自動車を使用しないこと及び当該地域への運行を自粛することについて協力を要請
	注意報	//	・ 燃料使用量等を通常使用量の20%以上削減（これに準ずる措置を含む。）するよう勧告	//
	重大警報	//	・ 燃料使用量等を通常使用量の40%以上削減（これに準ずる措置を含む。）するよう命令	・ 不要不急の自動車を使用しないこと及び当該地域への運行を自粛することについて協力を要請 ・ 県公安委員会に対し、道路交通法の規定による措置をとるべきことを要請

表7-61 環境放射能調査の結果

調査項目	試料名	測定方法	調査地点	調査回数 (回/年)	調査結果			全国の結果 (3年度)	単 位
					2年度	3年度	4年度		
空間放射線量率	空 気	モニタリングポスト	富山市	連続	49~122	67~110	69~118	9~149	nGy/h
			高岡市		34~123	49~117	50~110		
			氷見市		23~93	44~95	37~104		
			砺波市		26~130	44~109	51~126		
			小矢部市		35~121	52~115	49~114		
			射水市		20~87	36~86	36~103		
			入善町		25~106	35~96	43~119		
全ベータ放射能	降 水	ベータ線測定装置	射水市	降雨ごと	ND~3.6	ND~2.5	ND~2.0	ND~21	Bq/L
核種分析 (¹³⁷ Cs)	大気浮遊じん	ゲルマニウム半導体核種分析装置	射水市	4	ND	ND	ND	ND~0.027	mBq/m ³
	降下物		射水市	12	ND~0.047	ND~0.046	ND	ND~30	MBq/km ²
	水道水		射水市	1	ND	ND	ND	ND~2.8	mBq/L
	精米		射水市		ND	ND	ND	ND~0.72	Bq/kg生
	ほうれん草		富山市		ND	ND	ND	ND~1.3	Bq/kg生
	大根		射水市		ND	ND	ND	ND~0.095	Bq/kg生
	牛乳		砺波市		ND	ND	ND	ND~0.17	Bq/L
	土壌(上層)		射水市		120	61	51	ND~46,000	MBq/km ²
	土壌(下層)				190	ND	210	ND~9,300	MBq/km ²

- 注1 これらのデータは、原子力規制庁の環境放射能水準調査の委託により得られた成果の一部です。
(氷見市及び入善町の空間放射線量率は県独自調査により得られた成果です。)
- 2 計数値がその計数誤差の3倍以下のものについてはNDとなります。
- 3 4年度の全国の測定結果は集計中です。また、空間放射線量率及び全ベータ放射能の全国の結果については、本県と異なる測定方式等を用いたものを含みます。

表7-62 環境放射線モニタリングの結果

調査項目	試料名	測定方法	調査地点	調査回数 (回/年)	測定結果			単位	
					2年度	3年度	4年度		
空間放射線量率	空気	モニタリングポスト	上余川局	連続	15~91	22~106	23~87	nGy/h	
			八代局		13~104	28~112	21~108		
			女良局		17~117	30~106	21~112		
			宇波局		21~122	36~101	27~108		
			懸札局		14~99	18~113	20~115		
			余川局		21~122	34~104	29~113		
			上庄局		22~109	32~111	28~103		
			触坂局		22~111	35~118	33~112		
積算線量	空気	積算線量計	上余川局	4	0.15	0.14~0.15	0.13~0.15	mGy/91日	
全アルファ放射能 ¹⁾	大気浮遊じん	ダストモニタ	上余川局	連続	ND~0.76	ND~0.67	ND~0.81	Bq/m ³	
全ベータ放射能 ¹⁾					ND~2.2	ND~1.9	ND~2.4		
放射性ヨウ素 ¹⁾	空気	ヨウ素モニタ	上余川局	12	ND	ND	ND	Bq/m ³	
核種分析 ²⁾	降下物	ゲルマニウム半導体核種分析装置	上余川局	1	¹³⁷ Cs	ND	ND	ND	Bq/m ³
	上水		氷見市鞍川		¹³⁷ Cs	ND	ND	ND	
					⁹⁰ Sr	1.2	1.0	0.93	
					³ H	ND	ND	ND	
	湧水		氷見市磯辺		¹³⁷ Cs	ND	ND	ND	
					⁹⁰ Sr	0.20	ND	ND	
					³ H	ND	ND	ND	
	土壌(表層)		氷見市上余川		¹³⁷ Cs	1.2	1.9	ND	
					⁹⁰ Sr	0.50	0.35	ND	
			氷見市磯辺		¹³⁷ Cs	ND	ND	ND	
					⁹⁰ Sr	ND	ND	ND	
	精米		氷見市論田		¹³⁷ Cs	ND	ND	ND	
					⁹⁰ Sr	ND	ND	ND	
			氷見市中波		¹³⁷ Cs	ND	ND	ND	
					⁹⁰ Sr	ND	ND	ND	
			氷見市論田		¹³⁷ Cs	ND	ND	ND	
					⁹⁰ Sr	0.042	0.025	0.037	
	白菜		氷見市中波		¹³⁷ Cs	ND	ND	ND	
					⁹⁰ Sr	0.073	0.069	0.070	
			氷見市論田		¹³⁷ Cs	ND	ND	ND	
⁹⁰ Sr		0.041		0.030	0.054				
大根	氷見市中波	¹³⁷ Cs	ND	ND	ND				
		⁹⁰ Sr	0.047	0.071	0.058				

注1 NDとは、検出下限値未満です。

2 計数値がその計数誤差の3倍以下のものについてはNDとなります。

表7-63 公共用水域の水域別測定地点数（4年度）

区 分		測 定 地 点 数				
		富 山 県	富 山 市	国土交通省	計	
河 川	阿尾川、余川川、上庄川、仏生寺川	5 (5)			5 (5)	
	小矢部川	5 (5)		3 (3)	8 (8)	
	庄川	1 (1)		2 (2)	3 (3)	
	内川、下条川、新堀川（主幹排水路を含む。）	6 (4)			6 (4)	
	神通川（運河を含む。）		9 (6)	5 (5)	14 (11)	
	常願寺川			2 (2)	2 (2)	
	白岩川	4 (3)	1 (1)		5 (4)	
	上市川、中川、早月川、角川、鴨川、片貝川	9 (8)			9 (8)	
	黒部川			1 (1)	1 (1)	
	黒瀬川、高橋川、吉田川、入川、小川、木流川、笹川、境川	10 (10)			10 (10)	
	小 計	40 (36)	10 (7)	13 (13)	63 (56)	
	湖 沼	境川ダム貯水池（桂湖）	2 (1)			2 (1)
		有峰ダム貯水池（有峰湖）		2 (1)		2 (1)
黒部ダム貯水池（黒部湖）		2 (1)			2 (1)	
小 計		4 (2)	2 (1)		6 (3)	
海 域	富山新港	6 (3)			6 (3)	
	富山湾	22 (22)			22 (22)	
	小 計	28 (25)			28 (25)	
合 計		72 (63)	12 (8)	13 (13)	97 (84)	

注 （ ）内は環境基準点数です。

表7-64 河川の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果（4年度）

河川等	測定地点	水域類型	pH	DO (mg/L)	SS (mg/L)	BOD (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)		
							適否	適否	
阿尾川	阿尾橋	A	7.6	9.8	14	0.9	○	630	×
余川	間島橋	A	7.7	9.5	10	0.9	○	2,700	×
上庄川	北の橋	B	7.6	9.1	9	0.7	○	650	○
仏生寺川	八幡橋	C	7.5	8.8	12	1.0	○	—	—
湊川	中の橋	C	7.6	8.5	9	1.7	○	—	—
小矢部川	河口	C	7.3	8.9	5	1.1	○	—	—
	城光寺橋	B	7.4	9.2	5	0.9	○	420	○
	国条橋	A	7.4	9.8	6	1.0	○	300	○
	太美橋	AA	7.4	11	3	0.8	○	510	×
千保川	地子木橋	C	7.8	11	3	0.9	○	—	—
祖父川	新祖父川橋	A	7.7	11	7	0.7	○	260	○
山田川	福野橋	A	7.7	10	4	0.9	○	250	○
	二ヶ淵えん堤	AA	7.6	10	3	0.6	○	130	×
庄川	大門大橋	A	7.6	10	2	0.5	○	14	○
	雄神橋	AA	7.6	10	3	0.5未滿	○	18	○
和田川	末端	A	7.5	10	5	0.9	○	570	×
	山王橋	C	7.9	8.5	5	0.8	○	—	—
内川	西橋	C	7.5	9.0	5	1.0	○	—	—
	稻積橋	A	7.4	8.9	8	1.0	○	200	○
新堀川	白石橋	B	7.3	8.6	5	1.3	○	300	○
神通川	萩浦橋	B	7.6	10	2	1.0	○	120	○
	神通大橋	A	7.7	10	2	0.7	○	130	○
宮川	新国境橋	A	7.6	11	3	0.5	○	200	○
高原川	新猪谷橋	A	7.7	11	1	0.5未滿	○	61	○
いたち川	四ツ屋橋	B	7.7	10	2	0.7	○	520	○
松川	桜橋	A	7.7	11	4	0.7	○	960	×
井田川	高田橋	B	7.6	10	4	1.1	○	160	○
	落合橋	A	7.7	11	3	0.7	○	160	○
熊野川	八幡橋	A	7.6	10	2	0.9	○	120	○
富岩運河	萩浦小橋	D	7.6	9.1	5	0.8	○	—	—
岩瀬運河	岩瀬橋	D	7.6	8.3	4	1.0	○	—	—
常願寺川	今川橋	A	7.5	10	2	0.6	○	72	○
	常願寺橋	AA	7.5	10	1	0.5	○	20	○
白岩川	東西橋	A	7.3	9.9	3	0.6	○	90	○
	泉正橋	A	7.3	10	3	1.1	○	260	○
栃津川	流観橋	C	7.5	10	2	1.8	○	—	—
	寺田橋	A	7.7	11	2	0.8	○	440	×
上市川	魚躬橋	A	7.4	10	2	1.2	○	4,000	×
中川	落合橋	B	7.4	10	2	1.0	○	450	○
早月川	早月橋	AA	7.8	11	1	0.5	○	28	○
角川	角川橋	A	7.6	10	3	1.0	○	650	×
鴨川	港橋	B	7.6	10	3	0.9	○	4,100	×
片貝川	末端	A	8.0	9.6	5	1.5	○	40	○
	落合橋	AA	8.0	10	2	0.8	○	280	×
布施川	落合橋	A	7.9	10	1	1.1	○	74	○
黒瀬川	石田橋	A	7.5	10	4	2.0	○	480	×
高橋川	立野橋	B	7.2	10	3	2.8	○	590	○
吉田川	吉田橋	B	7.4	10	3	2.0	○	360	○
黒部川	下黒部橋	AA	7.6	11	4	0.7	○	36	○
入川	末端	A	7.7	11	5	1.4	○	88	○
小川	赤川橋	A	7.7	11	2	1.2	○	250	○
	上朝日橋	AA	7.6	11	1	0.5	○	49	○
舟川	舟川橋	A	7.5	11	4	1.3	○	550	×
木流川	末端	A	7.5	10	5	1.6	○	610	×
笹川	笹川橋	AA	7.7	10	2	1.0	○	210	×
境川	境橋	AA	7.7	10	1	0.5未滿	○	31	○

注1 pH、DO、SSの値は年平均値、BODの値は75%水質値、大腸菌数の値は90%水質値です。
 2 「75%水質値」とは、全データをその値の小さいものから順に並べた際の0.75×n番目（nはデータ数）の値、「90%水質値」とは、全データをその値の小さいものから順に並べた際の0.90×n番目（nはデータ数）の値です。
 3 BODの環境基準の達成状況（適否の欄）については、類型指定した各水域において、
 ①環境基準点が1つある場合、75%水質値が環境基準に適合しているもの
 ②環境基準点が複数ある場合、すべての環境基準点において、75%水質値が環境基準に適合しているものを達成（○印）としています。
 4 大腸菌数の環境基準の達成状況（適否の欄）については、個々の環境基準点において90%水質値が環境基準に適合しているものを達成（○印）、適合していないものを未達成（×印）としています。
 5 「水域類型」のA、A、B、C及びDは、「水質汚濁に係る環境基準について（昭和46年環境庁告示第59号）」に示された「河川」の類型を示します。

表7-65 河川の主要測定地点(環境基準点)における水生生物環境基準項目の水質測定結果(4年度)
(単位: mg/L)

河川等	測定地点	水域類型	全亜鉛	ノニルフェノール		直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)			
				適否	適否	適否	適否		
阿尾川	阿尾橋	生物B	0.007	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
余川	間島橋	生物B	0.008	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
上庄川	北の橋	生物B	0.007	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
仏生寺川	八幡橋	生物B	0.007	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	湊川	中の橋	生物B		0.013		0.00006未満		0.0006未満
小矢部川	城光寺橋	生物B	0.008	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	太美橋	生物A	0.001	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	千保川	地子木橋	生物B	0.007	○	0.00006未満	○	0.0023	○
	祖父川	新祖父川橋	生物B	0.004	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○
	山田川	福野橋	生物B	0.001	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○
二ヶ淵えん堤		生物A	0.001	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
庄川	大門大橋	生物B	0.002	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	雄神橋	生物A	0.002	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	和田川	末端	生物B	0.002	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○
内川	山王橋	生物B	0.010	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	西橋	生物B	0.008		0.00006未満		0.0007		
下条川	稻積橋	生物B	0.008	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
新堀川	白石橋	生物B	0.007	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
神通川	萩浦橋	生物B	0.004	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	神通大橋	生物A	0.005	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	宮川	新国境橋	生物A		0.005		0.0012		
	高原川	新猪谷橋	生物A		0.014		0.0007		
	いたち川	四ツ屋橋	生物A	0.010	○	0.00006未満	○	0.0010	○
	松川	桜橋	生物B	0.010	○	0.00006未満	○	0.0012	○
	井田川	高田橋	生物B	0.005	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○
		落合橋	生物A	0.003	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○
	熊野川	八幡橋	生物A	0.004	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○
	常願寺川	今川橋	生物B	0.002	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○
常願寺橋		生物A	0.002	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
白岩川	東西橋	生物B	0.007	○	0.00006未満	○	0.0008	○	
	泉正橋	生物A	0.002	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	栃津川	流観橋	生物B	0.003	○	0.00006未満	○	0.0011	○
		寺田橋	生物A	0.001	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○
上市川	魚躬橋	生物B	0.004	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
中川	落合橋	生物A	0.004	○	0.00006未満	○	0.0010	○	
早月川	早月橋	生物A	0.002	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
角川	角川橋	生物A	0.002	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
鴨川	港橋	生物A	0.003	○	0.00006未満	○	0.0008	○	
片貝川	落合橋	生物A	0.001	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	布施川	落合橋	生物A	0.002	○	0.00006未満	○	0.0006	○
黒瀬川	石田橋	生物A	0.004	○	0.00006未満	○	0.0010	○	
高橋川	立野橋	生物A	0.006	○	0.00006未満	○	0.0012	○	
吉田川	吉田橋	生物A	0.006	○	0.00006未満	○	0.0012	○	
黒部川	下黒部橋	生物A	0.003	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
入川	末端	生物A	0.001	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
小川	赤川橋	生物A	0.001	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
	舟川	舟川橋	生物A	0.001	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○
木流川	末端	生物A	0.002	○	0.00006未満	○	0.0010	○	
笹川	笹川橋	生物A	0.004	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	
境川	境橋	生物A	0.001	○	0.00006未満	○	0.0006未満	○	

注1 値は年平均値です。
 2 環境基準の達成状況(適否の欄)については、類型指定した各水域において、
 ①環境基準点が1つある場合、年平均値が環境基準に適合しているもの
 ②環境基準点が複数ある場合、すべての環境基準点において、年平均値が環境基準に適合しているものを達成(○印)としています。
 3 「水域類型」の生物A及び生物Bは、「水質汚濁に係る環境基準について(昭和46年環境庁告示第59号)」に示された「河川」の類型を示します。

表7-66 河川末端における水質（BOD）の年度別推移

(単位：mg/L)

河川	水域類型		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度		
		基準値							
主要5河川	小矢部川	C	5	1.5	1.2	0.9	1.2	1.1	
	神通川	B	3	2.1	1.6	0.7	1.2	1.0	
	庄川	A	2	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.5	0.5	
	常願寺川	A	2	0.6	0.5未満	0.6	0.5	0.6	
	黒部川	AA	1	0.5未満	0.5	0.5未満	0.6	0.7	
中小22河川	都市河川	上庄川	B	3	1.0	1.2	1.2	2.0	0.7
		仏生寺川(湊川)	C	5	2.2	1.9	2.6	2.5	1.7
		内川	C	5	1.2	0.8	0.8	0.7	1.0
		下条川	A	2	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
		中川	B	3	0.7	0.8	0.7	0.9	1.0
		角川	A	2	0.8	0.8	0.8	0.6	1.0
		鴨川	B	3	0.6	0.8	0.5	0.6	0.9
		黒瀬川	A	2	1.1	0.9	0.8	1.0	2.0
		高橋川	B	3	1.1	1.6	1.6	1.9	2.8
	その他の河川	木流川	A	2	0.6	0.6	0.8	0.9	1.6
		阿尾川	A	2	1.2	1.0	1.4	1.7	0.9
		余川	A	2	1.2	1.3	1.1	1.7	0.9
		新堀川	B	3	1.2	1.4	1.1	0.9	1.3
		白岩川	A	2	0.9	1.0	0.8	0.9	0.6
		上市川	A	2	0.7	0.7	0.5	0.6	1.2
		早月川	AA	1	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.5
		片貝川(布施川)	A	2	0.5未満	0.9	0.7	0.9	1.1
		吉田川	B	3	1.0	1.0	0.8	1.3	2.0
		入川	A	2	0.5未満	0.6	0.7	0.9	1.4
		小川	A	2	0.5未満	0.5	0.5	0.8	1.2
		笹川	AA	1	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.6	1.0
		境川	AA	1	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.5未満

注 値は75%水質値です。

表7-67 湖沼の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果（4年度）

湖 沼	測定地点	水域 類型	pH	DO (mg/L)	SS (mg/L)	COD (mg/L)	全りん (mg/L)		大腸菌数 (CFU/100mL)		
							適否	適否	適否	適否	
桂 湖 (境川ダム貯水池)	えん堤付近	A II	7.2	8.1	3	1.3	○	0.003	○	1未満	○
有 峰 湖 (有峰ダム貯水池)	えん堤付近	A II	7.2	9.4	1	2.1	○	0.005	○	2	○
黒 部 湖 (黒部ダム貯水池)	えん堤付近	A II	7.1	9.3	2	1.6	○	0.005	○	64	○

- 注1 pH、DO、SS、全りんの値は年平均値、CODの値は75%水質値、大腸菌数の値は90%水質値です。
 2 「75%水質値」とは、全データをその値の小さいものから順に並べた際の0.75×n番目（nはデータ数）の値、「90%水質値」とは、全データをその値の小さいものから順に並べた際の0.9×n番目（nはデータ数）の値です。
 3 環境基準の達成状況（適否の欄）は、CODについては75%水質値が、全りんについては年平均値が、大腸菌数については90%水質値が環境基準に適合しているものを達成（○印）としています。
 4 「水域類型」のA及びIIは、「水質汚濁に係る環境基準について（昭和46年環境庁告示第59号）」に示された「湖沼」の類型を示します。

表7-68 湖沼における水質（COD）の年度別推移

(単位：mg/L)

湖 沼	水域類型		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
		基準値					
桂 湖 (境川ダム貯水池)	A	3	1.0	1.5	1.2	1.0	1.3
有 峰 湖 (有峰ダム貯水池)	A	3	1.8	1.7	1.9	2.0	2.1
黒 部 湖 (黒部ダム貯水池)	A	3	2.0	1.8	2.2	2.4	1.6

注 値は75%水質値です。

表7-69 海域の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果（4年度）

海 域	測定地点	水域 類型	pH	DO (mg/L)	COD (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)			
						適否	適否		
富 山 湾	小 矢 部 川 河 口 海 域	小 矢 部 2	B	8.3	8.1	2.0	—	—	
		小 矢 部 3	B	8.3	8.3	2.3	○	—	
		小 矢 部 5	A	8.3	8.2	1.9	○	29	
		小 矢 部 6	A	8.3	8.3	1.9	○	58	
	神 通 川 河 口 海 域	神 通 1	B	8.2	8.2	1.9	○	—	—
		神 通 2	B	8.3	8.4	1.9		—	—
		神 通 3	B	8.2	8.2	1.8		—	—
		神 通 4	A	8.2	8.1	1.8	○	2	○
		神 通 5	A	8.2	8.3	1.8		24	○
		神 通 6	A	8.2	8.2	1.8		10	○
	そ の 他 の 富 山 湾 海 域	小 矢 部 7	A	8.3	8.2	1.9	○	16	○
		神 通 7	A	8.3	8.3	2.0		11	○
		そ の 他 1	A	8.2	7.8	1.6		13	○
		そ の 他 2	A	8.2	7.9	1.6		1	○
		そ の 他 3	A	8.2	8.2	1.8		2	○
		そ の 他 4	A	8.2	8.4	2.0		12	○
		そ の 他 5	A	8.2	8.5	1.6		7	○
		そ の 他 6	A	8.3	8.5	1.7		9	○
		そ の 他 7	A	8.3	8.3	2.0		1 未満	○
そ の 他 8		A	8.3	8.3	1.5	2		○	
そ の 他 9	A	8.3	8.0	1.4	1 未満	○			
そ の 他 10	A	8.3	8.1	1.3	1 未満	○			
富 山 新 港 海 域	新 港 1	B	8.4	8.1	2.5	○	—	—	
	第 1 貯 木 場	姫 野 橋	C	8.2	8.0	3.5	○	—	—
	中 野 整 理 場	中 央	C	8.3	8.6	4.4		—	—

- 注1 pH、DOの値は年平均値、CODの値は75%水質値、大腸菌数の値は90%水質値です。
 2 「75%水質値」とは、全データをその値の小さいものから順に並べた際の0.75×n番目（nはデータ数）の値、「90%水質値」とは、全データをその値の小さいものから順に並べた際の0.9×n番目（nはデータ数）の値です。
 3 CODの環境基準の達成状況（適否の欄）については、類型指定した各水域においてすべての環境基準点において75%水質値が環境基準に適合しているものを達成（○印）としています。
 4 大腸菌数の環境基準の達成状況（適否の欄）については、個々の環境基準点において90%水質値が環境基準に適合しているものを達成（○印）としています。
 5 「水域類型」のA、B及びCは、「水質汚濁に係る環境基準について（昭和46年環境庁告示第59号）」に示された「海域」の類型を示します。

表7-70 海域における水質（COD）の年度別推移

(単位：mg/L)

海 域		水 域 類 型		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
			基準値					
その他の富山湾海域 (下記を除く富山県の地先海域)		A	2	1.3	1.5	1.5	1.6	1.7
小矢部川 河口海域	河口から1,200mの範囲内	B	3	2.0	1.9	1.9	2.2	2.2
	河口から2,200mの範囲内(上記を除く。)	A	2	1.5	1.9	2.0	1.7	1.9
神通川 河口海域	河口から1,800mの範囲内	B	3	1.5	1.7	1.8	1.7	1.9
	河口から2,400mの範囲内(上記を除く。)	A	2	1.6	1.9	1.7	1.8	1.8
富山新港 海 域	第1貯木場及び中野整理場	C	8	3.5	3.3	3.5	3.9	4.0
	富山新港港内(上記を除く。)	B	3	2.2	2.3	2.4	2.3	2.5

注 値は各測定地点の75%水質値を水域ごとに平均した値です。

表7-73 公共用水域の主要測定地点における全窒素・全りんの水質測定結果（4年度）
（単位：mg/L）

公共用水域			測定地点		全窒素	全りん				
阿	尾	川	阿	尾	橋	0.64	0.077			
余	川	川	間	島	橋	0.59	0.061			
上	庄	川	北	の	橋	0.67	0.084			
仏	生	寺	八	幡	橋	1.9	0.15			
	湊	川	中	の	橋	0.76	0.11			
小	矢	部	河		口	0.90	0.064			
			太	美	橋	0.41	0.024			
	千	保	川	地	子	木	橋	0.60	0.042	
	祖	父	川	新	祖	父	川	橋	0.63	0.034
	山	田	川	福	野	橋	0.48	0.025		
二			ヶ	淵	え	ん	堤	0.38	0.010	
庄		川	大	門	大	橋	0.22	0.007		
			雄		神	橋	0.25	0.011		
	和	田	川	末		端	0.29	0.018		
内		川	山	王	橋	0.41	0.036			
			西		橋	0.33	0.026			
下	条	川	稻	積	橋	0.84	0.050			
新	堀	川	白	石	橋	1.1	0.070			
西	部	主	西	部	排	水	機	場	0.58	0.080
東	部	主	東	部	排	水	機	場	0.74	0.11
神	通	川	萩	浦	橋	0.79	0.021			
			神	通	大	橋	0.52	0.016		
	宮		川	新	国	境	橋	0.36	0.024	
	高	原	川	新	猪	谷	橋	0.28	0.008	
	い	た	ち	四	ツ	屋	橋	0.52	0.034	
松		川	桜		橋	0.47	0.034			
富	岩	運	萩	浦	小	橋	0.40	0.039		
岩	瀬	運	岩	瀬	橋	3.8	0.049			
常	願	寺	今	川	橋	0.27	0.014			
白	岩	川	東	西	橋	0.42	0.037			
			泉	正	橋	0.36	0.040			
	栃	津	川	流	舘	橋	0.34	0.022		
			寺	田	橋	0.26	0.012			
上	市	川	魚	躬	橋	0.53	0.034			
中		川	落	合	橋	0.55	0.033			
早	月	川	早	月	橋	0.40	0.005			
角		川	角	川	橋	0.45	0.031			
鴨		川	港		橋	0.45	0.023			
片	貝	川	落	合	橋	0.97	0.060			
	布	施	川	落	合	橋	0.47	0.027		
黒	瀬	川	石	田	橋	0.70	0.042			
高	橋	川	立	野	橋	2.3	0.046			

公 共 用 水 域		測 定 地 点		全 窒 素	全 り ん
吉	田 川	吉	田 橋	0.87	0.029
黒	部 川	下	黒 部 橋	0.23	0.009
入	川	末	端	0.26	0.021
小	川	赤	川 橋	0.28	0.011
		上	朝 日 橋	0.30	0.006
	舟 川	舟	川 橋	0.30	0.013
木	流 川	末	端	0.36	0.030
笹	川	笹	川 橋	0.31	0.010
境	川	境	橋	0.46	0.006
桂	湖 (境 川 ダ ム 貯 水 池)	え ん 堤 付 近		0.29	0.003
		湖 中 央		0.30	0.003
有	湖 (有 峰 ダ ム 貯 水 池)	え ん 堤 付 近		0.19	0.005
		湖 中 央		0.15	0.005
黒	湖 (黒 部 ダ ム 貯 水 池)	え ん 堤 付 近		0.20	0.005
		湖 中 央		0.16	0.003
富 山 新 港 海 域		新 港	1	0.23	0.054
		新 港	2	0.25	0.055
		新 港	3	0.27	0.063
		新 港	4	0.27	0.069
		第 1 貯 木 場	姫 野 橋	0.31	0.058
		中 野 整 理 場	中 央	0.39	0.060
富 山 湾	小 矢 部 川 河 口 海 域	小 矢 部	2	0.23	0.019
		小 矢 部	3	0.27	0.021
		小 矢 部	5	0.15	0.013
		小 矢 部	6	0.17	0.013
	神 通 川 河 口 海 域	神 通	1	0.19	0.011
		神 通	2	0.27	0.012
		神 通	3	0.20	0.012
		神 通	4	0.16	0.011
		神 通	5	0.23	0.011
		神 通	6	0.18	0.012
	そ の 他 の 富 山 湾 域	小 矢 部	7	0.16	0.011
		神 通	7	0.17	0.010
		そ の 他	1	0.11	0.008
		そ の 他	2	0.12	0.008
		そ の 他	3	0.11	0.009
		そ の 他	4	0.14	0.013
		そ の 他	5	0.20	0.011
		そ の 他	6	0.17	0.010
		そ の 他	7	0.17	0.010
		そ の 他	8	0.13	0.009
そ の 他	9	0.12	0.008		
そ の 他	10	0.11	0.008		

表7-74 河川及び海域における要監視項目測定結果（4年度）

(単位：mg/L)

調査項目	測定地点数 (河川/海域)	検出地点 (河川/海域)	測定結果	指針値 超過地点数	指針値	定量 下限値
クロロホルム	52/0	0/0	ND	0	0.06	0.0006
トランス-1,2-ジクロロエチレン	52/0	0/0	ND	0	0.04	0.004
1,2-ジクロロプロパン	52/0	0/0	ND	0	0.06	0.006
p-ジクロロベンゼン	52/0	0/0	ND	0	0.2	0.02
フェニトロチオン	52/0	0/0	ND	0	0.003	0.0003
イソプロチオラン	52/0	0/0	ND	0	0.04	0.004
フェノブカルブ	52/0	0/0	ND	0	0.03	0.003
トルエン	52/0	0/0	ND	0	0.6	0.06
キシレン	52/0	0/0	ND	0	0.4	0.04
ニッケル	52/0	14/0	ND~0.009	—	—	0.001
モリブデン	52/0	2/0	ND~0.048	0	0.07	0.007
アンチモン	52/0	0/0	ND	0	0.02	0.002
全マンガン	52/1	18/1	ND~0.13	0	0.2	0.02
ウラン	52/0	9/0	ND~0.0015	0	0.002	0.0002

注 NDとは、定量下限値未満です。

表7-75 湖沼水質調査結果（4年度）

① 調査対象湖沼

湖沼	所在地	有効貯水量 (千m ³)	湛水面積 (km ²)	主な利水目的
桜ヶ池	南砺市立野原東	1,450	5.2	農業

② 調査結果

湖沼	調査回数	測定項目								
		透明度 (m)	pH	COD (mg/L)	SS (mg/L)	DO (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全りん (mg/L)	クロコフィア (μg/L)	
桜ヶ池	2	4.9	7.1	2.4	2	7.4	0.18	0.006	2.1	

注 測定値は、年平均値です。

表7-76 海水浴場水質調査結果（4年度）

① 開設前（4～5月）

海水浴場	判定	水質				腸管出血性 大腸菌 0-157	調査 機関
		透明度 (m)	油膜 の有無	COD (mg/L)	ふん便性 大腸菌群数 (個/100mL)		
小 境（氷見市）	適 (水質AA)	全透	なし	1.2	2未満	不検出	富山県
島 尾（氷見市）	適 (水質AA)	全透	なし	1.7	2未満	不検出	//
雨晴・松太枝浜（高岡市）	適 (水質AA)	全透	なし	1.5	2未満	不検出	//
八重津浜（富山市）	適 (水質AA)	全透	なし	1.1	2未満	不検出	富山市
岩瀬浜（富山市）	適 (水質AA)	全透	なし	1.1	2未満	不検出	//
石田浜（黒部市）	適 (水質A)	全透	なし	1.2	4	不検出	富山県
宮崎・境海岸（朝日町）	適 (水質AA)	全透	なし	0.8	2未満	不検出	//

② 開設中（7～8月）

海水浴場	判定	水質				腸管出血性 大腸菌 0-157	調査 機関
		透明度 (m)	油膜 の有無	COD (mg/L)	ふん便性 大腸菌群数 (個/100mL)		
小 境（氷見市）	適 (水質AA)	全透	なし	1.5	2未満	不検出	富山県
島 尾（氷見市）	適 (水質AA)	全透	なし	1.6	2未満	不検出	//
雨晴・松太枝浜（高岡市）	可 (水質B)	全透	なし	2.1	2未満	不検出	//
八重津浜（富山市）	適 (水質AA)	全透	なし	1.9	2未満	不検出	富山市
岩瀬浜（富山市）	適 (水質A)	全透	なし	1.8	3	不検出	//
石田浜（黒部市）	可 (水質B)	全透	なし	2.1	2未満	不検出	富山県
宮崎・境海岸（朝日町）	適 (水質AA)	全透	なし	1.8	2未満	不検出	//

注1 「判定」の適、可、AA、A及びBは、「水浴場水質判定基準（環境省）」に示された判定区分を示します。

2 浜黒崎（富山市）については、開設が中止されました。

表7-77 底質（重金属等）調査結果（4年度）

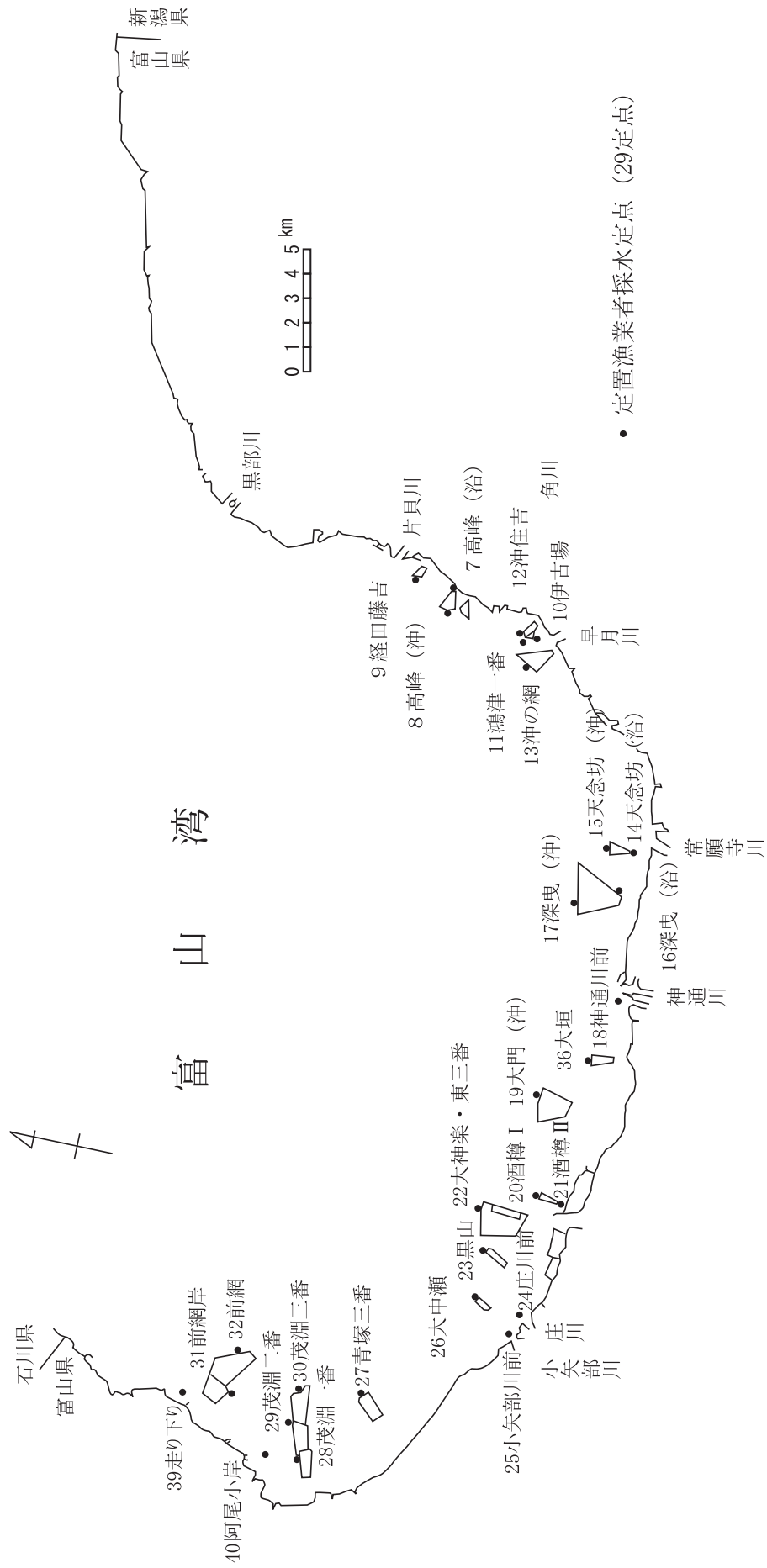
河川	調査地点	調査結果							調査機関
		総水銀 (mg/kg)	カドミウム (mg/kg)	鉛 (mg/kg)	ひ素 (mg/kg)	総クロム (mg/kg)	強熱減量 (%)		
神通川	萩浦橋	0.02	0.4	24	7.1	31	2.4	富山市	
	成子大橋	0.01未満	0.2	11	4.7	15	0.9	//	
	高原川	新猪谷橋	0.01未満	0.1	22	6.5	48	0.8	//
	いたち川	四ツ屋橋	0.02	0.1	16	3.4	19	1.0	//
	松川	桜橋	0.18	0.8	36	7.2	29	3.9	//
	井田川	高田橋	0.03	0.1	8	5.4	23	3.2	//
熊野川	八幡橋	0.01	0.1	6	2.3	19	1.6	//	
常願寺川	今川橋	0.01未満	0.1未満	3	1.9	10未満	0.7	//	
	常願寺橋	0.01未満	0.1未満	5	3.3	10未満	0.9	//	
	立山橋	0.01	0.1未満	3	2.6	10未満	0.8	//	
和田川	霞橋	0.01未満	0.3	15	6.2	11	1.6	//	
上市川	魚躬橋	0.01未満	0.1	11	6.8	10未満	2.5	富山県	
早月川	早月橋	0.01未満	0.1	11	5.6	10	0.7	//	
鴨川	港橋	0.01	0.1未満	19	1.1	10	1.1	//	
片貝川	落合橋	0.01未満	0.1未満	6	3.0	10未満	0.8	//	
定量下限値		0.01	0.1	1	0.5	10	—	—	

表7-78 立山環境調査（河川等環境調査）結果（4年度）

区分	調査地点	pH	BOD (mg/L)	SS (mg/L)
称名渇上流	みくりが池	5.1	0.5未満	1未満
	雷鳥沢	6.9	0.5未満	1未満
	紺谷川合流点下流	—	—	—
	大谷上流	6.9	0.5未満	1
	一の谷	6.9	0.5未満	1未満
	ハンノキ谷	5.5	0.5未満	1未満
称名渇下流	常願寺川瓶岩橋	7.8	0.5未満	1

- 注1 BOD欄中、「みくりが池」はCODの値です。
 2 「紺谷川合流点下流」は、地獄谷からの流水の影響を受けています。
 なお、火山ガスの影響により調査を実施しませんでした。
 3 「常願寺川瓶岩橋」については、通行止のため、下流の横江頭首工において採水を実施しました。

図7-3 定置網漁場環境調査定点図（4年度）



● 定置漁業者採水定点 (29定点)

注 4年度の調査は、29定点の計画で行いました。

表7-79 定置網漁場環境調査の結果（4年度）

No.	調査定点名	調査回数	水温 (°C)			pH			塩分			COD (mg/L)			濁度 (ppm)		
			最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値
7	高峰 (泊)	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	高峰 (沖)	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	経田藤吉	10	10.1	23.0	15.8	8.10	8.30	8.21	18.95	33.21	29.14	0.2	0.7	0.4	0.41	2.46	1.02
10	伊古場	5	11.7	23.0	18.2	8.06	8.26	8.17	11.33	32.22	25.06	0.3	1.3	0.7	0.82	4.01	2.14
11	鴻津一番	5	11.9	25.0	18.6	8.09	8.37	8.25	20.06	32.80	26.96	0.3	0.8	0.6	0.88	3.87	2.19
12	沖住吉	4	12.0	24.4	17.9	8.12	8.25	8.18	24.09	31.60	29.46	0.2	0.8	0.4	0.58	2.28	1.19
13	沖の網	4	11.6	24.7	17.9	8.18	8.22	8.20	26.73	32.39	30.38	0.3	1.0	0.5	0.73	2.91	1.46
14	天念坊 (泊)	3	13.0	24.5	17.7	8.11	8.20	8.16	20.46	31.81	25.76	0.2	0.9	0.5	0.39	2.62	1.37
15	天念坊 (沖)	3	13.1	24.4	17.7	8.09	8.19	8.15	20.84	31.58	25.47	0.2	1.0	0.6	0.42	2.87	1.61
16	深曳 (泊)	5	12.3	22.5	16.2	8.07	8.33	8.16	14.95	33.29	25.81	0.3	1.2	0.6	0.88	4.54	1.93
17	深曳 (沖)	5	11.6	22.6	16.1	8.09	8.37	8.19	15.32	32.03	26.86	0.2	1.4	0.8	0.57	4.36	1.97
18	神通川前	5	7.0	22.0	14.0	7.84	8.13	7.99	4.62	22.90	10.73	0.5	2.0	1.2	1.41	4.88	2.66
19	大門沖 (Om)	1	25.8	25.8	25.8	8.15	8.15	8.15	25.17	25.17	25.17	1.0	1.0	1.0	4.40	4.40	4.40
20	酒樽 I	10	9.0	24.0	17.1	8.03	8.44	8.20	12.10	32.80	24.37	0.4	2.0	0.9	1.23	9.21	3.33
21	酒樽 II	10	9.0	24.0	16.8	8.07	8.50	8.19	14.88	23.80	19.52	0.4	2.2	1.1	2.33	9.13	4.87
22	東三番	3	14.0	20.0	17.3	8.01	8.18	8.11	33.80	34.08	33.93	0.2	0.5	0.3	0.28	0.72	0.43
23	黒山	11	9.7	25.8	18.1	7.99	8.27	8.13	11.66	33.70	23.22	0.3	1.2	0.7	0.59	4.55	2.67
24	庄川前	11	6.7	24.0	15.8	7.88	8.20	8.03	4.85	12.99	10.50	0.7	1.7	1.0	1.60	16.40	4.13
25	小矢部川前	11	7.3	23.4	15.8	7.56	8.01	7.74	0.71	9.68	4.14	1.2	2.4	1.7	1.84	12.70	4.89
26	大瀬	10	10.1	27.0	18.8	7.94	8.22	8.13	16.06	32.51	28.08	0.3	1.2	0.6	0.57	4.93	1.83
27	青塚三番	10	11.2	27.3	17.8	8.03	8.22	8.14	26.24	34.11	32.06	0.3	1.3	0.6	0.25	5.00	1.51
28	茂淵一番	9	11.0	24.1	17.2	8.09	8.25	8.18	26.97	34.10	31.35	0.2	1.0	0.5	0.31	3.36	1.38
29	茂淵二番	9	11.0	25.0	16.8	8.09	8.25	8.16	29.35	34.11	32.29	0.2	1.1	0.5	0.28	3.27	1.36
30	茂淵三番	8	15.6	27.0	20.9	8.09	8.26	8.17	29.52	34.15	32.45	0.3	1.5	0.6	0.58	3.39	1.60
31	前網岸	11	10.4	27.0	18.5	8.08	8.23	8.17	32.25	34.14	33.15	0.2	0.6	0.4	0.26	1.35	0.55
32	前網	11	10.9	26.9	18.5	8.11	8.23	8.17	32.18	34.13	33.18	0.2	0.6	0.4	0.20	1.48	0.65
36	大垣	9	16.5	26.0	20.9	8.09	8.39	8.19	13.19	33.78	29.33	0.2	1.7	0.6	0.16	6.02	1.40
39	走り下り	12	8.7	27.7	17.1	8.06	8.22	8.15	26.04	34.06	32.47	0.2	0.9	0.5	0.49	3.96	1.50
40	阿尾小岸	12	10.0	25.0	17.1	8.07	8.23	8.16	22.50	34.11	30.66	0.3	0.8	0.5	0.20	3.39	1.36

図7-4 騒音・振動苦情の発生源別推移

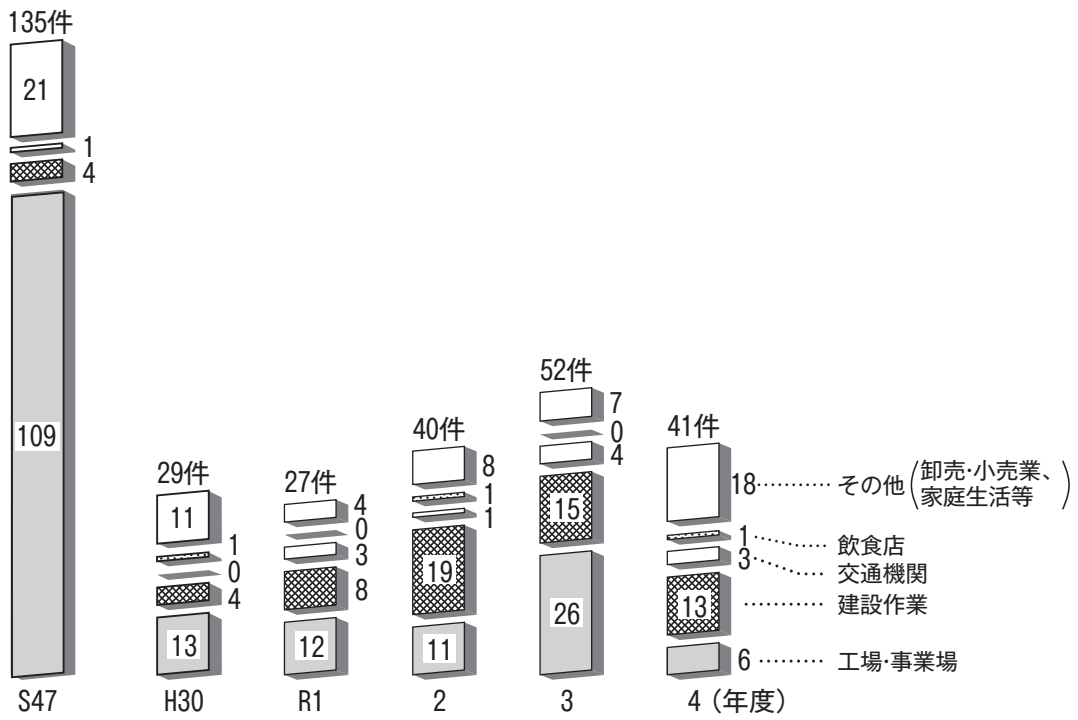


図7-5 一般地域の環境騒音の環境基準達成状況 (4年度)

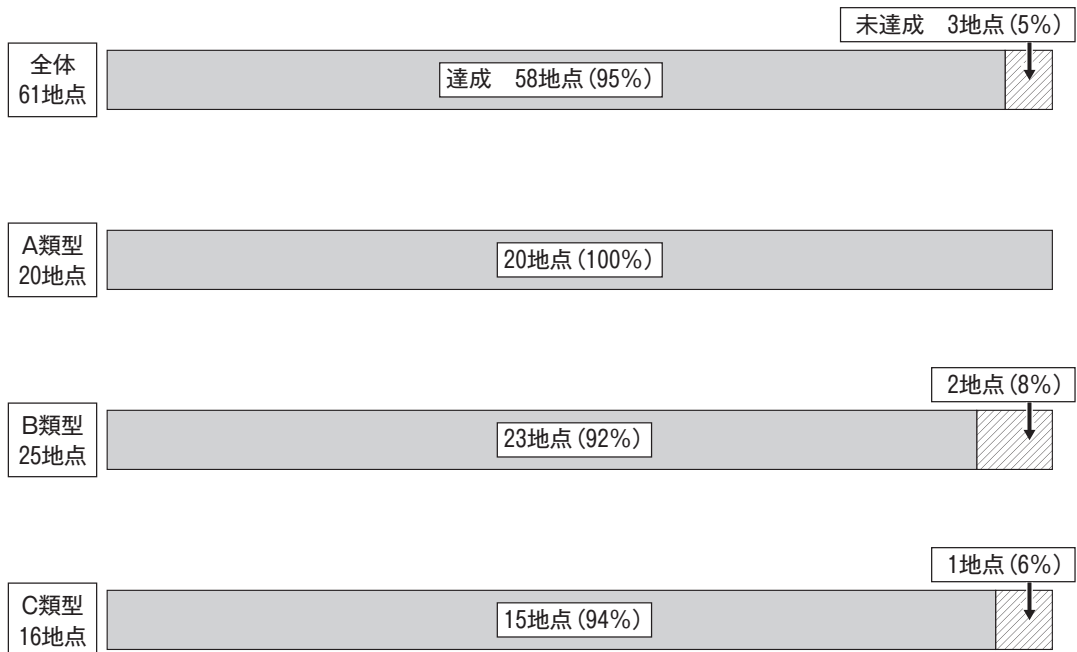


表7-80 自動車騒音の環境基準達成状況

① 自動車騒音の環境基準達成状況（4年度）

道路種別 (道路に面する地域)	調査 区 間 数	評 価 対 象 戸 数	達成区間数	達成戸数	環境基準達成率(%)
国 道	8	776	3	676	87
県 道	10	2,171	9	2,170	99
計	18	2,947	12	2,846	97

- 注1 調査区間数とは、面的評価を行った区間数です。
 2 評価対象戸数とは、調査区間における住居等の戸数です。
 3 達成区間数とは、調査区間における住居等のすべてが昼間（6時～22時）及び夜間（22時～翌日6時）ともに環境基準を達成している区間の数です。
 4 達成戸数とは、評価対象戸数のうち昼間及び夜間ともに環境基準を達成している住居等数です。

② 自動車騒音の環境基準達成率の経年変化

区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
達成区間数/調査区間数	9/26 (35)	14/27 (52)	21/24 (88)	16/25 (64)	12/18 (67)
達成戸数/評価対象戸数	10,621/11,165 (95)	8,128/8,330 (98)	4,259/4,311 (99)	5,713/5,842 (98)	2,846/2,947 (97)

注 () 内の数値は、調査区間数、評価対象戸数に対する達成数の割合で、単位は%です。

表7-81 道路に面する地域の環境騒音調査結果（4年度）

(単位：dB)

環境基準の 地域の類型	測定地点数	平 均		昼 間 (6時～22時)	夜 間 (22時～6時)
		昼間	夜間		
A	6	55	50	39～66	39～60
B	18	65	56	59～70	45～66
C	33	64	58	45～72	44～68
特 例	10	67	61	65～70	58～66
その他	22	59	55	47～72	41～69

注 騒音の測定は、県、10市町が89地点で実施しました。

表7-82 航空機騒音の年度別推移

(単位：dB)

調査地点名	調査時期	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
富山市萩	春季	55	54	38	46	49
	夏季	55	54	49	45	51
	秋季	55	56	48	47	51
	冬季	53	54	49	47	48
	年間	54	54	47	46	50
富山市塚	春季	52	52	38	45	48
	夏季	51	51	47	44	48
	秋季	52	54	46	46	49
	冬季	50	51	47	46	46
	年間	51	52	46	45	48
富山市新保	春季	49	49	42	46	48
	夏季	47	48	47	45	46
	秋季	47	50	46	43	46
	冬季	49	49	47	45	48
	年間	48	49	46	45	47
富山市中萩	春季	51	52	41	48	50
	夏季	48	49	44	47	47
	秋季	51	53	46	45	49
	冬季	53	51	49	47	50
	年間	51	52	46	47	49
環境基準	類型Ⅱ (L _{den} 62以下)					

- 注1 騒音調査は、各調査時期においてそれぞれ7日間連続測定しました。
 注2 環境基準との評価は、年間値で行います。

表7-83 北陸新幹線鉄道に係る騒音調査結果（4年度）

	調査地点	調査実施者	測定地点側の軌道 (上下の別)	地域類型	騒音評価値 (dB)	平均列車速度 (km/h)
1	魚津市蛇田付近	県	上	I	72	238
2	滑川市大掛付近	県	上	I	71	256
3	富山市水橋下砂子坂付近	富山市	下	I	70	243
4	富山市水橋開発付近	富山市	下	II	73	228
5	富山市千成町付近	富山市	上	II	69	170
6	富山市綾田町付近	富山市	下	I	71	112
7	富山市安養坊付近	富山市	下	I	75	107
8	富山市野々上付近	富山市	下	I	70	241
9	射水市安吉付近	県	下	I	69	228
10	高岡市下伏間江付近	県	下	I	74	166
11	高岡市駒方付近	県	上	I	71	222
12	小矢部市野端付近	県	下	I	75	258
環 境 基 準					I : 70以下 II : 75以下	—

表7-84 騒音規制法に基づく特定施設の届出状況

(5年3月31日現在)

市 町	工場・事業場数	特 定 施 設 数											計
		金属加工機械	空気圧縮機等	土石用破碎機等	織機	建設用資材製造機械	穀物用製粉機	木材加工機械	抄紙機	印刷機	射出成形樹脂用機	鑄造型機	
富山市	660	862	3,499	186	0	20	2	236	2	446	199	2	5,454
高岡市	461	699	1,603	60	645	8	0	249	2	108	140	63	3,577
魚津市	51	23	159	20	0	0	0	25	0	18	14	0	259
氷見市	35	112	122	25	20	7	0	5	0	5	1	8	305
滑川市	26	87	247	22	0	1	0	9	0	12	7	0	385
黒部市	32	796	582	12	520	0	0	14	0	37	424	591	2,976
砺波市	88	75	335	23	227	7	0	50	0	12	123	0	852
小矢部市	54	35	89	10	32	4	24	26	2	25	107	1	355
南砺市	103	105	360	0	455	0	1	124	0	24	51	0	1,120
射水市	129	295	1,076	78	286	17	1	203	0	22	17	0	1,995
上市町	25	6	159	2	1,435	1	1	5	0	3	94	0	1,706
立山町	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
入善町	23	114	140	10	113	0	0	0	7	0	1	6	391
朝日町	9	5	40	0	0	0	0	2	0	3	2	0	52
計	1,697	3,214	8,412	448	3,733	65	29	948	13	715	1,180	671	19,428

表7-85 公害防止条例に基づく騒音の届出工場・事業場の状況

(5年3月31日現在)

市 町 村	工場・事業場数	市 町 村	工場・事業場数
富山市	720	南砺市	316
高岡市	458	射水市	117
魚津市	96	舟橋村	5
氷見市	112	上市町	79
滑川市	170	立山町	29
黒部市	150	入善町	58
砺波市	120	朝日町	35
小矢部市	54	計	2,519

表7-86 騒音関係立入検査状況（4年度）

業種	食料品製造業	パルプ・紙・紙加工品製造業	化学工業	鉄鋼業	非鉄金属製造業	金属製品製造業	一般機械器具製造業	電子部品・デバイス製品製造業	電気業	廃棄物処理業	その他	合計
立入検査件数	4	8	19	4	4	6	3	5	1	0	5	59

注 件数は、延べ件数です。

表7-87 道路交通振動の調査結果（4年度）

区域区分	測定地点数	昼間(dB) (8時~19時)	夜間(dB) (19時~翌8時)
第1種区域 第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域	16	20~48 (65)	13~36 (60)
第2種区域 近隣商業地域、商業地域、準工業地域	22	29~47 (70)	15~40 (65)
上記の区域以外	14	20~47	18~52

注1 ()は、道路管理者又は公安委員会に対する要請限度です。
 2 区域区分の地域は、都市計画法第8条第1項第1号に掲げる用途地域です。

表7-88 振動規制法に基づく特定施設の届出状況

(5年3月31日現在)

市 町	工場・事業場数	特 定 施 設 数										計
		金属加工機械	圧縮機	土石用破碎機等	織機	ブロックマシン等コンクリート	木材加工機械	印刷機械	ロール機	合射出成樹脂形用機	鑄造型機	
富山市	380	843	1,273	207	0	10	26	174	4	167	5	2,709
高岡市	312	864	822	69	539	10	33	25	2	141	72	2,577
魚津市	22	29	54	5	0	0	3	0	0	10	0	101
氷見市	9	11	25	19	20	0	0	0	0	3	3	81
滑川市	16	100	199	26	0	0	3	15	0	15	0	358
黒部市	16	211	75	28	65	0	3	13	31	159	1	586
砺波市	21	15	36	1	168	0	10	20	0	104	0	354
小矢部市	25	29	43	0	38	8	5	5	2	100	0	230
南砺市	32	17	79	0	455	0	6	2	0	31	0	590
射水市	61	76	99	65	0	0	30	3	0	19	0	292
上市町	13	0	57	0	1,453	0	0	0	0	38	0	1,548
立山町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入善町	14	8	48	2	113	0	0	1	0	0	3	175
朝日町	5	3	3	0	0	0	3	3	0	0	0	12
計	926	2,206	2,813	422	2,851	28	122	261	39	787	84	9,613

表7-89 振動関係立入検査状況（4年度）

業 種	飲料・たばこ・飼料製造業	パルプ・紙・紙加工品製造業	化学工業	鉄鋼業	非鉄金属製造業	金属製品製造業	一般機械器具製造業	電子部品・デバイス製品製造業	その他	計
立入検査件数	2	6	12	2	1	4	3	3	5	38

注 件数は、延べ件数です。

表7-90 公害防止条例に基づく悪臭の届出工場・事業場の概要
(5年3月31日現在)

市 町 村	工場・事業場数	市 町 村	工場・事業場数
富山市	155	南砺市	77
高岡市	17	射水市	5
魚津市	30	舟橋村	0
氷見市	35	上市町	40
滑川市	18	立山町	105
黒部市	104	入善町	24
砺波市	34	朝日町	4
小矢部市	10	計	658

表7-91 畜産業の悪臭実態調査結果（4年度）

業 種	畜産業（乳牛舎等）	
工場・事業場数	1	
測定場所	堆肥舎内	敷地境界
臭気指数	17~25	19~24
単 位	10×Log	

表7-92 畜産環境保全実態調査結果（4年度）

畜種	区分	調査戸数	主な処理施設					
			天日乾燥	火力乾燥	堆積発酵	強制発酵	浄化处理	その他
乳用牛		33	—	—	55	8	—	12
肉用牛		26	—	—	29	2	—	—
豚		13	—	—	21	5	12	—
鶏		16	1	—	21	10	—	2
計		88	1	—	126	25	12	14

表7-93 畜産農家の定期巡回指導等の実施状況（4年度）

（単位：件）

区 分	乳用牛	肉用牛	豚	鶏	計
定期巡回指導	31	21	12	15	79
水 質 検 査	—	—	6	—	6
悪 臭 調 査	1	—	—	—	1

表7-94 公害防止管理者等の選任届出状況

（5年3月31日現在）

区 分		届 出 状 況
公 害 防 止 統 括 者		177 (68)
公 害 防 止 主 任 管 理 者		13 (2)
大 気 関 係 公 害 防 止 管 理 者	第 1 種	2 (1)
	第 2 種	5 (1)
	第 3 種	44 (9)
	第 4 種	45 (16)
水 質 関 係 公 害 防 止 管 理 者	第 1 種	13 (3)
	第 2 種	73 (21)
	第 3 種	6 (1)
	第 4 種	26 (7)
一 般 粉 じ ん 関 係 公 害 防 止 管 理 者	粉 じ ん	23 (2)
騒 音 関 係 公 害 防 止 管 理 者	騒 音	26 (18)
振 動 関 係 公 害 防 止 管 理 者	振 動	36 (27)
ダ イ オ キ シ ン 類 関 係 公 害 防 止 管 理 者	ダ イ オ キ シ ン	11 (3)
計		500 (179)

注 () は、市町村事務分で、内数です。

表7-95 対策地域内の玄米及び土壌中カドミウム濃度（神通川流域）

地域区分	玄米中 (ppm)				土壌中 (ppm)							
	点数	最高	最低	平均	作 土				次 層 土			
					点数	最高	最低	平均	点数	最高	最低	平均
左岸地域	362	4.23	0.25	1.02	362	4.50	0.46	1.09	203	4.86	0.06	0.64
右岸地域	182	2.74	0.25	0.93	182	4.85	0.47	1.16	101	5.17	0.09	0.82
全 体	544	4.23	0.25	0.99	544	4.85	0.46	1.12	304	5.17	0.06	0.70

表7-96 対策地域内の玄米及び土壌中カドミウム濃度（黒部地域）

地域区分	玄米中 (ppm)				土壌中 (ppm)							
	点数	最高	最低	平均	作 土				次 層 土			
					点数	最高	最低	平均	点数	最高	最低	平均
黒部地域	44	1.34	0.47	0.79	44	22.60	3.85	7.57	19	3.24	0.14	0.85

表7-97 神通川流域における土地利用区分と面積（実測）

（単位：ha）

計画区分	対策地域の面積			①のうち農用地として利用する面積					①のうち農用地以外として利用する面積
	①農用地(田)	農用地以外	計	事業対象面積			事業対象外面積(砂利採取)田	計	
				田	畑	計			
第1次地区	96.7	11.3	108.0	76.2	0.6	76.8	11.8	88.6	8.1
第2次地区	427.2	53.9	481.1	326.6 292.1	5.9 3.8	332.5 295.9	73.7 80.9	406.2 376.8	21.0 50.4
第3次地区	960.5	94.8	1,055.3	402.0 371.2	5.5 9.5	407.5 380.7	14.3 14.3	421.8 395.0	538.7 565.5
計	1,484.4	160.0	1,644.4	804.8 739.5	12.0 13.9	816.8 753.4	99.8 107.0	916.6 860.4	567.8 624.0

注 第2次地区、第3次地区及び計の上段は当初計画、下段は変更計画です。

表7-98 神通川流域における第1～3次地区の復旧方式等

区 分	第1次地区	第2次地区	第3次地区
復 旧 方 式	区画整理方式	区画整理方式 原状回復方式	区画整理方式 原状回復方式
対 策 工 法	埋込客土工法 上乘せ客土工法	埋込客土工法 上乘せ客土工法	埋込客土工法 上乘せ客土工法
客土母材の採土地	大沢野町*市場地内の山林	大沢野町*市場地内の山林 八尾町*横ノ手地内の山林	八尾町*卯花地内の山林

注 *は現富山市です。

表7-99 黒部地域における土地利用区分と面積（実測）

（単位：ha）

市名	対策地域の面積				①、②のうち農用地として利用する面積						①②のうち農用地以外として利用する面積
	①農用地(田)	②農用地(畑)	農用地以外	計	左のうち事業対象面積			左のうち事業対象面積			
					田	畑	計	田	畑	計	
黒部市	115.8	0.2	16.1	132.1	44.0	0.2	44.2	44.0	－	44.0	71.8
					40.5	0.2	40.7	40.5	－	40.5	75.3
					57.6	0.8	58.4	57.6	0.6	58.2	57.6

注 上段は当初計画、中段は8年の変更計画、下段は20年の変更計画です。

表7-100 黒部地域における対策地域の復旧方式等

区分	黒部地域
復旧方式	原状回復方式（一部未整備地域は区画整理方式）
対策工法	排土客土工法
客土母材の採土地	黒部市田糶地内の山林

表7-101 土壌汚染対策法に基づく要措置区域及び形質変更時要届出区域の概要

（5年3月31日現在）

① 要措置区域

指定年月日	指定番号	区域の所在地	区域の面積(m ²)	基準に適合しない特定有害物質
令和2年12月21日	指-11	黒部市吉田1番の一部	1,200	トリクロロエチレン、六価クロム化合物

② 形質変更時要届出区域

指定年月日	指定番号	区域の所在地	区域の面積(m ²)	基準に適合しない特定有害物質
平成16年7月16日	指-1	高岡市吉久1丁目273番21の全部並びに同市吉久1丁目351番5、351番8、351番9、351番13及び351番14の一部	1,065	六価クロム化合物
平成19年6月6日	指-3	高岡市長慶寺1032番1の全部並びに同市長慶寺1032番2、1032番3、1033番1及び1033番2の一部	2,105	ふっ素及びその化合物
平成22年3月10日	指-4	小矢部市桜町字狐谷1239番1の一部	420.5	シス-1,2-ジクロロエチレン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン
平成23年9月22日	指-6	高岡市伏木二丁目39番1、53番1、55番、61番、63番1及び68番2の一部	7,800	鉛及びその化合物、ひ素及びその化合物、ふっ素及びその化合物

表7-102 地下水の水質測定地点数（4年度）

① 概況調査

市 町 村	地 点 数	測 定 機 関	市 町 村	地 点 数	測 定 機 関
富 山 市	20	富 山 市	小 矢 部 市	5	富 山 県
高 岡 市	9	富 山 県	南 砺 市	8	//
魚 津 市	3	//	射 水 市	5	//
氷 見 市	3	//	上 市 町	2	//
滑 川 市	2	//	立 山 町	3	//
黒 部 市	5	//	入 善 町	5	//
砺 波 市	6	//	計	76	

② 継続監視調査

市 町 村	地 点 数	測 定 機 関	市 町 村	地 点 数	測 定 機 関
氷 見 市	3	富 山 県	南 砺 市	3	富 山 県
小 矢 部 市	3	//	計	9	

表7-103 地下水の概況調査結果（4年度）

（単位：mg/L）

調査項目	調査地点数	検出地点	測定結果	環境基準超過地点数	環境基準値	定量下限値
カドミウム	76	0	ND	0	0.003	0.0003
全シアン	76	0	ND	0	検出されないこと	0.1
鉛	76	0	ND	0	0.01	0.005
六価クロム	76	0	ND	0	0.02	0.01
ヒ素	76	3	ND~0.017	1	0.01	0.005
総水銀	76	0	ND	0	0.0005	0.0005
アルキル水銀	—	—	—	—	検出されないこと	0.0005
ジクロロメタン	76	0	ND	0	0.02	0.002
四塩化炭素	76	0	ND	0	0.002	0.0002
クロロエチレン	76	0	ND	0	0.002	0.0002
1,2-ジクロロエタン	76	0	ND	0	0.004	0.0004
1,1-ジクロロエチレン	76	0	ND	0	0.1	0.01
1,2-ジクロロエチレン	76	0	ND	0	0.04	0.004
1,1,1-トリクロロエタン	76	0	ND	0	1	0.0005
1,1,2-トリクロロエタン	76	0	ND	0	0.006	0.0006
トリクロロエチレン	76	0	ND	0	0.01	0.001
テトラクロロエチレン	76	0	ND	0	0.01	0.0005
1,3-ジクロロプロペン	76	0	ND	0	0.002	0.0002
チウラム	76	0	ND	0	0.006	0.0006
シマジン	76	0	ND	0	0.003	0.0003
チオベンカルブ	76	0	ND	0	0.02	0.002
ベンゼン	76	0	ND	0	0.01	0.001
セレン	76	1	ND~0.002	0	0.01	0.002
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	76	69	ND~5.3	0	10	0.1
ふっ素	76	25	ND~0.60	0	0.8	0.08
ほう素	76	1	ND~0.3	0	1	0.1
1,4-ジオキサン	76	0	ND	0	0.05	0.005

注1 NDとは、定量下限値未満です。

注2 アルキル水銀は、総水銀が検出された場合のみ測定します。

表7-104 地下水の継続監視調査結果（4年度）

（単位：mg/L）

調査項目	調査地域	調査地点数	検出地点数	測定結果	環境基準超過地点数	環境基準値	定量下限値
トリクロロエチレン	小矢部市埴生	3	2	ND~0.010	0	0.01	0.001
テトラクロロエチレン	小矢部市埴生	3	2	ND~0.011	1	0.01	0.0005
	南砺市本町	3	2	ND~0.0028	0		
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	氷見市諏訪野	3	3	1.1~4.0	0	10	0.1

- 注1 NDとは、定量下限値未満です。
 2 測定結果は、調査地点ごとの年平均値です。

表7-105 地下水の継続監視調査結果の推移

（単位：mg/L）

調査項目	調査地域	調査地点数	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
トリクロロエチレン [0.01]	小矢部市埴生	3	ND~0.001	ND~0.042	ND~0.035	ND~0.004	ND~0.010
テトラクロロエチレン [0.01]	小矢部市埴生	3	ND~0.0006	ND~0.045	ND~0.038	ND~0.0037	ND~0.011
	南砺市本町	3	ND~0.0089	ND~0.0091	ND~0.0089	ND~0.0042	ND~0.0028
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 [10]	氷見市諏訪野	3	0.7~6.4	1.3~6.2	1.3~7.5	1.7~6.6	1.1~4.0

- 注1 調査項目の [] 内は、環境基準値を示しています。
 2 NDとは、定量下限値（トリクロロエチレン0.001mg/L、テトラクロロエチレン0.0005mg/L、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素0.1mg/L）未満です。
 3 測定結果は、調査地点ごとの年平均値です。

表7-106 ダイオキシン類環境調査結果（4年度）

① 大 気

区 分	市町村名	調査地点	調査回数	調査結果 [pg-TEQ/m ³]			調査機関
				夏 季	冬 季	平 均	
住居地域	富山市	安野屋町	年2回	0.011	0.0086	0.0098	富山市
	//	水橋畠等	//	0.0075	0.011	0.0093	//
	//	婦中町笹倉	//	0.0076	0.010	0.0087	//
	高岡市	広小路	//	0.014	0.0059	0.010	高岡市
	//	戸出	//	0.0080	0.0045	0.0063	//
	氷見市	窪	//	0.0060	0.0057	0.0059	富山県
	黒部市	植木	//	0.012	0.0063	0.0092	//
	南砺市	柴田屋	//	0.052	0.0052	0.029	//
	射水市	中太閤山	//	0.0080	0.0076	0.0078	//
工業地域	富山市	蓮町	//	0.0091	0.011	0.010	富山市
	高岡市	伏木東一宮	//	0.0077	0.0083	0.0080	富山県
	射水市	東明中町	//	0.0079	0.014	0.011	射水市
廃棄物焼却施設周辺	射水市	大江	//	0.0071	0.0059	0.0065	富山県
環 境 基 準						0.6	

② 公共用水域水質

ア 河川

河川等	調査地点	調査回数	調査結果 [pg-TEQ/L]			調査機関
			1回目	2回目	平均	
余川川	間島橋	年1回	0.081	—	0.081	富山県
仏生寺川/湊川	中の橋	//	0.41	—	0.41	//
小矢部川	城光寺橋	//	0.13	—	0.13	国土交通省
千保川	地子木橋	//	0.14	—	0.14	高岡市
祖父川	新祖父川橋	//	0.13	—	0.13	//
庄川	新庄川橋	//	0.068	—	0.068	国土交通省
	大門大橋	//	0.068	—	0.068	//
内川	山王橋	//	0.31	—	0.31	富山県
新堀川	白石橋	//	0.059	—	0.059	//
神通川	神通大橋	//	0.076	—	0.076	国土交通省
いたち川	四ツ屋橋	年2回	0.10	0.077	0.089	富山市
松川	桜橋	//	0.12	0.081	0.10	//
富岩運河	萩浦小橋	//	0.50	0.92	0.71	//
岩瀬運河	岩瀬橋	//	0.077	0.11	0.094	//
常願寺川	常願寺橋	年1回	0.068	—	0.068	国土交通省
白岩川	東西橋	年2回	0.10	0.074	0.087	富山市
鴨川	港橋	年1回	0.10	—	0.10	富山県
黒瀬川	石田橋	//	0.51	—	0.51	//
高橋川	立野橋	//	0.13	—	0.13	//
黒部川	下黒部橋	//	0.067	—	0.067	国土交通省
	宇奈月ダム	//	0.067	—	0.067	//
小川	赤川橋	//	0.13	—	0.13	富山県
境川	境橋	//	0.048	—	0.048	//
環境基準			1			

イ 海域

海域	調査地点	調査回数	調査結果 [pg-TEQ/L]	調査機関
小矢部川河口海域	小矢部 2	年 1 回	0.070	富山県
神通川河口海域	神通 2	//	0.063	//
その他の富山湾海域	その他 6	//	0.062	//
//	その他 8	//	0.044	//
環境基準			1	

③ 公共用水域底質

ア 河川

河川等	調査地点	調査回数	調査結果[pg-TEQ/g]	調査機関
仏生寺川/湊川	中の橋	年1回	10	富山県
小矢部川	城光寺橋	//	0.22	国土交通省
庄川	新庄川橋	//	0.78	//
	大門大橋	//	0.22	//
内川	山王橋	//	28	富山県
新堀川	白石橋	//	3.2	//
神通川	神通大橋	//	0.23	国土交通省
いたち川	四ツ屋橋	//	0.63	富山市
富岩運河	萩浦小橋	//	470	//
常願寺川	常願寺橋	//	0.22	国土交通省
鴨川	港橋	//	0.86	富山県
黒部川	下黒部橋	//	0.21	国土交通省
	宇奈月ダム	//	1.1	//
環境基準			150	

イ 海域

海域	調査地点	調査回数	調査結果[pg-TEQ/g]	調査機関
小矢部川河口海域	小矢部 2	年 1 回	6.4	富山県
神通川河口海域	神通 2	//	1.9	//
その他の富山湾海域	その他 6	//	6.1	//
//	その他 8	//	1.3	//
環境基準			150	

④ 地下水質

市町村	調査地点	調査回数	調査結果[pg-TEQ/L]	調査機関
富山市	四方荒屋	年1回	0.057	富山市
//	蓮町	//	0.057	//
//	水橋小池	//	0.057	//
//	鍋田	//	0.057	//
//	堀川小泉町	//	0.057	//
//	西の番	//	0.057	//
//	笹津	//	0.058	//
//	花崎	//	0.057	//
高岡市	長慶寺	//	0.044	高岡市
//	北島	//	0.044	//
砺波市	五郎丸	//	0.041	富山県
小矢部市	鷺島	//	0.041	//
南砺市	土生新	//	0.041	//
//	柴田屋	//	0.041	//
環境基準			1	

⑤ 土壌

区分	市町村	調査地点	調査回数	調査結果[pg-TEQ/g]	調査機関
一般環境	富山市	四方荒屋	年1回	0.0063	富山市
		横越	//	0.0019	//
		鍋田	//	0.48	//
		西の番	//	1.3	//
		江本	//	0.042	//
		花崎	//	0.14	//
	婦中町河原町	//	0.027	//	
	高岡市	佐加野	//	0.050	富山県
発生源周辺	射水市	西高木	//	2.2	//
環境基準				1,000	

表7-107 ダイオキシン類対策特別措置法に基づく特定施設の届出状況

① 大気基準適用施設

(5年3月31日現在)

市 郡 名	工 場 ・ 事 業 場 数	特 定 施 設 数					計
		焼結鉱の製造の用に供する焼結炉	製鋼の用に供する電気炉	亜鉛の回収の用に供する焙焼炉、焼結炉、溶鉱炉、溶解炉及び乾燥炉	焙焼炉、溶解炉及び乾燥炉 アルミニウム合金の製造の用に供する	廃棄物焼却炉	
富山市	30		1		5	31	37
高岡市	12				13	9	22
魚津市	2					2	2
氷見市	2				1	3	4
滑川市	1					1	1
黒部市	6				2	5	7
砺波市	5					6	6
小矢部市	6				7	4	11
南砺市	5				1	4	5
射水市	11		1		16	11	28
舟橋村	0						0
上市町	0						0
立山町	3					8	8
入善町	0						0
朝日町	1					3	3
計	84	0	2	0	45	87	134

② 水質基準対象施設

(5年3月31日現在)

市郡名	工場・事業場数	特 定 施 設 数																			
		硫酸塩バルブ又は亜硫酸バルブ製造の用に供する塩素又は塩素化合物による漂白施設	カーバイド法アセチレンの製造の用に供するアセチレン洗浄施設	硫酸カリウム製造の用に供する廃ガス洗浄施設	アルミナ繊維製造の用に供する廃ガス洗浄施設	担体付き触媒の製造の用に供する焼成炉から発生するガスを処理する施設のうち、廃ガス洗浄施設	塩化ビニルモノマー製造の用に供する二塩化エチレン洗浄施設	カプロラクタム製造の用に供する硫酸濃縮施設、シクロヘキサン分離施設、廃ガス洗浄施設	クロロベンゼン又はジクロロベンゼン製造の用に供する水洗施設、廃ガス洗浄施設	4-クロロフタル酸水素ナトリウムの製造の用に供するろ過施設、乾燥施設、廃ガス洗浄施設	2,3-ジクロロロート、4-ナフトキソンの製造の用に供するろ過施設	シオキサジンバイオレット製造の用に供する二トク化誘導体分離施設	シオキサジンバイオレット製造の用に供する二トク化誘導体分離施設	シオキサジンバイオレット製造の用に供する二トク化誘導体分離施設	シオキサジンバイオレット製造の用に供する二トク化誘導体分離施設	シオキサジンバイオレット製造の用に供する二トク化誘導体分離施設	シオキサジンバイオレット製造の用に供する二トク化誘導体分離施設	シオキサジンバイオレット製造の用に供する二トク化誘導体分離施設	計		
富山市	7																8	2	2	12	
高岡市	6	3											2				13	1	1	20	
魚津市	1	1																		1	
氷見市	1																1			1	
滑川市																				0	
黒部市	1																2			2	
砺波市	1																1			1	
小矢部市																				0	
南砺市																				0	
射水市	5												4	1			6		2	13	
舟橋村																				0	
上市町																				0	
立山町	2																3			3	
入善町																				0	
朝日町																				0	
計	24	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	34	1	0	5	2	53

表7-108 公害防止事業に係る費用負担計画の概要（富岩運河底質対策）

告示年月日		25年12月25日第500号
公害防止事業の種類		覆砂事業及びしゅんせつ事業
費用を負担させる事業者を定める基準		富山市下奥井及び富山市久方町の大島川排水路周辺に現に事業場を所有し、又は過去に事業場を所有していた事業者 富岩運河流域又はいたち川流域において、1960年代から1970年代までの間に農薬ペンタクロロフェノールの製造に係る事業活動を行っていた事業者
負担総額及び算定基礎	公害防止事業費 ①	2,034百万円
	寄与割合 ②	0.774
	特別の事情による減額	
	工事の期間を限定することに 伴い増嵩する額 ③	76百万円
	公害防止事業費事業者負担法 第7条第2号イの規定を参考に 設定した減額割合 ④	1/4
負担総額 (①-③) × ② × (1-④)		1,137百万円
その他		物価の変動その他やむを得ない事由により、公害防止事業費の額に変更を生じたときは、変更後の公害防止事業費の額を基礎として算定した額を負担総額とする。 覆砂事業後に覆砂材の補充が必要となった場合は、工事の対象範囲及び規模並びに費用負担を求める期間について検討を行ったうえで、費用負担計画を変更し、費用を負担させる事業者に必要な費用負担を求める。

表7-109 有害大気汚染物質の調査概要（4年度）

区分	調査地点	調査対象物質 ◆：環境基準設定物質 ◇：指針値設定物質	調査回数	分析方法
一般環境	富山芝園観測局	VOC ベンゼン(◆)、トリクロロエチレン(◆)、テトラクロロエチレン(◆)、ジクロロメタン(◆)、アクリロニトリル(◇)、塩化ビニルモノマー(◇)、塩化メチル(◇)、クロロホルム(◇)、1,2-ジクロロエタン(◇)、1,3-ブタジエン(◇)、トルエン	1回/月	VOC キャニスター採取－低温濃縮－ガスクロマトグラフ質量分析法
	小太杉山閤観測局	アルデヒド類 アセトアルデヒド(◇)、ホルムアルデヒド 重金属類 水銀及びその化合物(◇)、ニッケル化合物(◇)、ヒ素及びその化合物(◇)、マンガン及びその化合物(◇)、クロム及びその化合物、ベリリウム及びその化合物 酸化エチレン ベンゾ[a]ピレン	VOC： 1回/月	アルデヒド類 DNPH捕集管採取－溶媒抽出－高速液体クロマトグラフ分析法 水銀及びその化合物 金アマルガム採取－加熱気化－原子吸光度分析法 重金属類（水銀以外のもの） ハイボリウムエアサンプラー採取－酸又は圧力容器分解－誘導結合プラズマ質量分析法 酸化エチレン
固定発生源周辺及び沿道	高岡伏木観測局	重金属類	重金属類： 1回/2月	固相採取－溶媒抽出－ガスクロマトグラフ質量分析法 ベンゾ[a]ピレン
	魚津観測局		その他： 1回/季	ハイボリウムエアサンプラー採取－溶媒抽出－高速液体クロマトグラフ分析法
	福野観測局			
固定発生源周辺及び沿道	高岡大坪観測局	VOC アルデヒド類 ベンゾ[a]ピレン		

表7-110 その他優先取組物質の調査結果（4年度）

区分	項目 物質 調査地点	年平均値 (μg/m³)									調査機関
		アクリロニトリル	塩化ビニルモノマー	塩化メチル	クロロホルム	1,2-ジクロロエタン	1,3-ブタジエン	アセトアルデヒド	トルエン	ホルムアルデヒド	
一般環境	富山芝園	<0.1	<0.1	1.3	0.28	<0.1	<0.1	0.82	2.0	0.77	富山市
	小杉太閤山	<0.1	<0.1	1.4	0.18	<0.1	<0.1	1.2	1.6	1.7	
固定発生源周辺及び沿道	高岡大坪	<0.1	<0.1	1.6	1.7	<0.1	<0.1	1.6	6.4	2.2	富山県
3年度全国調査結果平均値（環境省）		0.061	0.041	1.4	0.25	0.14	0.075	2.1	6.2	2.5	
指 針 値		2	10	94	18	1.6	2.5	120	—	—	

区分	項目 物質 調査地点	年平均値 (μg/m³)								調査機関
		水銀及びその化合物	ニッケル化合物	ヒ素及びその化合物	マンガン及びその化合物	クロム及びその化合物	ベリリウム及びその化合物	酸化エチレン	ベンゾ(a)ピレン	
一般環境	富山芝園	0.0018	<0.004	0.00076	<0.014	<0.005	<0.0002	0.048	0.000047	富山市
	小杉太閤山	0.0014	<0.004	0.00092	<0.014	<0.005	<0.0002	0.028	<0.00003	
固定発生源周辺	高岡伏木	0.0018	0.0094	0.00076	<0.014	0.0070	<0.0002			富山県
	魚津	0.0015	<0.004	0.00084	<0.014	<0.005	<0.0002			
	福野	0.0014	<0.004	0.00073	<0.014	<0.005	<0.0002			
固定発生源周辺及び沿道	高岡大坪								<0.00003	
3年度全国調査結果平均値（環境省）		0.0017	0.0025	0.0011	0.020	0.0043	0.000015	0.066	0.00015	
指 針 値		0.04	0.025	0.006	0.14	—	—	—	—	

表7-111 有害大気汚染物質濃度の年度別推移

(単位：μg/m³)

年 度		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	環境基準 又は 指針値
環 境 基 準 設 定 物 質	ベンゼン	0.58~1.0	0.53~0.78	0.48~0.84	0.50~0.83	0.44~0.74	3
	トリクロロエチレン	<0.1~3.0	<0.1~3.0	<0.1~2.7	<0.1~3.0	<0.1~7.2	130
	テトラクロロエチレン	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	200
	ジクロロメタン	1.1~4.1	1.1~3.1	0.93~2.2	0.91~4.0	0.89~6.2	150
指 針 値 設 定 物 質	アクリロニトリル	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	2
	アセトアルデヒド	1.3~1.7	1.1~1.8	1.1~1.5	0.71~1.6	0.82~1.6	120
	塩化ビニルモノマー	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	10
	塩化メチル	1.3~1.6	1.2~1.4	1.2~1.4	1.3~1.4	1.3~1.6	94
	クロロホルム	0.19~0.50	0.17~0.82	0.18~0.37	0.18~1.0	0.18~1.7	18
	1,2-ジクロロエタン	0.12~0.17	<0.1~0.12	<0.1~0.14	0.10~0.13	<0.1	1.6
	水銀及びその化合物	0.0015~ 0.0019	0.0015~ 0.0024	0.0015~ 0.0023	0.0016~ 0.0020	0.0014~ 0.0018	0.04
	ニッケル化合物	<0.004~ 0.0042	<0.004~ 0.0062	<0.004~ 0.011	<0.004~ 0.0084	<0.004~ 0.0094	0.025
	ヒ素及びその化合物	0.00084~ 0.0010	0.00066~ 0.00084	0.00072~ 0.0011	<0.0006~ 0.0011	0.00073~ 0.00092	0.006
	1,3-ブタジエン	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	2.5
マンガン及びその化合物	<0.014	<0.014	<0.014	<0.014	<0.014	0.14	
そ の 他 優 先 取 組 物 質	クロム及びその化合物	<0.005~ 0.0075	<0.005~ 0.0051	<0.005~ 0.0080	<0.005~ 0.016	<0.005~ 0.0070	
	酸化エチレン	0.062~ 0.097	0.062~ 0.078	0.018~ 0.052	0.036~ 0.038	0.028~ 0.048	
	トルエン	1.8~6.9	2.1~5.8	1.9~5.6	1.6~7.2	1.6~6.4	
	ベリリウム及びその化合物	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	
	ベンゾ [a] ピレン	<0.00003~ 0.00011	<0.00003~ 0.000088	<0.00003~ 0.000033	<0.00003~ 0.000034	<0.00003~ 0.000047	
	ホルムアルデヒド	1.6~1.9	1.4~2.1	1.6~1.9	1.1~2.2	0.77~2.2	

表7-112 ゴルフ場排水の農薬調査結果（4年度）

（単位：mg/L）

分類	農薬名	検出ゴルフ場数/ 調査ゴルフ場数	検出数/ 検体数	測定結果 総括	水濁 指針値	水産 指針値	定量 下限値
殺 虫 剤	イミダクロプリド	0/1	0/1	ND	1.5	0.019	0.01
	クロチアニジン	0/4	0/4	ND	2.5	0.028	0.02
	クロラントラニリブロール	0/2	0/2	ND	6.9	0.029	0.002
	チアメトキサム	0/3	0/3	ND	0.47	0.035	0.004
	チオジカルブ	0/1	0/1	ND	0.8	0.027	0.008
	テブフェノジド	0/1	0/1	ND	0.42	0.83	0.004
	フェニトロチオン又はMEP	0/1	0/1	ND	0.13	0.014	0.001
	フルベンジアミド	0/2	0/2	ND	0.45	0.058	0.005
	ペルメトリン	0/0	0/0	ND	1	0.0017	0.001
殺 菌 剤	アゾキシストロビン	0/4	0/4	ND	4.7	0.28	0.04
	イミノクタジナルベシル酸塩 及びイミノクタジン酢酸塩	0/2	0/2	ND	0.061	0.027	0.006
	クロロタロニル（TPN）	0/5	0/5	ND	0.47	0.08	0.004
	シアゾファミド	0/3	0/3	ND	4.5	0.088	0.008
	ジフェノコナゾール	0/2	0/2	ND	0.25	0.75	0.003
	シブココナゾール	0/3	0/3	ND	0.3	20	0.003
	チウラム（チラム）	0/4	0/4	ND	0.2	0.1	0.003
	チオファーネートメチル	0/1	0/1	ND	3	1	0.1
	テトラコナゾール	0/1	0/1	ND	0.1	2.8	0.003
	テブコナゾール	0/3	0/3	ND	0.77	2.6	0.007
	バリダマイシンA又はバリダマイシン	0/1	0/1	ND	9.5	100	1
	ピリベンカルブ	0/1	0/1	ND	1	0.6	0.06
	フェリムゾン	0/1	0/1	ND	0.5	6.2	0.05
	プロピコナゾール	0/2	0/2	ND	0.5	5.6	0.005
	ペンシクロン	0/5	0/5	ND	1.4	1	0.01
	ボスカリド	0/3	0/3	ND	1.1	5	0.01
メタラキシル及びメタラキシルM	0/2	0/2	ND	0.58	95	0.005	
除 草 剤	アシュラムナトリウム塩又はアシュラム	0/4	0/4	ND	10	90	0.02
	エトベンザニド	0/3	0/3	ND	1.1	0.78	0.07
	カフェンストロール	0/2	0/2	ND	0.07	0.02	0.003
	キノクラミン又はACN	0/4	0/4	ND	0.055	0.063	0.005
	クロリムロンエチル	0/2	0/2	ND	2	0.037	0.003
	シクロスルフアムロン	0/2	0/2	ND	0.8	0.035	0.008
	ジチオピル	0/2	0/2	ND	0.095	0.56	0.003
	トリアジフラム	0/1	0/1	ND	0.23	2.5	0.02
	ピリブチカルブ	0/1	0/1	ND	0.23	0.1	0.003
	フラザスルフロン	0/2	0/2	ND	0.34	0.17	0.003
ホラムスルフロン	0/2	0/2	ND	13	97	1	

分類	農薬名	検出ゴルフ場数/ 調査ゴルフ場数	検出数/ 検体数	測定結果 総括	水濁 指針値	水産 指針値	定量 下限値
除草 剤	メコプロップカリウム塩又はM C P Pカリウム塩、メコプロッ プジメチルアミン塩又はM C P Pジメチルアミン塩、メコプ ロップPイソプロピルアミン塩 及びメコプロップPカリウム塩	0/3	0/3	ND	0.47	81	0.004
	メトラクロール及びS-メトラク ロール	0/1	0/1	ND	2.5	0.23	0.02

注 「ND」とは定量下限値未満であることを示す。

表7-113 魚介類の水銀検査結果（4年度）

（単位：ppm）

No.	魚種	総水銀	検体採取年月日	検体採取場所	調査機関
1	ウマヅラハギ	0.03	2022年6月6日	魚津市	富山県
2	チダイ	0.05	//	//	
3	ウスメバル	0.07	//	//	
4	マアジ	0.08	//	//	
5	ホソトビウオ	0.03	//	//	
6	スルメイカ	0.07	2022年6月7日	氷見市	
7	トビウオ	0.04	//	//	
8	ホウボウ	0.06	//	//	
9	アジ	0.05	//	//	
10	ダツ	0.03	//	//	
11	フクラギ	0.07	//	//	
12	タチウオ	0.19	//	//	

表7-114 食品中のPCB検査結果（4年度）

検体名	検体数	検査結果 (ppm)			調査機関
		平均値	最高値	最低値	
内海内湾魚介類	4	ND	ND	ND	富山県
遠洋沖合魚介類	1	ND	ND	ND	
牛乳	3	ND	ND	ND	
鶏卵	4	ND	ND	ND	

注 NDとは、検出下限値未満です。

表7-115 公共下水道及び特定環境保全公共下水道の概要

(3年度末)

事業主体	着手年度	供用開始年度	認可計画面積 (ha)		汚水管渠整備面積 (ha)	処理面積 (ha)	認可計画人口 ^{注2} (人)		処理人口 (人)	備考
			認可計画面積 (ha)	農排分(内数) (ha)			認可計画人口 (人)	農排分(内数) (人)		
富山市	S27	S37	10,981	129	9,996	9,838	386,330	4,710	382,711	公共、特環
高岡市	S24	S40	5,252	—	4,369	4,369	143,043	—	154,723	公共、特環
魚津市	S60	H元	1,280	169	970	970	35,400	4,600	31,513	公共、特環
氷見市	S50	S58	1,587	371	974	974	46,160	8,150	27,178	公共、特環
滑川市	S54	H元	1,255	72	1,007	1,007	30,750	1,980	27,104	公共、特環
黒部市	S52	S61	1,387	93	931	931	33,120	2,800	26,453	公共、特環
砺波市	S59	H3	1,366	—	1,279	1,279	29,352	—	34,607	公共、特環
小矢部市	S57	H2	883	—	765	765	21,866	—	19,630	公共、特環
南砺市	S46	H元	1,968	—	1,781	1,781	46,409	—	41,967	公共、特環
射水市	S34	S45	2,655	84	2,400	2,400	80,730	2,782	81,274	公共、特環
上市町	H3	H4	121	—	121	121	3,890	—	3,136	特環
入善町	H8	H13	920	257	588	588	23,000	6,100	17,592	公共、特環
朝日町	H8	H13	502	—	456	456	10,500	—	9,610	公共、特環
中新川組合 ^{注1}	S62	H6	1,785	—	1,573	1,573	38,900	—	38,951	公共、特環
舟橋村			144	—	128	128	3,200	—	3,264	公共
上市町			707	—	657	657	13,900	—	13,848	公共、特環
立山町			934	—	788	788	21,800	—	21,839	公共、特環
計			31,942	1,175	27,210	27,210	929,450	31,122	896,449	

注1 中新川広域行政事務組合（舟橋村、上市町、立山町）

注2 認可計画人口は、観光人口を含みます。

図7-6 下水道の普及率の推移

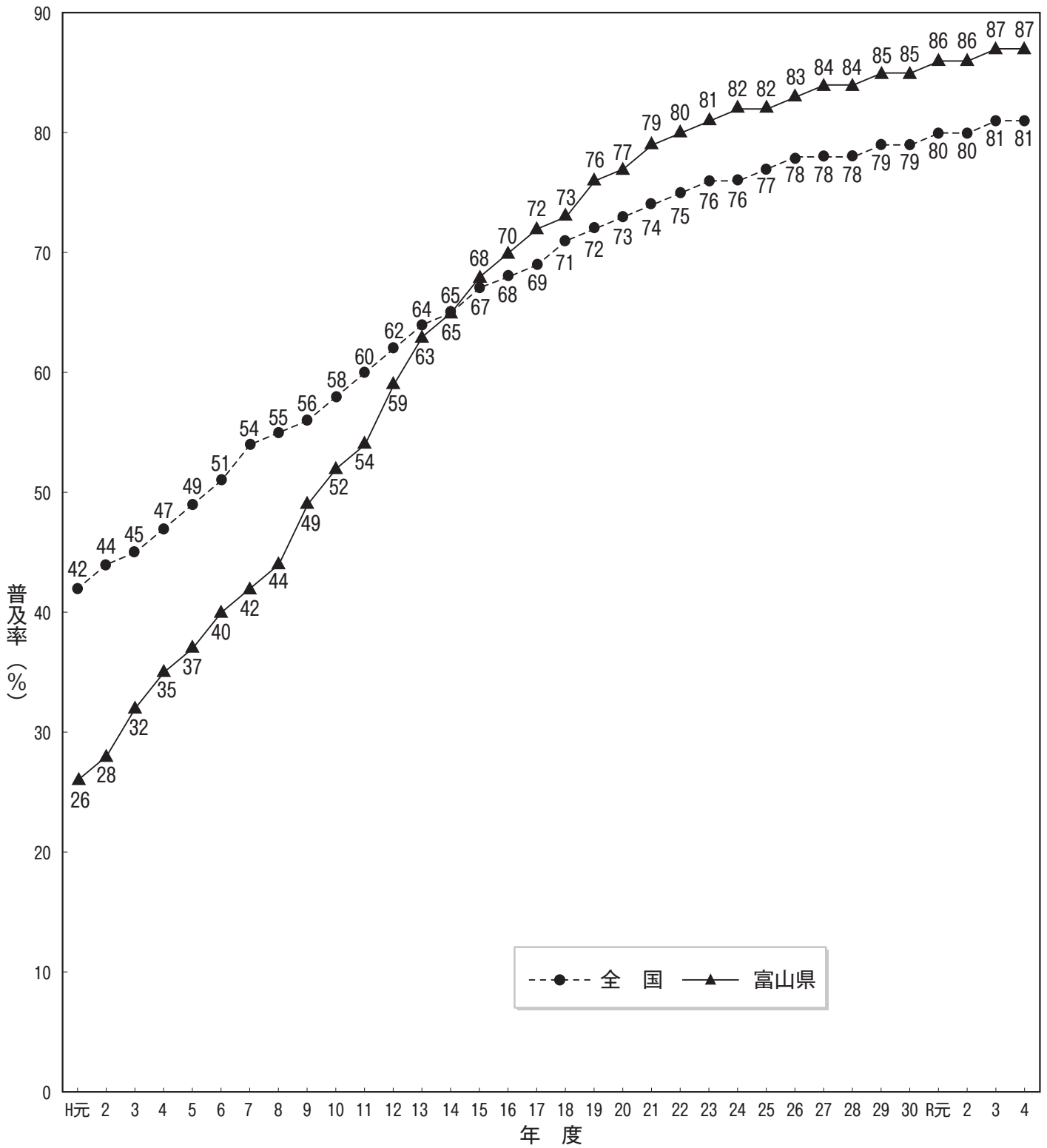


表7-116 農村下水道（農業集落排水施設）の整備状況

(5年3月31日現在)

市町村		地区数	整備計画 定住人口 (人)	備 考
新	旧			
富山市	富山市	22	15,515	供用22地区
	大沢野町	2	1,620	供用2地区
	大山町	7	3,735	供用7地区
	八尾町	12	2,917	供用12地区
	婦中町	3	1,910	供用3地区
	山田村	4	690	供用4地区
	細入村	2	440	供用2地区
高岡市	高岡市	4	2,584	供用4地区
	福岡町	3	2,650	供用3地区
魚津市		9	9,608	供用9地区
氷見市		9	11,911	供用9地区
滑川市		3	4,219	供用3地区
黒部市	黒部市	6	7,460	供用6地区
	宇奈月町	5	5,366	供用5地区
砺波市	砺波市	3	5,840	供用3地区
	庄川町	1	1,141	供用1地区
小矢部市		3	3,570	供用3地区
南砺市	城端町	2	2,200	供用2地区
	平村	7	1,291	供用7地区
	上平村	6	760	供用6地区
	利賀村	4	992	供用4地区
	福野町	2	1,170	供用1地区
	福光町	11	4,415	供用8地区
射水市	新湊市	3	3,230	供用3地区
	小杉町	3	3,067	供用3地区
	大門町	6	4,210	供用6地区
	下村	3	2,023	供用3地区
	大島町	2	900	供用2地区
上市町		4	2,602	供用4地区
立山町		5	3,510	供用5地区
入善町		3	6,809	供用3地区
計		159	118,355	供用155地区

表7-117 コミュニティ・プラントの整備状況
(5年3月31日現在)

市町村	施設数	計画処理人口(人)
富山市	2	1,690

表7-118 浄化槽設置推進事業の状況

(基数)

市町村	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
富山市	13	12	10	11	1
高岡市	6	6	4	5	10
魚津市	1	2	1		
氷見市	20	24	28	25	24
滑川市	2	28	13	19	3
黒部市	7	8	2	4	5
砺波市	11	24	24	29	27
小矢部市	25	24	21	14	12
南砺市					
射水市	2	2		2	1
上市町	1	1	1	1	1
立山町	2	3			
入善町		1		1	
朝日町	1	5	5	5	3
計	91	140	109	116	87

注 浄化槽設置推進事業による設置基数の総数は、10,623基です。

表7-119 公害審査会に係属した事件

(4年度末現在)

手続の種類	市 町	申請年月	対 象	終結年月	終結区分
調 停	魚津市	昭和52年4月	工場騒音・振動	52年9月	調停成立
	富山市	57年8月	工場騒音・粉じん・悪臭	58年3月	一部取下げ 一部打ち切り
	富山市 婦中町	60年5月	事業場悪臭・粉じん・砂じん	60年10月	調停成立
	富山市	平成2年2月	住宅マンション建設・ 騒音・振動	2年8月	調停打ち切り
	入善町 朝日町 黒部市	13年6月	ダム排砂に伴う 水質汚濁	14年11月	調停打ち切り
	富山市	20年12月	住宅給湯ボイラー 騒音・振動	21年7月	調停打ち切り
	富山市	21年7月	住宅団地外壁改修・粉じん	22年1月	調停成立
	富山市	21年12月	LPガス充填所騒音・振動	22年7月	調停打ち切り
	富山市	26年11月	事業場振動・地盤沈下	27年7月	調停打ち切り
	富山市	27年7月	工場騒音・ばいじん・悪臭	28年3月	調停成立
	射水市	28年11月	店舗からの騒音・低周波音	29年9月	調停打ち切り
	射水市	29年12月	工場からの騒音・振動	元年7月	調停成立

表7-120 公害種類別苦情受理状況の年度別推移

(単位：件)

種類 年度	典 型 7 公 害							典小 型七公 害計	廃 棄物 投棄	そ の 他	合 計
	大 気汚 染	水 質汚 濁	土 壌汚 染	騒 音	振 動	地 盤沈 下	悪 臭				
30	15	62	—	27	2	—	26	132	23	—	155
元	29	46	—	23	4	—	19	121	66	17	204
2	48	68	—	33	7	—	25	181	44	15	240
3	39	53	—	50	2	—	29	173	29	3	205
4	26	66	1	38	3	—	19	153	37	13	203

表7-121 典型7公害発生源別苦情受理状況（4年度）

（単位：件）

業種	種類	典型7公害							計
		大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭	
農業、林業		0	1	0	0	0	0	3	4
漁業		0	1	0	0	0	0	0	1
鉱業、採石業、砂利採取業		0	0	0	0	0	0	1	1
建設業		8	1	0	11	2	0	0	22
製造業		5	9	0	4	1	0	3	22
電気・ガス・熱供給・水道業		0	0	0	1	0	0	0	1
情報通信業		0	0	0	0	0	0	0	0
運輸業、郵便業		0	4	1	3	0	0	0	8
卸売業、小売業		0	2	0	2	0	0	0	4
金融業、保険業		0	0	0	0	0	0	0	0
不動産業、物品賃貸業		0	1	0	0	0	0	0	1
学術研究、専門・技術サービス業		0	0	0	0	0	0	0	0
宿泊業、飲食サービス業		1	0	0	1	0	0	0	2
生活関連サービス業、娯楽業		0	0	0	1	0	0	0	1
教育、学習支援業		0	0	0	0	0	0	0	0
医療、福祉		0	0	0	0	0	0	0	0
複合サービス事業		0	0	0	0	0	0	0	0
サービス業（他に分類されないもの）		0	0	0	4	0	0	3	7
公務		0	0	0	0	0	0	0	0
分類不能の産業		0	0	0	0	0	0	0	0
家庭生活		12	9	0	9	0	0	1	31
その他		0	7	0	2	0	0	1	10
不明		0	31	0	0	0	0	7	38
計		26	66	1	38	3	0	19	153

表7-122 市町村別・公害の種類別苦情受理状況（4年度）

（単位：件）

種類 市町村	典 型 7 公 害							小 計 （ 典 型 七 公 害 ）	廃 棄 物 投 棄	そ の 他	合 計
	大 気 汚 染	水 質 汚 濁	土 壌 汚 染	騒 音	振 動	地 盤 沈 下	悪 臭				
富山市	7	20		17	2		6	52			52
高岡市	3	3		3	1		5	15	1	1	17
魚津市	3	13	1	1			2	20	4	12	36
氷見市		1		1				2	4		6
滑川市				2				2			2
黒部市	3	1					2	6			6
砺波市								0			0
小矢部市		1		1				2	25		27
南砺市	1			3			2	6			6
射水市	2	19		10			2	33			33
市計	19	58	1	38	3	0	19	138	34	13	185
舟橋村								0			0
上市町								0			0
立山町		1						1			1
入善町	5	1						6	3		9
朝日町	2	6						8			8
町村計	7	8	0	0	0	0	0	15	3	0	18
合計	26	66	1	38	3	0	19	153	37	13	203

表7-123 苦情の処理状況（4年度）

(単位：件)

内 訳	種 類	典 型 7 公 害							小 計 （ 典 型 七 公 害 ）	廃 棄 物 投 棄	そ の 他	合 計
		大 気 汚 染	水 質 汚 濁	土 壌 汚 染	騒 音	振 動	地 盤 沈 下	悪 臭				
取扱件数 合計		26	66	1	38	3	0	19	153	37	13	203
新規受付		25	65	1	35	2	0	18	146	36	13	195
前年度からの繰越		1	1	0	3	1	0	1	7	1	0	8
処理件数 合計		26	66	1	38	3	0	19	153	37	13	203
直接処理（解決）		17	55	1	29	2	0	16	120	30	12	162
他機関への移送		7	5	0	1	0	0	0	13	4	1	18
翌年度への繰越		1	1	0	2	1	0	1	6	1	0	7
その他（原因不明等により処理方法のないもの等）		1	5	0	6	0	0	2	14	2	0	16

表7-124 「公害健康被害の補償等に関する法律」に基づく指定の内容

地 域	第2種地域
区 域	富山市*、婦中町*、大沢野町*の各一部指定地区（神通川下流地域）
指定年月日	昭和44年12月27日
指 定 疾 病	イタイイタイ病

注 *は現富山市です。

表7-125 イタイイタイ病患者及び要観察者生存数
（5年3月31日現在）

区 分	人数
患 者(人)	2
要観察者(人)	0

5 水資源の保全と活用

表7-126 地下水観測井の位置と構造

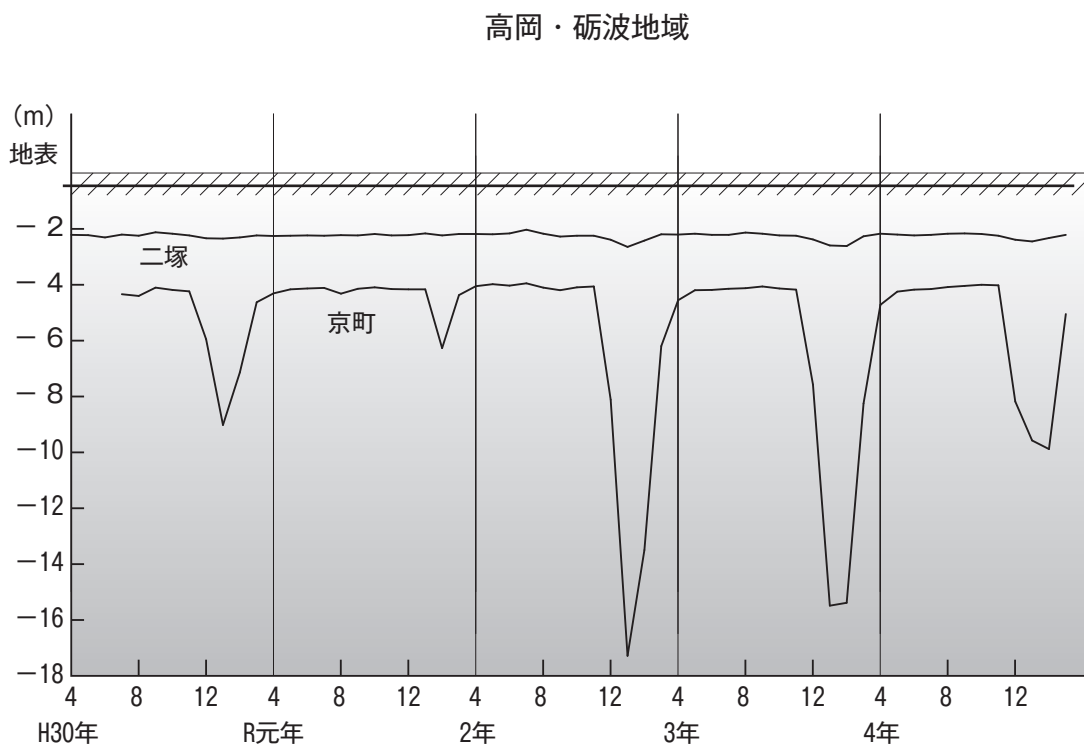
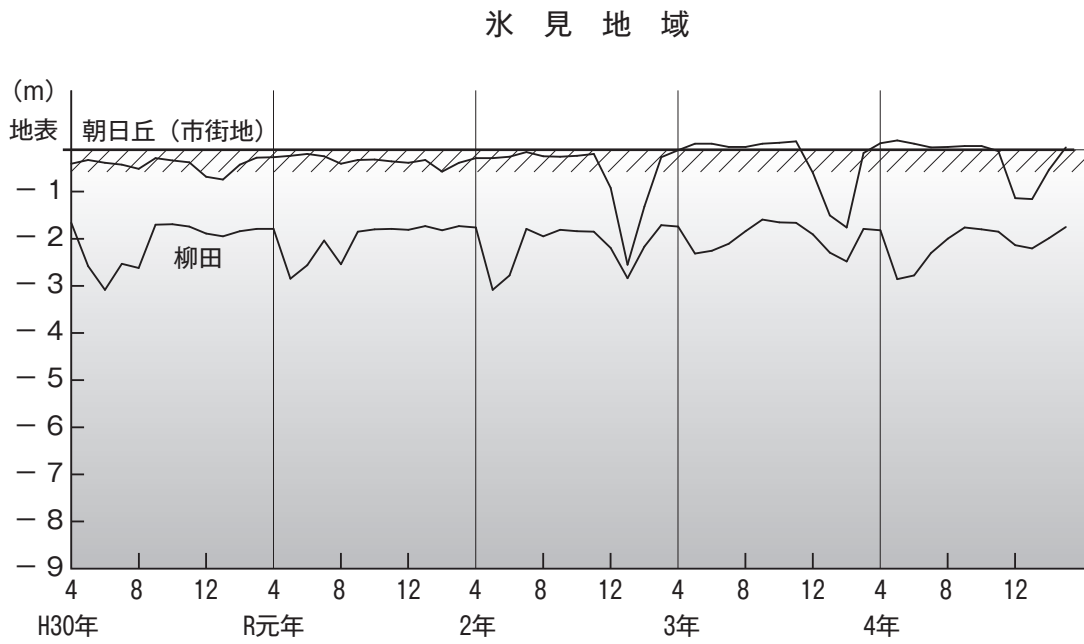
地域	観測井の名称	位置	設置年度	管理者	井戸の構造			標高(m)
					深度(m)	口径(mm)	ストレーナ位置(m)	
氷見地域	朝日丘	氷見市朝日丘	H4	県	80	250	32~38 71~77	5.63
	柳田	氷見市柳田	H4	県	100	250	79~90	5.48
高岡・ 砺波地域	京町	高岡市京町	S61	県	140	150	113~129	7.54
	上関	高岡市京田	S42	県	240	300	164~175	12.59
	二塚	高岡市二塚	S34	県	40	250	34~39	14.11
	中田	高岡市中田	H14	県	27	400	11~16.5	25.19
					80	200	57~64.5	
	寺塚原	射水市寺塚原	S42	県	150	350	102~124	6.22
	作道	射水市殿村	S54	県	100	250	40~54	2.41
	日詰	砺波市林	S52	県	100	250	78~89	41.08
	五郎丸	砺波市五郎丸	S60	県	80	250	48~59 65~70	72.54
	水島	小矢部市水島	S60	県	80	250	43~49 54~60 65~71	41.21
	布袋	南砺市布袋	S60	県	80	250	43~54 60~65	60.42
江尻	高岡市福岡町江尻	S60	県	80	250	56~67 72~78	20.46	
富山地域	下飯野	富山市下飯野	S49	県	200	250	106~139	7.11
	奥田北	富山市下新北町	S49	県	93	250	65~82	6.44
	山室	富山市山室	S57	県	20	250	15~20	29.05
	西の番	富山市西の番	S49	県	100	250	50~83	88.96
	三郷	富山市三郷	S49	県	150	250	106~139	10.5
	前沢	立山町前沢	S49	県	100	250	23~50	63.18
	速星	富山市婦中町速星	S53	県	100	250	84~95	14.18
魚津・ 滑川地域	住吉	魚津市住吉	S61	県	50	250	23~34	6.67
	北鬼江	魚津市北鬼江	S61	県	70	250	59~71	12.64
	下島	滑川市下島	S61	県	80	250	66~77	5.84
	四ツ屋	滑川市四ツ屋	S61	県	100	250	65~82	35.48
黒部地域	金屋	黒部市金屋	S51	県	150	250	112~134	15.84
	三日市	黒部市三日市	S51	県	100	250	51~73	18.85
	五郎八	黒部市荻生	S51	県	50	250	39~50	47.11
	生地	黒部市生地経新	H3	県	100	250	85~96	1.3
	入膳	入善町入膳	S51	県	100	250	73~95	27.63
	小摺戸	入善町小摺戸	S51	県	50	250	34~50	69.67
	園家	入善町下飯野	H3	県	55	250	40~51	1.92
	月山	朝日町月山	S51	県	100	250	56~78	23.29

表7-127 地下水位年平均値の年度別推移

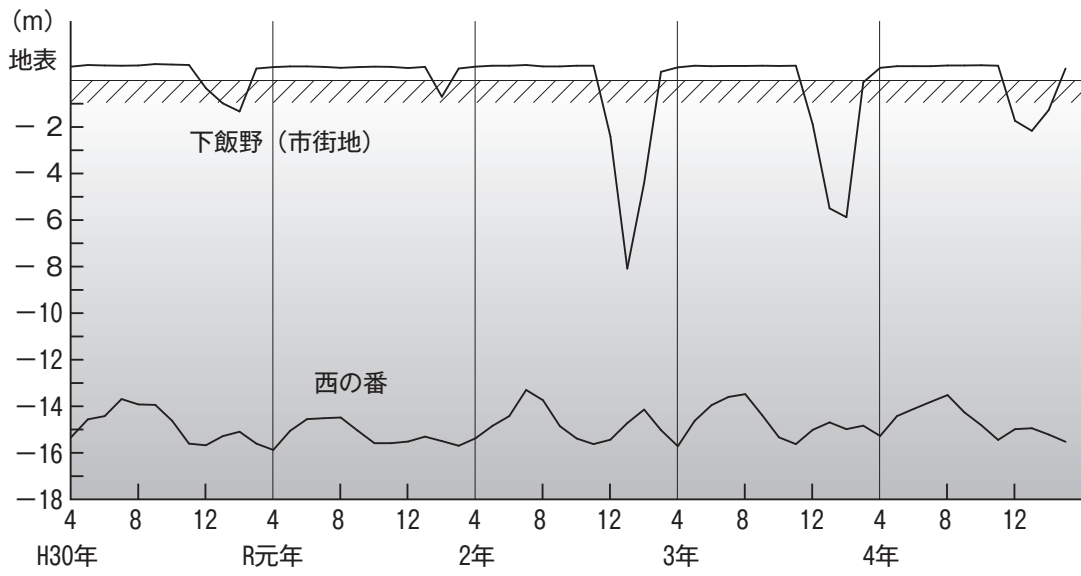
地域	観測井 の名称	所在地	井戸の 深さ(m)	平均地下水位 (cm)				
				30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
氷見地域	朝日丘	氷見市朝日丘	80	- 33	- 23	- 48	- 23	- 15
	柳田	氷見市柳田	100	- 200	- 194	- 206	- 188	- 202
高岡・ 砺波地域	京町	高岡市京町	140	- 477	- 380	- 582	- 603	- 490
	上関	高岡市京田	240	+ 193	+ 159	+ 173	+ 181	+ 211
	二塚	高岡市二塚	40	- 174	- 172	- 176	- 178	- 174
	中田	高岡市中田	27	- 296	- 293	- 280	- 293	- 285
			80	- 294	- 288	- 287	- 288	- 293
	寺塚原	射水市寺塚原	150	- 128	- 72	- 206	- 227	- 156
	作道	射水市殿村	100	- 38	- 23	- 91	- 95	- 56
	日詰	砺波市林	100	-1,420	-1,437	-1,420	-1,423	-1,426
	五郎丸	砺波市五郎丸	80	-3,316	-3,330	-3,289	-3,293	-3,311
	水島	小矢部市水島	80	- 851	- 871	- 853	- 856	- 838
	布袋	南砺市布袋	80	-1,100	-1,113	-1,119	-1,119	-1,108
	江尻	高岡市福岡町江尻	80	+ 165	+ 161	+ 164	+ 161	+ 161
富山地域	下飯野	富山市下飯野	200	+ 27	+ 47	- 78	- 67	+ 3
	奥田北	富山市下新北町	93	- 177	- 160	- 242	- 238	- 191
	山室	富山市山室	20	- 159	- 180	- 180	- 176	- 156
	西の番	富山市西の番	100	-1,477	-1,518	-1,470	-1,464	-1,465
	三郷	富山市三郷	150	- 98	- 82	- 127	- 164	- 118
	前沢	立山町前沢	100	- 390	- 391	- 387	- 383	- 381
	速星	富山市婦中町速星	100	- 161	- 148	- 163	- 160	- 137
魚津・ 滑川地域	住吉	魚津市住吉	50	- 102	- 99	- 105	- 99	- 97
	北鬼江	魚津市北鬼江	70	- 579	- 561	- 570	- 604	- 601
	下島	滑川市下島	80	- 65	- 53	- 81	- 81	- 71
	四ッ屋	滑川市四ッ屋	100	-2,294	-2,302	-2,291	-2,300	-2,320
黒部 地域	金屋	黒部市金屋	150	- 647	- 651	- 688	- 704	- 695
	三日市	黒部市三日市	100	- 697	- 714	- 770	- 758	- 739
	五郎八	黒部市荻生	50	-1,496	-1,534	-1,644	-1,665	-1,593
	生地	黒部市生地経新	100	+ 78	+ 74	+ 75	+ 77	+ 70
	入膳	入善町入膳	100	-1,943	-1,963	-1,972	-1,974	-1,973
	小摺戸	入善町小摺戸	50	-1,368	-1,283	-1,298	-1,300	-1,303
	園家	入善町下飯野	55	+ 325	+ 322	+ 320	+ 317	+ 320
	月山	朝日町月山	100	- 733	- 723	- 760	- 773	- 751

- 注1 地下水位は、地表面を基準として地上を+、地下を-で表しています。
 2 京町観測井の平成30年度の地下水位は、観測を開始した30年7月～31年3月の平均値です。
 3 以下の観測井の年平均値は、観測機器の不具合による欠測期間を除いた値です。
 五郎丸：平成30年9月、水島：令和4年11～12月、三郷：令和3年1月、速星：平成30年5月、
 三日市：令和4年11月

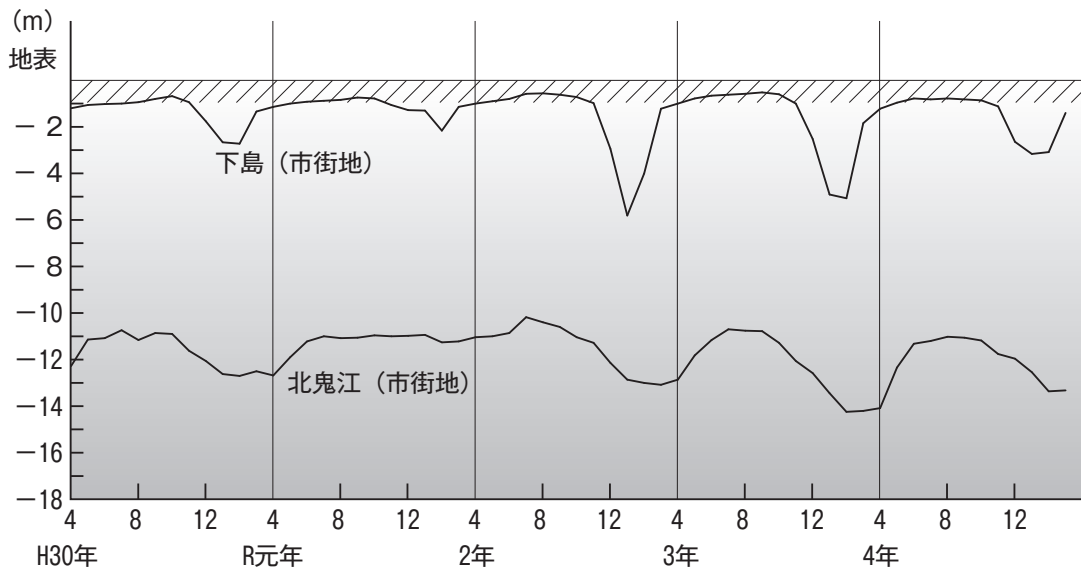
図7-7 主な観測井の地下水位（月平均）



富山地域



魚津・滑川地域



黒部地域

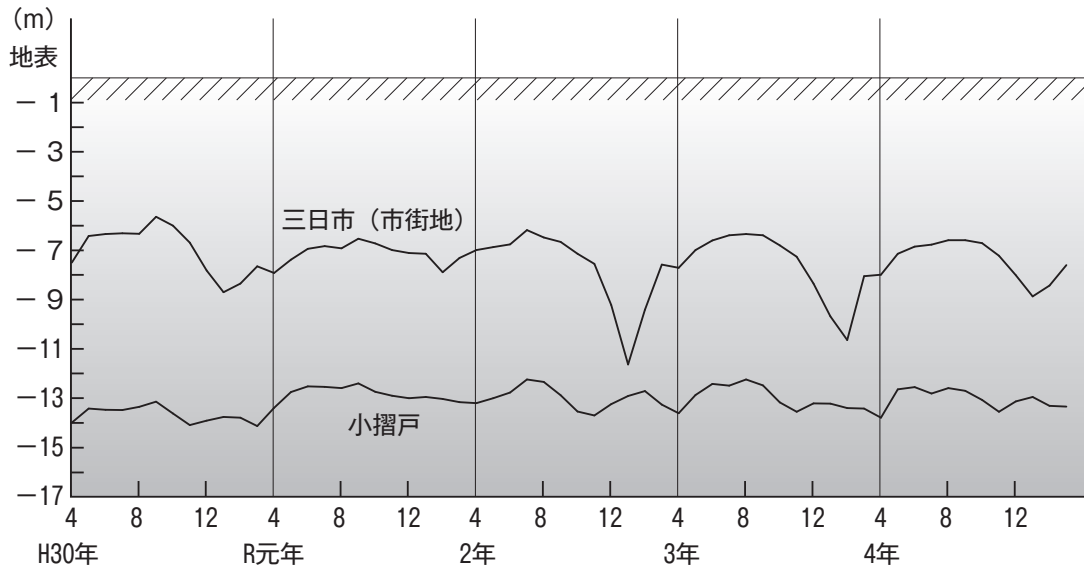


図7-8 塩化物イオン濃度分布 (4年度)

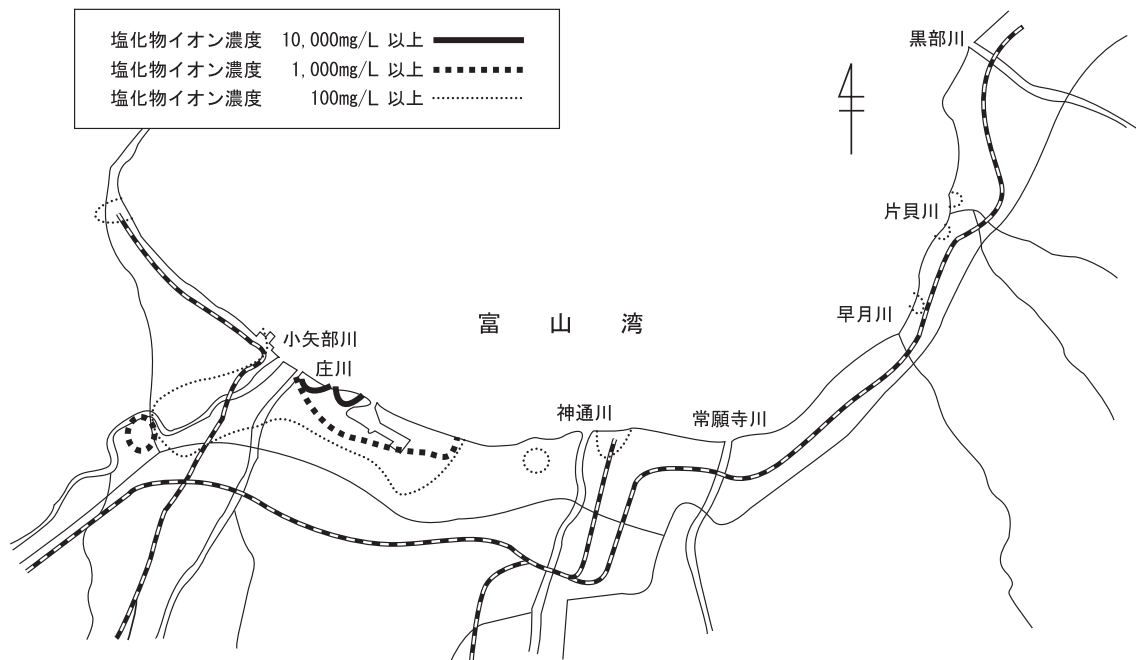


表7-128 地下水条例に基づく揚水設備の届出状況

① 市町村別

(5年3月31日現在)

地域	区分 市町村	規制地域		観察地域		計	
		事業場数	揚水設備数	事業場数	揚水設備数	事業場数	揚水設備数
富山地域	富山市	1,220	1,589	563	758	1,783	2,347
	舟橋村			7	9	7	9
	上市町			124	160	124	160
	立山町			85	109	85	109
	小計	1,220	1,589	779	1,036	1,999	2,625
高岡地域	高岡市	609	790	125	149	734	939
	砺波市			298	357	298	357
	射水市	145	185	88	106	233	291
	小計	754	975	511	612	1,265	1,587
合計		1,974	2,564	1,290	1,648	3,264	4,212

② 用途別

(5年3月31日現在)

用途	区分	規制地域		観察地域		計	
		事業場数	揚水設備数	事業場数	揚水設備数	事業場数	揚水設備数
工業用		241	444	180	334	421	778
建築物用		803	966	377	447	1,180	1,413
水道用		5	15	50	68	55	83
農業・水産業用		5	5	39	49	44	54
道路等消雪用		911	1,125	635	741	1,546	1,866
その他(試験用等)		9	9	9	9	18	18
計		1,974	2,564	1,290	1,648	3,264	4,212

表7-129 地下水採取状況（4年度）

① 市町村別

(単位：百万m³/年)

地域	区分		規制地域	観察地域	計
	市町村				
富 山 地 域	富	山 市	24.9	38.7	63.6
	舟	橋 村		0.3	0.3
	上	市 町		0.3	0.3
	立	山 町		1.8	1.8
	小 計		24.9	41.0	66.0
高 岡 地 域	高	岡 市	7.3	2.2	9.5
	砺	波 市		12.3	12.3
	射	水 市	2.8	3.6	6.4
	小 計		10.1	18.1	28.2
合 計		35.0	59.1	94.2	

注 四捨五入により、合計が一致しない場合があります。

② 用途別

(単位：百万m³/年)

用 途	区 分		規制地域	観察地域	計
工	業		14.8	32.9	47.6
建	築	物	6.2	4.9	11.0
水	道		0.8	10.2	11.0
農	業	水 産 業	0.7	2.7	3.4
融		雪	12.5	8.0	20.5
そ	の	他	0.2	0.4	0.6
合		計	35.0	59.1	94.2

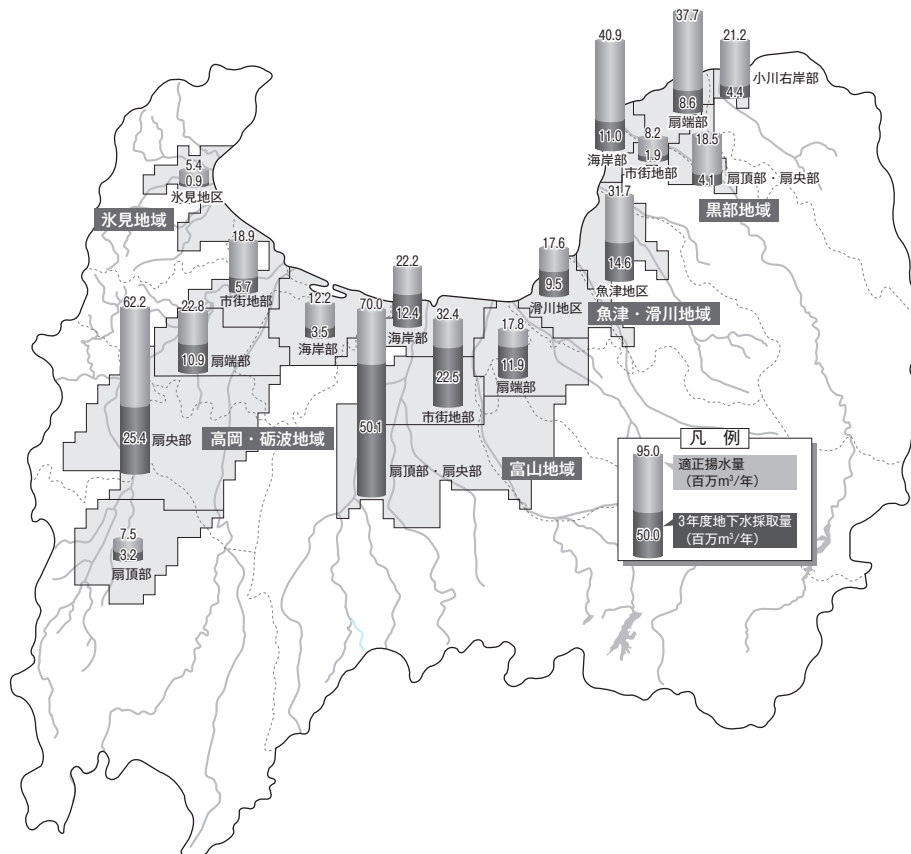
注 四捨五入により、合計が一致しない場合があります。

表7-130 消雪用等地下水利用実態調査結果（地下水区別）

地下水区		年 度	27年度地下水採取量 (前回調査) (千m ³ /年)	3 年度 地下水採取量 (千m ³ /年)	適正揚水量 (千m ³ /年)	3 年度地下水採取量 / 適正揚水量 (%)
氷見地域	氷見地区		860	909	5,400	17
高岡・砺波地域	海岸部		3,230	3,498	12,200	29
	市街地部		3,946	5,702	18,900	30
	扇端部		9,458	10,868	22,800	48
	扇中央部		21,523	25,402	62,200	41
	扇頂部		2,375	3,159	7,500	42
富山地域	海岸部		10,909	12,397	22,200	56
	市街地部		17,796	22,522	32,400	70
	扇端部		11,363	11,906	17,800	67
	扇頂部・扇中央部		48,835	50,150	70,000	72
魚津・滑川地域	滑川地区		11,044	9,502	17,600	54
	魚津地区		14,361	14,605	31,700	46
黒部地域	海岸部		11,414	10,958	40,900	27
	市街地部		1,795	1,943	8,200	24
	扇端部		9,457	8,553	37,700	23
	扇頂部・扇中央部		4,454	4,118	18,500	22
	小川右岸部		4,560	4,376	21,200	21
合 計			187,380	200,567	447,200	45

注 四捨五入により、合計が一致しない場合があります。

図7-9 消雪用等地下水利用実態調査結果（3年度地下水採取量）



6 各分野に共通する施策の推進

表7-131 環境影響評価の実施状況

事業名	事業種類・規模	区分	手続種類	手続状況	知事意見の提出	評価書
大山カメラリア カントリークラブ	レクリエーション施設 (ゴルフ場140.2ha)	要綱	準備書	提出 平成3年6月5日 縦覧 6月6日～7月6日 説明会開催 6月15日、17日、18日	11月7日	提出 3年11月21日 縦覧11月22日～12月24日
利賀リゾート開発	レクリエーション施設 (スキー場172.3ha) (ゴルフ場198.9ha)	要綱	準備書	提出 4年7月28日 縦覧 7月29日～8月29日 説明会開催 8月10日、11日	12月28日	提出 5年3月25日 縦覧3月26日～4月26日
富山駅北地区 熱供給事業	工場又は事業場 (最大排出水量12万m ³ /日)	要綱	準備書	提出 5年11月11日 縦覧11月12日～12月13日 説明会開催 11月26日、30日、12月1日	6年3月31日	提出 6年5月9日 縦覧5月10日～6月10日
富山地区広域圏 ごみ処理施設 建設工事	ごみ焼却施設 (焼却能力810 t/日)	要綱	準備書	提出 10年6月19日 縦覧 6月22日～7月21日 説明会開催 7月4日～17日(7回開催)	11月27日	提出 11年2月23日 縦覧2月26日～3月25日
高岡地区広域圏 ごみ処理施設 整備事業	ごみ焼却施設 (焼却能力270 t/日)	条例	方法書	提出 17年1月28日 縦覧 2月10日～3月9日	8月1日	提出 21年9月4日 縦覧 22年3月1日～3月31日
			準備書	提出 20年8月21日 縦覧 8月29日～9月29日 説明会開催 9月7日、14日	21年2月27日	
富山新港火力発電 所石炭1号機 リブレース計画	火力発電所 (出力42.47万kW)	法律	方法書	提出 23年7月28日 縦覧 7月29日～8月29日 説明会開催 8月10日	12月13日	提出 26年2月24日 縦覧3月18日～4月17日
			準備書	提出 25年9月10日 縦覧 9月11日～10月10日 説明会開催 9月26日	12月27日	
バイオマス・石炭混 焼火力発電所建設 計画	工場又は事業場 (燃料使用量20.9kL/時)	条例	方法書	提出 29年3月6日 縦覧 3月21日～4月20日	8月30日	-
			事業廃止	通知 30年2月28日	-	
(仮称)あさひ風力 発電事業	風力発電所 (出力 最大3万kW)	法律	配慮書	提出 令和3年9月29日 縦覧 9月30日～11月1日	11月29日	-
			方法書	提出 令和4年3月30日 縦覧 3月31日～5月9日	9月8日	

注 「区分」欄について、「要綱」とは「富山県環境影響評価要綱」(平成2年6月告示、同10月施行、11年12月廃止)、「条例」とは「富山県環境影響評価条例」(11年6月制定、同12月施行)、「法律」とは「環境影響評価法」(9年6月公布、11年6月施行)です。

表7-132 県が企業と締結している公害防止協定

締結企業	締結企業の業種	締結年月日
三井金属鉱業(株) 神岡鉱業(株)	鉱業 産業廃棄物処理	昭和47年3月30日 (61年6月30日承継)
JX金属三日市リサイクル(株)	産業廃棄物処理 非鉄金属	昭和48年6月23日 (60年3月25日承継) (平成8年11月1日承継) (9年4月1日承継)
北陸電力(株)	電力	昭和48年8月30日 (54年3月15日改定) (57年7月5日改定) (60年3月25日変更) (63年3月30日変更) (平成14年2月12日変更) (16年6月29日変更) (26年9月26日変更)

表7-133 環境保全に関する試験・研究

① 環境科学センター

課 題	目 的	結 果
マイクロプラスチック等の流出・漂流実態に関する調査	県内におけるマイクロプラスチックの流出・漂流の実態を把握し、県民・事業者への啓発や発生抑制策に役立てる。	河川の利用用途ごとのマイクロプラスチックの実態を調査するため、神通川流域の7地点及び小矢部川流域の9地点で調査を実施した。12地点で肥料カプセルが確認され、水田の多い本県では、河川の利用用途によらず水田の影響を受ける傾向にあることが分かった。また、肥料カプセルを除くMPsの個数密度と採取地点の流域背景との関係をみたところ、森林率とは負の相関が、人口密度、農地率及び都市率とは正の相関があることが分かった。人間の活動がさかんな地域ほどマイクロプラスチックの個数密度が多いことを裏付ける結果が得られた。
長期再解析データを用いた気候変動に関する研究	過去から現在までの気候変動や、過去観測された極端気象の発生要因を把握することにより、今後の適応策の推進に貢献する。	温暖化により増加が予想される極端気象（異常気象や豪雨、急な大雪など）への適応策の検討に向けた解析を実施しており、R4は、防災計画等の資料から過去から現在までの地域別の大雪に対し、地上気温や上空の寒気などの大気場との関係を解析する手法を検討した。R5は、これをさらに継続するとともに、温暖化時の大気場の変化により、地域別の大雪が将来どう変化するかを予測する。
富山県における温暖化に伴う水質変動に関する研究	県内の河川等における水質の変動を解析し、温暖化に伴う将来の水質や水環境への影響を予測する。	河川及び海域について、1981年から現在までの水質データをもとに、月ごとの変動傾向や水温の影響を受けると考えられる指標（pH及び溶存酸素量等）と水温の相関を解析した。河川では、流域面積が広く、勾配が緩やかな河川において、夏季を中心に水温の上昇傾向がみられたほか、気温と水温及び水温と溶存酸素量に有意な相関がみられた。また、海域においても、春先及び夏季を中心に水温の上昇傾向がみられ、河川と同様の相関がみられた。
光化学オキシダント常時監視データの総合的解析	環境基準を達成していない光化学オキシダントについて、常時監視のデータを解析することで、環境基準の達成や高濃度事例削減に向けた知見を得ることを目指す。また、オキシダント値の予測手法の開発に取り組む。	過去に本県で高濃度が観測された日と日射量が同程度で高濃度に至らなかった日の比較を行ったところ、高濃度の日は気温が高く湿度が低い気象条件となっていた。また、後方流跡線が、高濃度に至らなかった日は、東アジア大陸から日本海を經由し本県に流入しているのに対し、高濃度の日は、西日本を經由していることがわかった。
LC-MS/MSを用いた化学物質の一斉分析方法の開発	災害時や水質汚濁事故時の分析体制及び危機管理体制を強化し、流出物質・発生源の速やかな究明を目指す。	県内での使用実績が多い化学物質など10物質について、河川水を用いた添加回収試験を実施し、河川水中の妨害物質の影響を確認したところ、いくつかの対象物質の定量に影響はあったが、検出への影響は小さく、本分析法がスクリーニング手法として有用であることが明らかになった。
富山湾の二酸化炭素吸収量の評価に関する研究	富山湾のアマモ場や海藻養殖によるブルーカーボン量及び牡蠣養殖による炭素固定量を算定し、養殖事業を適用化した際の地球温暖化対策効果を推計する。	藻場・浅場等の海洋生態系に取り込まれた炭素は「ブルーカーボン」といわれ、二酸化炭素の吸収源対策の新しい選択肢として注目されている。そこで、本研究では氷見沖のアマモ場を対象としてブルーカーボンを算定するほか、水産研究所で実施している海面養殖を対象として、ガゴメコンブの養殖により固定されるブルーカーボンと牡蠣養殖により殻に固定される炭素量を算定する。

課 題	目 的	結 果
消雪設備による地下水位低下リスクの研究	地下水の取水障害を防ぐため、消雪設備の集中エリアを把握し、新たな消雪設備設置に伴う地下水位低下のリスク評価を行う。	県内では、地下水揚水設備（消雪設備）の一斉稼働に伴う取水障害が報告されており、さらに地下水条例対象地域の外側では、消雪設備の設置場所や揚水状況が把握されておらず、地下水位の変動もわかっていない。そのため、消雪設備の集中エリアを把握するとともに、当該エリアの新たな消雪設備設置に伴う地下水位低下のリスク評価を行う。 R4は、県内の消雪設備に関する位置情報を収集及び地図化し、集中エリアを把握するとともに、揚水能力や土壌柱状図等のデータを用いて、地下水流動モデルを構築し、新規で消雪設備を設置した際に地下水位低下がどの程度起こるかの推定を行った。 R5は、地下水条例対象外の地域の消雪設備情報を収集し、地図化、モデル構築及び地下水位低下のリスク評価を行う。

② 衛生研究所

課 題	目 的	結 果
イタイタイ病に関する調査	カドミウム汚染地域住民の健康管理	神通川流域のカドミウム汚染地域に居住している住民を対象に毎年実施している「神通川流域住民健康調査」の尿・血液検査を行った。
食品中の残留農薬及びその他の有害物質に関する調査研究	残留農薬等による食品の汚染状況の継続調査	玄米等の県内主要農産物等9種13検体について、有機リン系など約240農薬を分析したところ、すべてが基準値以下であり、食品衛生上問題となるレベルではなかった。 富山産魚介類のアジ、トビウオ等10魚種12検体について総水銀を、サバ、カレイ等9魚種10検体についてビストリブチルスズオキシド（TBTO）をそれぞれ分析したところ、いずれも問題となる残留値ではなかった。
環境水中のウイルス調査	地域住民における腸管系ウイルス及び新型コロナウイルスの流行を包括的に把握	環境水（下水流入水）からのエンテロウイルス、パレコウイルス及び新型コロナウイルスの検出・分離等を行った。

③ 産業技術研究開発センター

課 題	目 的	結 果
生分解性樹脂とバイオマス系添加剤の複合方法および分解性を制御した生分解性複合材料の開発	生分解性樹脂とバイオマス系添加剤を複合することによる、分解性を制御した生分解性複合材料の開発	キッチンの添加量の違いにおける複合材料の力学特性や生分解特性、それと合わせて重量変化率（吸水率）、さらに加水分解特性の傾向を明らかにした。これら結果を踏まえた上で、キッチンの添加量を調節して複合することにより、分解性制御に対する有効性を見出した。
高せん断非外部加熱による乾燥CNF/PP複合材料の耐久性・リサイクル性に関する研究	耐久性・リサイクル性に優れた複合材料を開発するための界面活性剤の検討	2種類の界面活性剤についてPP/CNF複合材料の各種特性の評価をしたところ、引張特性および曲げ特性ではMAPPを添加したPP/CNF複合材料が、衝撃特性および熱変形特性ではPTCを添加したPP/CNF複合材料が最も高い値を示すことが分かった。

課 題	目 的	結 果
セルロースナノファイバーを配合した新規生分解性複合材料の開発	セルロースナノファイバー（CNF）を使用することにより、生分解性樹脂の欠点（強度等）を補った新規生分解性複合材料の開発	いずれの添加剤においても、ベース樹脂ならびに複合材料と比較して、シャルピー衝撃値の向上が見られた。さらに、添加剤の添加量に対する力学特性（引張強度・シャルピー衝撃値）の傾向を明らかにした。生分解性土壌の選定における確認試験では、ベース樹脂の生分解（重量減少）を確認した。
活性炭の複合による生分解性樹脂の分解性への影響	生分解性樹脂に活性炭を複合することで、力学特性評価（引張特性・曲げ特性）およびその生分解性樹脂の分解性への影響の調査	PLAに活性炭を複合することで、引張弾性率および曲げ弾性率が上昇することを確認し、5 wt%の場合でそれぞれ約14%および約10%増加した。また、生分解性試験では、活性炭を複合することでわずかではあるが、分解性が良くなっていた。
ハトムギ糠油の抽出方法及び、その有効成分を活用した製品の開発	ハトムギ廃棄部分である糠からの油抽出方法の確立および抽出油の評価、それを利用した各種製品の開発	ハトムギ糠からエタノールによる油抽出方法を確立した。量産化に向けたタンクによる浸漬抽出のラボスケール試験を確立した。定量評価のための標準物質となるコイクノセノライドを合成した。
農産資源由来リグニンを用いた機能性材料の開発	非可食性バイオマス資源であるもみ殻の効率的な分解方法の開発	二段階分解、抽出リグニンを用いることでバイオマス材料の全成分を有効利用できないか検討したが、酸溶液などを用いることでリグニンの構造に影響を及ぼす可能性が示唆された。
施設園芸に用いるスマート農業用無線給電システムの開発	施設園芸の環境制御に用いるICT機器である無線給電レクテナシステムを開発し、小規模経営体で導入可能なコストの削減とICT機器の普及	920MHz帯で動作するレクテナを用いた無線通信・センサモジュールの評価では、通常の電池等と同等に利用できることを確認した。園芸施設内での電波強度の測定より、ベンチ等の影響により場所によっては電波強度が下がることを確認した。
カーボンニュートラルに向けた切削加工における環境性能評価	カーボンニュートラルに向けた切削加工における加工性能および環境性能評価	CFRPのミリング加工において、加工性能および環境性能の観点から、優れた条件を明らかにした。さらにCO ₂ 排出量の削減には、そのものの改善に加えて、加工時間の短縮による消費電力量の削減が有効であることを明らかにした。
低コストで環境負荷の低い微細加工工程に関する研究とその応用に向けた検討	低コスト、低環境負荷等の利点を持つSiの異方性エッチング手法であるメタルアシストエッチング法による微細加工法についての検討	MacEtch処理によりSiの貴金属触媒ナノ粒子の存在する箇所において選択的に、エッチングを施し、ミクロンオーダーの加工が可能であることを示した。一方、加工レートは通常のMacEtch法において報告されているものより低く、レートの改善が必要であることが分かった。
高品位リサイクルアルミ合金の活用と厚肉アルミ構造部材の高効率加工技術の開発	アルミニウム合金へのハイブリッド溶接の適用を目標とした各種の板厚の施工に取り組み、溶接変形の評価	従来技術であるMIG溶接と比較して溶接変形を評価した結果、横収縮量は95%程度の低減効果があった。角変形では、板厚によって20%から95%程度の低減効果があった。

④ 農林水産総合技術センター 農業研究所

課 題	目 的	結 果
ハトムギ栽培における総合的病害虫管理技術の開発	ハトムギ栽培において、種子伝染する葉枯病の発生実態を明らかにし、農薬のみに頼らない耕種的な防除法を検討し、総合的な病害虫管理技術を確立する。	種子の部位別に葉枯病の孢子形成率を調査したところ、種子の内部の器官ほど低くなった。耕種的防除法として、60℃ 10分間の温湯消毒を試行したところ、孢子形成率が低下し、一定の消毒効果を確認したが、農薬並の効果は得られなかった。
タマネギ産地形成を阻害する土壌病害等の密度低減に有効な夏季湛水技術の確立	タマネギ栽培において、土壌中の病原菌や害虫等の密度を大幅に低減する環境にやさしい防除技術として、夏季の湛水処理技術の効果を確認する。	タマネギ乾腐病菌について室内試験における湛水処理の防除効果を調べたところ、湛水開始から20日程度で大幅に菌量が低下する傾向が認められた。また、湛水処理により、雑草とネキリムシに対する被害抑制効果が認められた。
農地の土壌炭素貯留に関する基礎調査	温暖化対策の一環として、農地土壌の炭素蓄積量に関する長期的な全国調査に参加し、土壌管理と炭素蓄積量の関係を明らかにする。	砺波地区を中心に一般農地15地点の定点ほ場において、土壌炭素量と土壌管理法の調査を実施した。また、研究所内の試験で、毎冬、緑肥を栽培して鋤込み後に水稲、大豆を輪作している圃場では、土壌の炭素蓄積量が年次により変動するものの、近年のデータでは増加傾向にあった。
硫黄コーティング肥料を活用した大麦用全量基肥肥料の開発	肥料殻由来のマイクロプラスチックの河川、海洋への流出量を低減するため、プラスチックを含まない肥料を活用して大麦の全量基肥肥料を開発する。	大麦用の全量基肥肥料をプラスチックフリーとするため、プラスチック膜で被覆された肥料に替えて硫黄コーティング肥料を配合した肥料を試作し、栽培試験を実施した。4年度産の硫黄コーティング肥料を配合した肥料の収量性は、プラスチック被覆肥料と同程度～やや少ないものの、品質は良好であった。
環境へのプラ負荷を削減した水稲用全量基肥肥料の開発	肥料殻由来のマイクロプラスチックによる環境負荷を軽減するため、従来肥料に比べプラスチック含量を削減した肥料を用い、水稲用全量基肥肥料を開発する。	硫黄コーティング肥料（SCU）、イソブチルアルデヒド縮合尿素（IB）肥料等を配合した試作肥料を供試し、水稲「てんたかく81」の栽培試験を実施した。4年度産のIB配合肥料及びSCU配合肥料の収量は、プラスチック被覆肥料と同等以上であった。

⑤ 農林水産総合技術センター 森林研究所

課 題	目 的	結 果
エネルギー作物としてのヤナギ類の生産可能性に関する研究	ヤナギ類を中心に、木質バイオマス発電所向け燃料の生産に適した樹種および系統を選抜し、その増殖や栽培、植栽に必要な技術の開発に取り組む。	県内に広く分布するオノエヤナギとタチヤナギが活着性能や初期成長に優れ、燃料生産目的としての栽培に適していることが明らかとなった。

⑥ 農林水産総合技術センター 木材研究所

課 題	目 的	結 果
脱炭素社会の実現に向けた高剛性木質建築部材の開発	金属部材の代替品として使用可能な木質部材の開発	圧縮木材を使用した耐震面格子の実用化技術を開発し、愛・地球博記念公園内の文化財移築の耐震壁に施工した。
スギ樹皮を用いた建設資材の開発	建設用防草資材の開発	スギ樹皮と無機材料を混合した法面吹付用防草材料を開発するとともに、実施工を行った。
木粉塗料の利用技術の開発	木材研究所と県産業技術総合開発センターが開発した木粉塗料における効率的な製造方法や高機能化に関する技術の開発	湿式方法で微粉碎化してスギ木粉の一部をナノファイバー化した木質100%の木質ナノファイバー塗料を開発し、試験施工を実施したところ、内装材として使用可能であることを確認した。現在、実用化について検討中。

⑦ 農林水産総合技術センター 水産研究所

課 題	目 的	結 果
赤潮に関する調査	赤潮の発生状況の把握	4年度中に赤潮は1回確認された。
富山湾の底質及び底生生物の調査	富山湾の底質及び底生生物からみた汚濁状況の把握	富山湾沿岸の8定点で、春期及び秋期に採泥を行い、底質及び底生生物等の調査を実施した。秋期の1定点においてCODの水産用水基準を上回った。底質生物の汚染指標種は、秋期の1定点でシズクガイが1個体(0.2%)確認されたが主要な種ではなかった。

表7-134 環境保全相談室の活動状況（4年度）

・相談業務

内 容	件 数
公益財団法人とやま環境財団の事業に関するもの	53
地球温暖化防止活動に関するもの	5
環境法令に関するもの	3
環境保全団体・NPOに関するもの	2
県、市町村の施策など行政に関するもの	6
各種補助金に関するもの	1
その他	12
計	82件

・環境に関する出前講座

環境保全、エコライフ等に関する講師を要望に応じて無料で派遣

区 分	環境保全	エコライフ	地球温暖化	水 環 境	計
利用件数	3件	2件	5件	1件	11件
利用者数	213人	64人	400人	174人	851人

表7-135 酸性雨実態調査（雨水）の概要（4年度）

調査地点	調査期間	調査項目	調査方法
射 水 市 (環境科学センター)	4年4月～ 5年3月 (一週間降雨ごと)	・pH ・イオン成分(SO ₄ ²⁻ 、 NO ₃ ⁻ 、Na ⁺ 、Cl ⁻ 等) 降下量等	酸性雨等調査マニュアル (環境庁大気保全局) 湿性沈着モニタリング手引 き書(第2版) (環境省地球環境局)

表7-136 雨水のpH調査結果（4年度）
（一週間降雨ごと）…………自動採取法

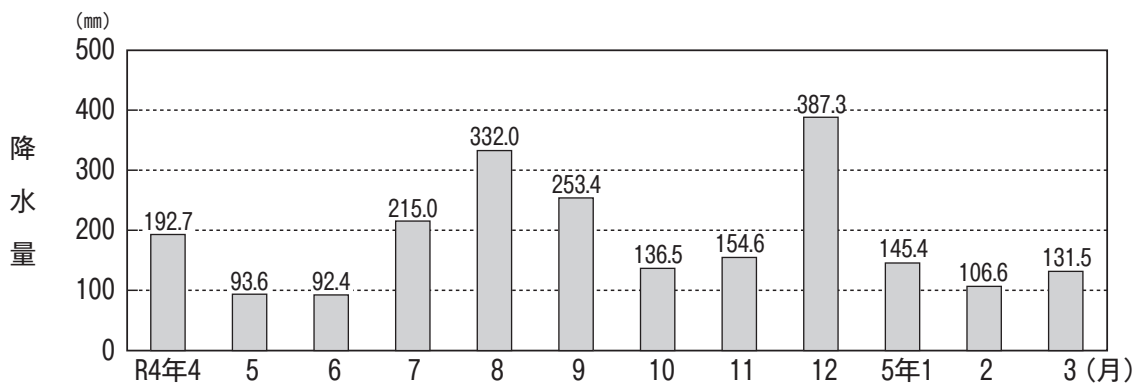
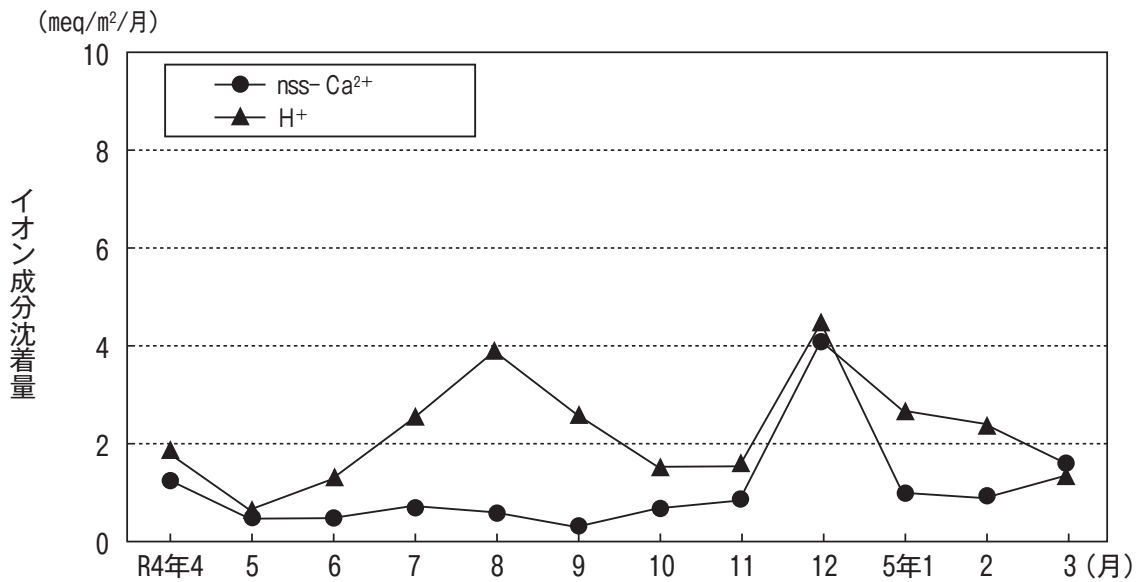
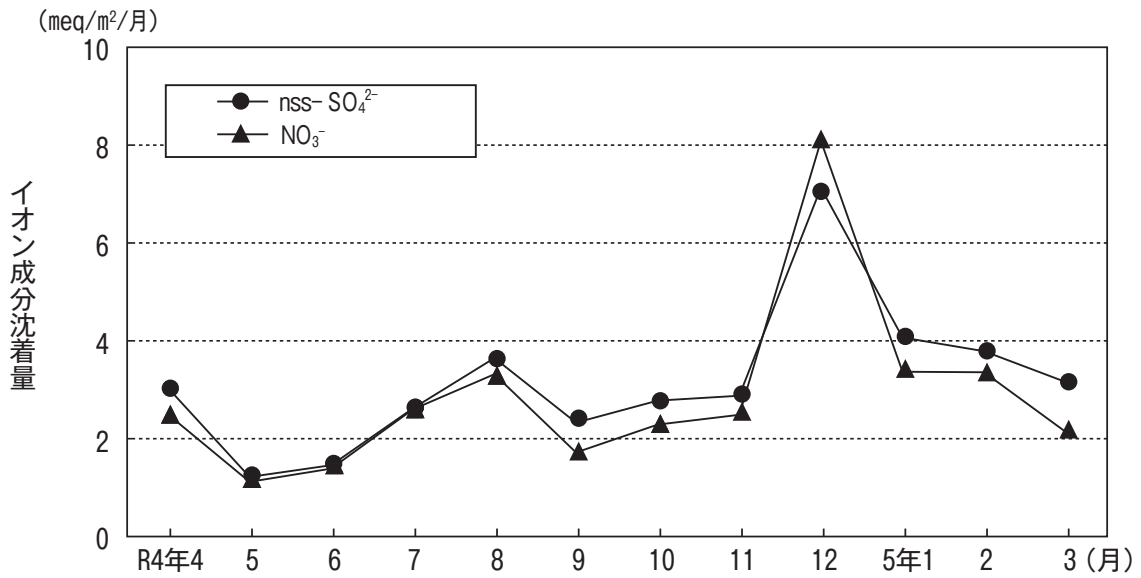
範囲	平均
4.3 ~ 6.3	5.0

表7-137 雨水のpHの年度別調査結果（一週間降雨ごと）

調査年度	調査地点		
	射水市	富山市	全国の状況
昭和61年度	4.9	—	第1次調査 (昭和58~62年度) 4.4~5.5
62年度	4.9	—	
63年度	4.7	—	
平成元年度	4.6	—	第2次調査 (63~平成4年度) 4.5~5.8
2年度	4.7	4.8	
3年度	4.6	4.7	第3次調査 (5~9年度) 4.4~5.9
4年度	4.6	4.6	
5年度	4.8	4.8	
6年度	4.7	4.7	第4次調査 (10~12年度) 4.47~6.15
7年度	4.9	4.9	
8年度	4.8	4.9	13~14年度 4.34~6.25
9年度	4.8	4.8	
10年度	5.0	5.1	
11年度	4.9	4.8	長期モニタリング (15~19年度) 4.40~5.04
12年度	4.8	4.8	
13年度	4.5	4.6	(20~24年度) 4.48~5.37
14年度	4.7	4.8	
15年度	4.6	4.7	(25~29年度) 4.40~5.22
16年度	4.6	4.8	
17年度	4.6	4.8	(30年度) 4.63~5.17
18年度	4.5	4.7	(令和元年度) 4.65~5.15
19年度	4.5	4.7	
20年度	4.6	4.7	(2年度) 4.68~5.24
21年度	4.7	4.8	(3年度) 4.80~5.25
22年度	4.6	4.8	
23年度	4.6	4.8	
24年度	4.5	4.8	
25年度	4.6	4.8	
26年度	4.6	4.8	
27年度	4.7	5.0	
28年度	4.7	4.9	
29年度	4.8	—	
30年度	4.9	—	
令和元年度	4.8	—	
2年度	4.9	—	
3年度	5.0	—	
4年度	5.0	—	

注 富山市の調査地点は、2~5年度：旧大山町山野スポーツセンター傍、6~14年度：国設立山酸性雨測定所（立山町芦峯寺スキー場敷地内）、15~28年度：立山黄砂酸性雨観測局（らいちょうパレースキー場山頂駅傍）です。

図7-10 主要イオン成分沈着量、降水量の月別推移（4年度、射水市）



注 nss-SO₄²⁻、nss-Ca²⁺(nssとはnon sea saltの略) は、海洋に由来しない成分、即ち陸上由来の硫酸イオンやカルシウムイオンを表します。

図7-11 主要イオン成分沈着量の経年変化（射水市）

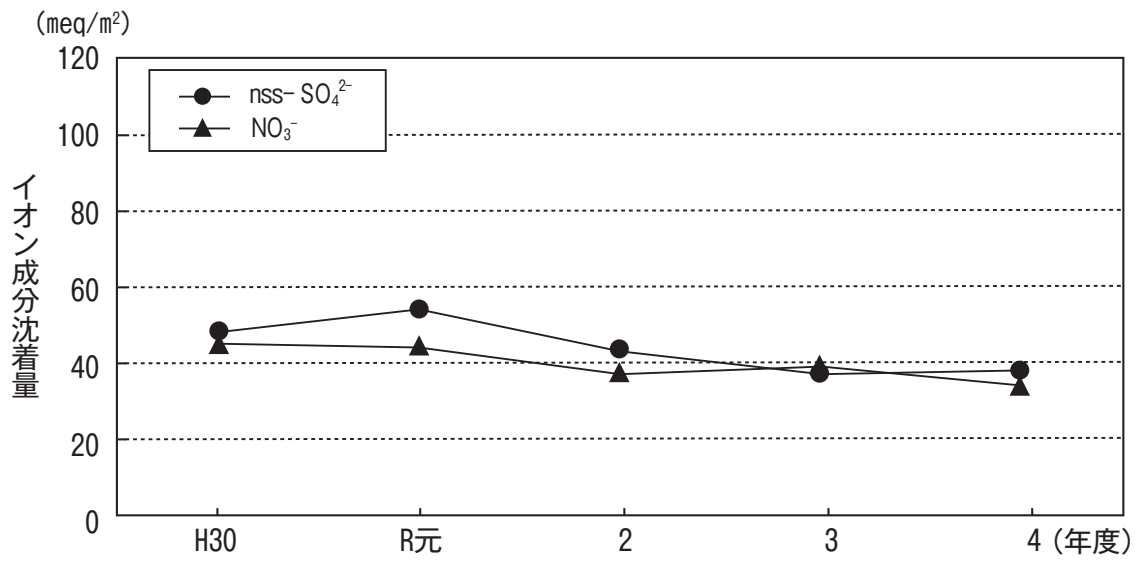


表7-138 公益財団法人環日本海環境協力センター（NPEC）の事業概要（4年度）

事業の種類	事業名	事業概要
環境保全に関する交流推進事業	北東アジア地域自治体連合（NEAR）環境分科委員会の推進	本県がコーディネート自治体を務める「NEAR環境分科委員会」の会員自治体間で環境に関する協力事業の検討や情報交換を行った。
	海洋環境保全パートナーシップの形成	環日本海地域の環境協力の中核拠点を目指し、日本海洋学会等の関係学会へ参加するとともに、関係機関等の情報収集を行った。
環境保全に関する調査研究事業	漂着物の発生抑制に関する学習・啓発事業	関係者による対策の連携強化を図って海岸漂着物等の発生の抑制に寄与するため、北東アジア地域の海を共有する自治体、市民等が、マイクロプラスチックを含む海岸漂着物等の調査を実施した。 また、市民の漂着物等に係る意識の向上を図るため、新聞による広報や漂着物アートの制作・展示等を通じて、海洋ごみ問題の普及啓発を行った。
	富山湾リモートセンシング調査事業	生物の生息や水質の浄化などに重要な役割を果たす藻場の状況を広域的・継続的に把握するため、リモートセンシングを活用した藻場マッピングや海草アマモ類の季節的分布変動に関する調査を行った。
	中国遼寧省との環境保全対策協力事業	遼寧省と環境分野の課題解決に向けた取組み、調査研究等について情報交換を行うため、富山県の脱炭素型ライフスタイルの普及啓発等について遼寧省に情報提供を行った。
	海洋教育Webアプリの開発及び出前授業	NPECの海洋環境リモートセンシング技術とGoogleの地球観測衛星データ解析ツール「Google Earth Engine」を活用し、学校での海洋教育を支援する海洋教育Webアプリ「ocean tutor（オーシャンチューター）」を開発するとともに、県内の学校で出前授業を行った。
環境保全に関する施策支援事業	広報・普及啓発	NPECの活動状況や環境情報を提供するため、開設しているホームページの内容の充実を図った。
	北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業	青少年に対して北東アジア地域における環境問題を直に体験する機会を提供することで、現状への認識を高めるとともに、国際環境協力に対する理解を深め、自ら考え行動できる人材の育成を目的としてオンラインで実施した。
	北東アジア地域環境ポスター展推進事業	北東アジア地域の次代を担う子どもたちから「環境の保全」をテーマとしたポスターを募集し、優秀作品をロシアハバロフスク地方で展示した。
	北東アジア地域生物季節調査推進事業	サクラの開花等の気候変動の影響を身近に感じることができる「生物季節調査」をモデル的に実施するとともに、北東アジア地域の自治体に実施を呼びかけ、脱炭素社会の意識醸成を図った。
	国際環境協力インターン・ボランティアプログラム	インターンシップ研修生1名の受入れを通じて、将来の国際環境協力分野における人材の育成を図るとともに、大学等の研究機関との連携の強化、北東アジア地域の海洋環境保全に関する取組みへの理解の促進を図った。

事業の種類	事業名	事業概要
NOWPAP 推進事業	日本海等の環境影響調査	<p>衛星リモートセンシングデータを利用した沿岸環境評価手法の開発に向けて、富山湾でのケーススタディを継続的に実施した。</p> <p>また、衛星クロロフィルaを用いた広範囲にわたる海域での富栄養化予備評価を行うとともに、富山湾周辺の沿岸域において衛星リモートセンシングや機動性の高いドローン等を活用して、藻場の分布域を推定した。</p> <p>さらに、富栄養化オンライン評価ツール「Global Eutrophication Watch」を開発し、公表した。</p>
	環日本海海洋環境ウォッチ推進費	<p>環境省が13年度に設置した海洋環境に関する人工衛星データを受信・解析するための「環日本海海洋環境ウォッチシステム」をクラウド上で運用し、情報を発信したほか、藻場マッピングの機能を追加し、システムの維持管理を行った。</p>
	地域活動センター(RAC)の運営	<p>特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター(GEARAC)に指定されているNPECの地域活動センターとしての活動を推進するため、オンラインで調整・助言会合の開催や他のRACの会合に参加した。</p> <p>また、環境研究総合推進費新規課題として採択された「気候変動による富山県の水・栄養塩循環への影響評価と適応策の検討」に関し、富山大学や研究分担機関と連携し、研究を進めた。</p>

表7-139 環日本海地域との国際交流の概要（4年度）

国 際 交 流 の 概 要
交流先（主たる会場） — （オンライン開催） 交流人数：1名 交流期間：5月18日 交流目的：Forum on Smart Oceanへの参加
交流先（主たる会場） — （オンライン開催） 交流人数：27名（高校生11名、指導者2名、スタッフ10名） 海外：46名（生徒のみ） 交流期間：8月8日、9日 交流目的：北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業の実施
交流先（主たる会場） — （オンライン開催） 交流人数：1名 交流期間：9月15日 交流目的：北太平洋海洋科学機関有害藻類部会（PICES S-HAB Bussiness Meeting）への参加
交流先（主たる会場） — （オンライン開催） 交流人数：1名 交流期間：9月25日、28日 交流目的：北太平洋海洋科学機関海洋環境部会（PICES MEQ Meeting）への参加
交流先（主たる会場） — （オンライン開催） 交流人数：2名 交流期間：12月14日～15日 交流目的：第10回アジア/第19回日韓 海色国際ワークショップ(AWOC/KJWOC)への参加

注 4年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、交流がオンラインで実施されました。
 そのため、交流人数は、オンラインによる富山県サイドからの参加者数及び海外からの参加者数（明確に計数できるものに限る。）を示します。



